

371
481

日支事變寫真帖前篇

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始





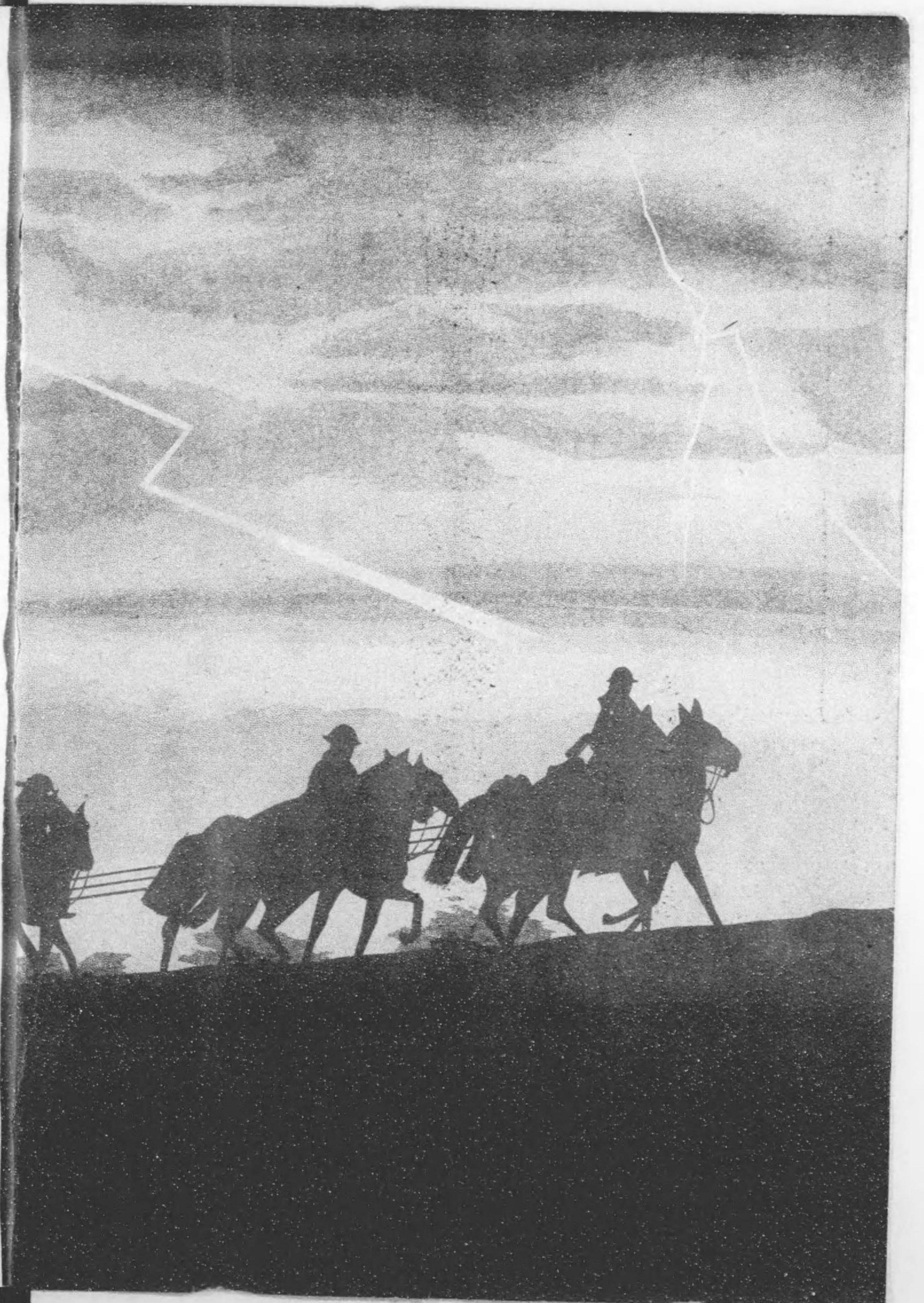
日支事變大寫真帖

非常時國民性に合つた

東京明治天皇聖德奉讚會

編

前



本會總裁宮中顧問官子爵三室戸啓光閣下謹書

明治天皇御製

帝とあらは

火よあはれ

心よなほ

かみよのやがて

大和のまゝ 飛

宮中顧問官子爵三室戸啓光謹書

上海派遣軍最高指揮官 松井石根大將陣中揮毫

月照陣雲白
星明我馬嘶
交鋒影炮聲
炮聲炮聲
倚破窓然出聲

中秋節陣中
石根



戦時議會殿に開院式

憲政史上一年に三回眞に非常時日本の一頁を画す、第七十二臨時議會は暴戻極まる支那を膺懲する軍事豫算と幾多の非常時立法を審議する歴史的臨時議會は初秋紺碧の空高く澄んだ九月四日、長くも天皇陛下の親臨を仰いで白亜の新議事堂に！ 寫眞は開院式行幸の鹵簿

露光量違いの為重複撮影





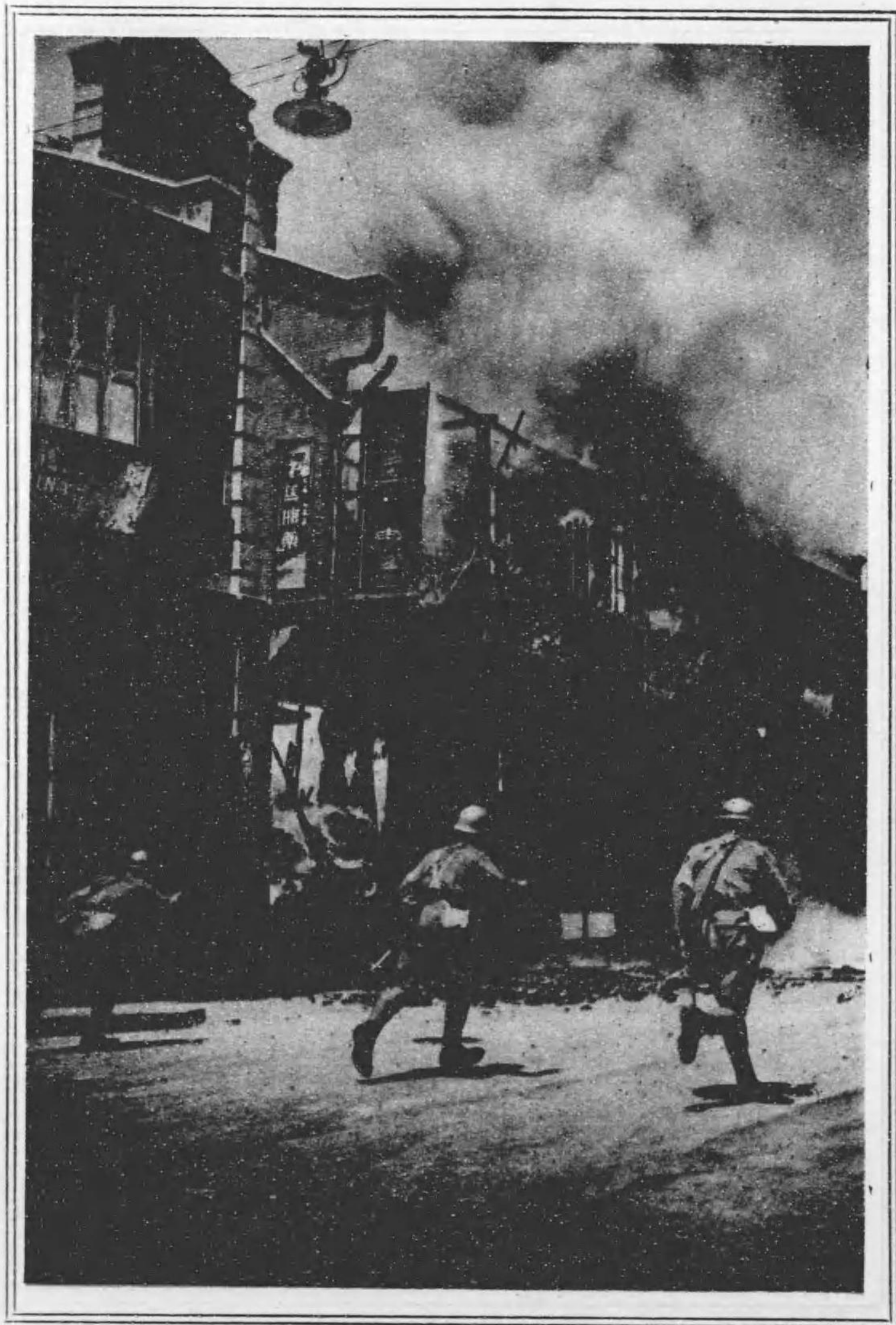
昭和十一年三月
東京府立第一高等学校
文芸部



着到軍皇たつ待にち待

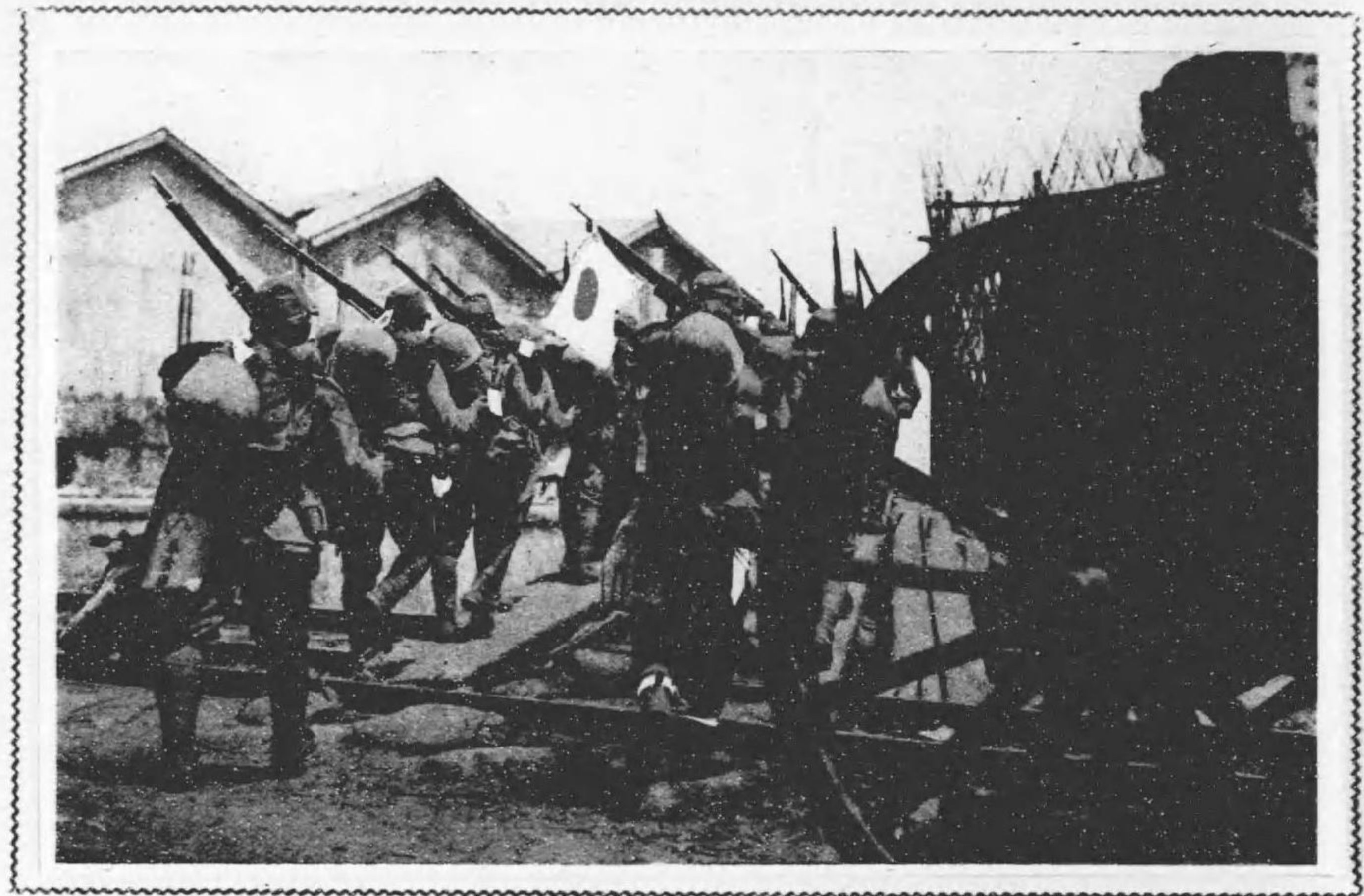
隊部鋭精が我の着到に〇〇てれら迎に嵐の歳萬
を旗章日に手に手・達供子の民留居が我は眞寫
がび慶と激感もに中の調歩い強力しざかり振
。りな景光のつ立

砲煙雨の下のを



勇猛果敢なる海軍陸戦隊は上海戦線の猛火の中に出没する支那便衣隊を
目掛けてピストルを打つゝ追跡する光景

(朝日新聞社撮影)



凄壯以て
鬼神を泣かしめる

噫々!!!
壯絶を極めた敵前上陸を敢行し
日章旗を掲げて前線に急ぐ皇軍決死
隊の勇士



るな敢果
陸上前敵

上海〇〇に於て決死的敵前上陸を見事にしどげ
た上陸決死隊員が尙も盛に炸烈する砲弾の中を
悠々と前線に進撃する光景にしてたゞく感激
と感謝の念に堪へません



海軍の精銳

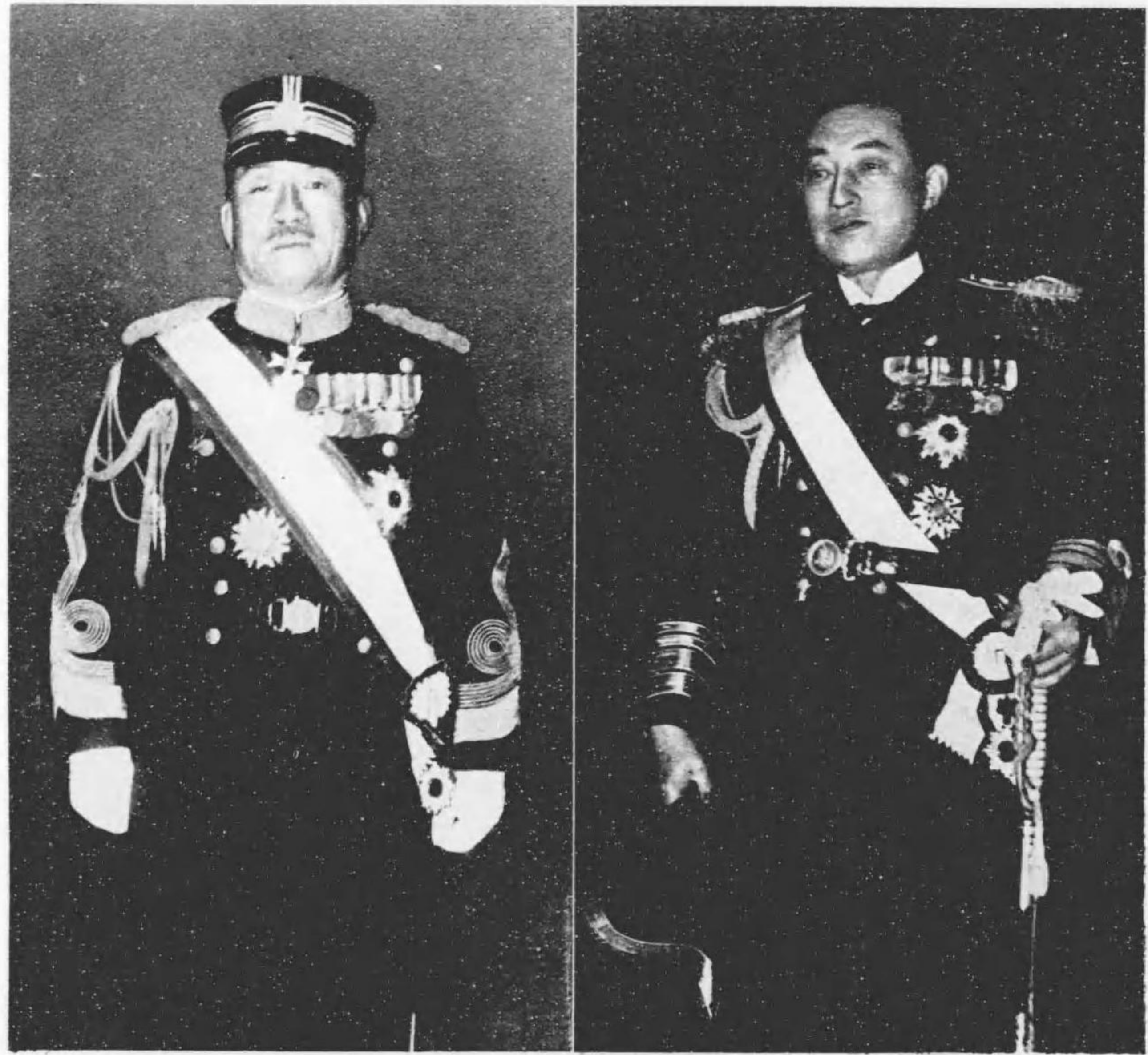
上海驛頭を壓して軍艦旗燦として輝き渡り時には支那の不法射撃を受け止む
なく之れに應戦遂に敵を屈服せしむ圖は威風堂々制海權を握る我が軍艦○○



参謀總長要職にあらせられる
閑院宮載仁親王殿下



海軍軍令部長の重職にあらせられる
伏見宮博恭王殿下



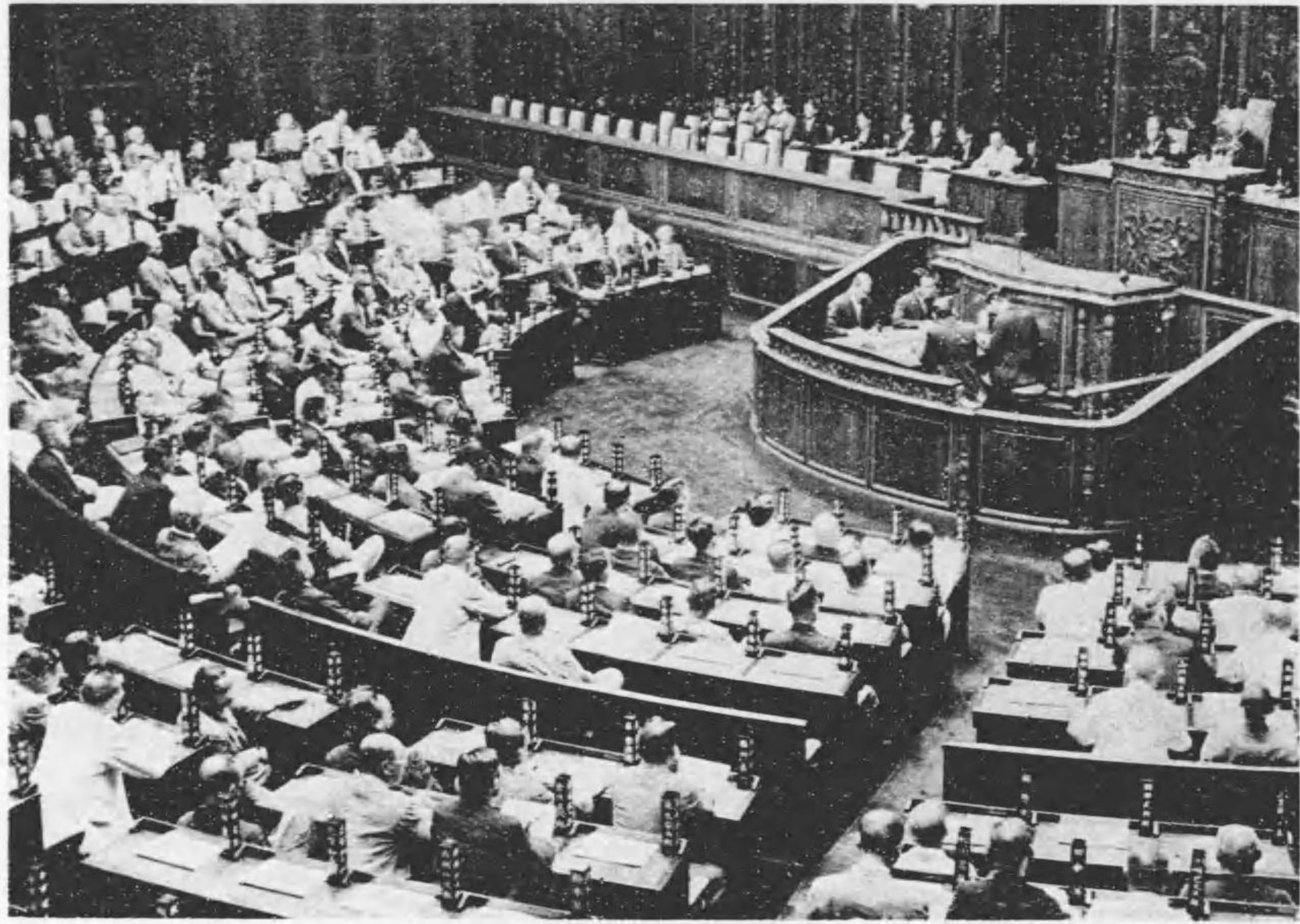
全國民の與望を
擔つて難局に立つ
陸海軍
兩大臣

上圖右は
米内海軍大臣
上圖左は
杉山陸軍大臣



舉國一致内閣

上圖は北支事變の重大化に鑑み帝國政府の態度決定の爲め七月十一日首相官邸に於て近衛首相を始め廣田外相杉山陸相米内海相加賀屋藏相の五相會議が前後二時間に亘つて開催された上圖左は近衛首相右は廣田外相



東亞の平和を御軫念
優渥なる勅語を賜ふ

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク
帝國ト中華民國トノ提攜協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ
共榮ノ實ヲ擧クルハ是レ朕カ夙夜軫念措カサル所ナリ中華民國
國深ク帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘ遂ニ今次ノ事變ヲ見
ルニ至ル朕之ヲ憾トス今ヤ朕カ軍人ハ百戰ヲ排シテ其ノ忠勇
ヲ致シツツアリ是レニ中華民國ノ反省ヲ促シ速ニ東亞ノ平
和ヲ確立セムトスルニ外ナラス
朕ハ帝國臣民カ今日ノ時局ニ鑑ミ忠誠公ニ奉シ和協心ヲ一ニ
シ贊襄以テ所期ノ目的ヲ達成セムコトヲ望ム
朕ハ國務大臣ニ命シテ特ニ時局ニ關シ緊急ナル追加豫算案及
法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷
贊ノ任ヲ竭サムコトヲ努メヨ

昭和十二年九月四日

御 名 御 璽

各 國 務 大 臣 副 署

戰時體制下臨時議會成立



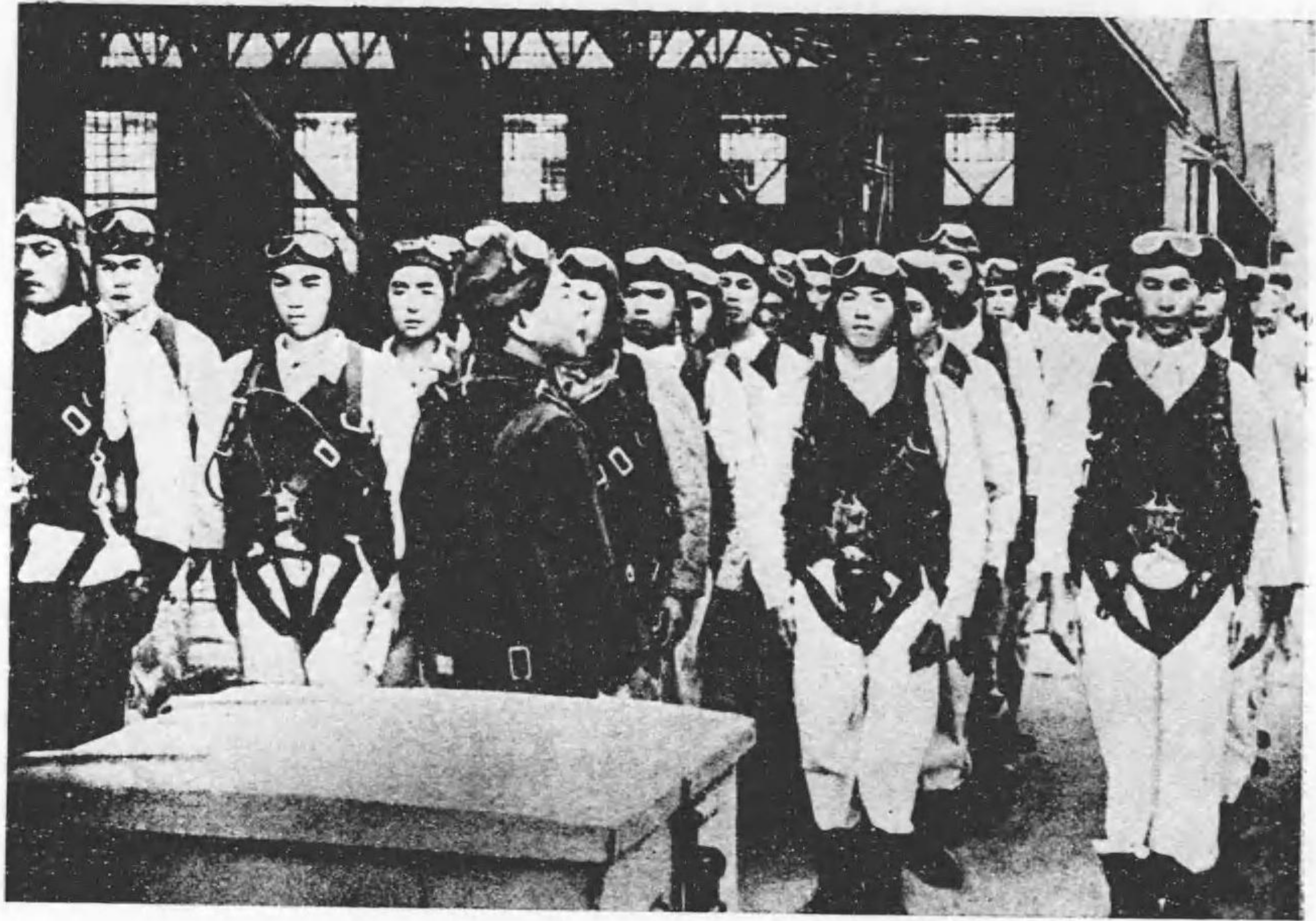
嚴然たる哨兵

北支〇〇方面の支那民家屋上にあつて敵陣を監視する我が哨兵で遙か上空の飛行機は支那軍動靜を偵察しつゝある我が空軍の活動



北支に活躍の我が空軍

神速果敢各方面に威力を發揮し一舉敵陣めがけての空爆は一瞬たりとも涙なしでは居られぬ
寫眞に雷雨をついて南苑爆撃の光景白煙は爆破されたる敵の兵營

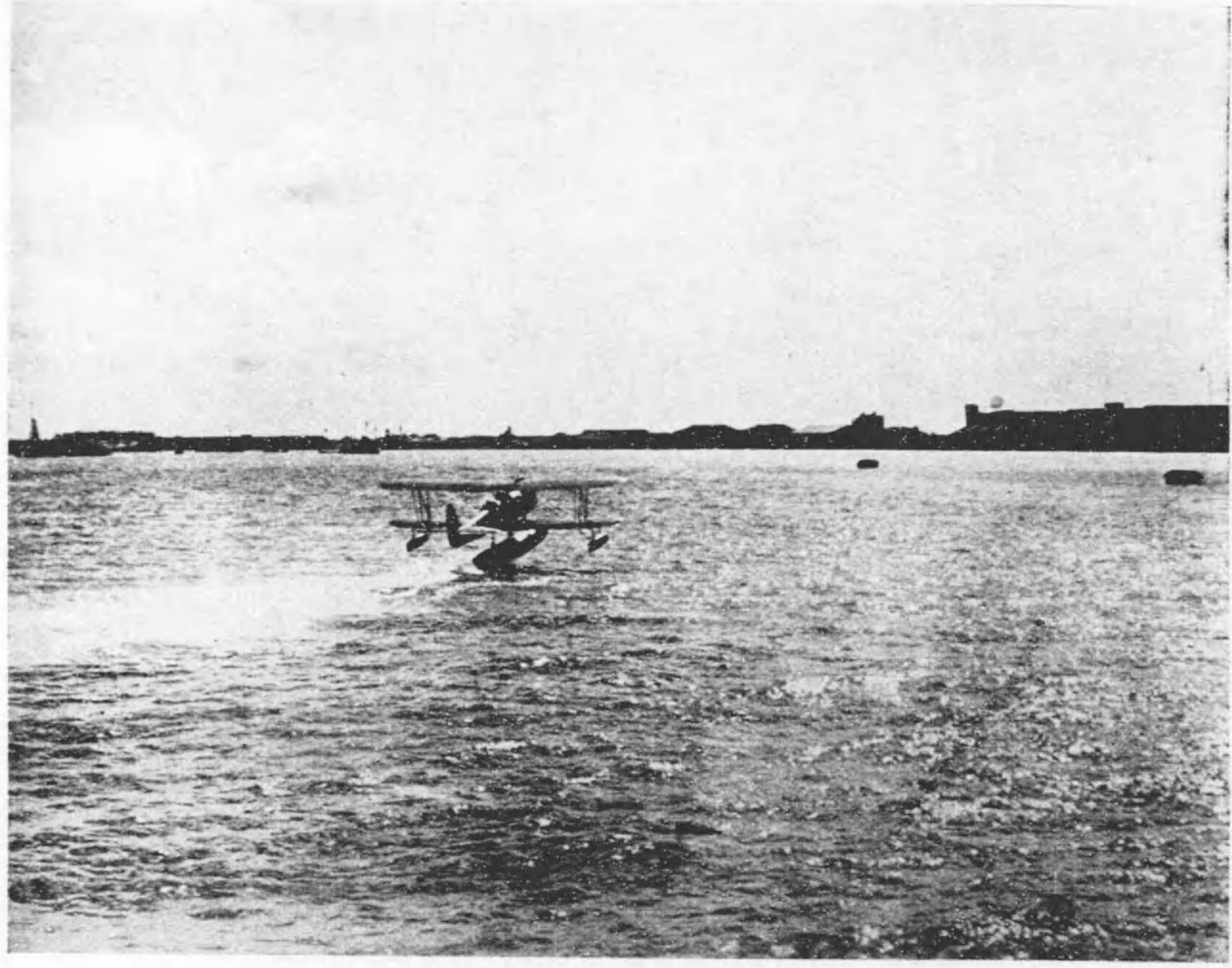


我が艦種の威容

破れかぶれの蒋介石は長期抗日の方略を決し全線に愈々進撃命令を發し中央軍の出動と共に日本軍攻撃の火蓋を切ることとなり以て全軍を上海に集中し先づ空中爆撃を執行した我が方も自衛上止むを得ず應戦爰に勇壯なる空中戦は展開された我が海軍の〇〇空軍は悪天候を衝いて蘇州、杭州、漢口、南昌、南京の各飛行場の爆撃を敢行敵に多大の損害を與へたり

上圖は勇躍爆撃に向ふ我が海軍〇〇航空隊出發前の訓示

(海軍省貸下)



〇〇艦上機勇躍出動

命令一下

一刻も早く敵陣懐滅を目ざして

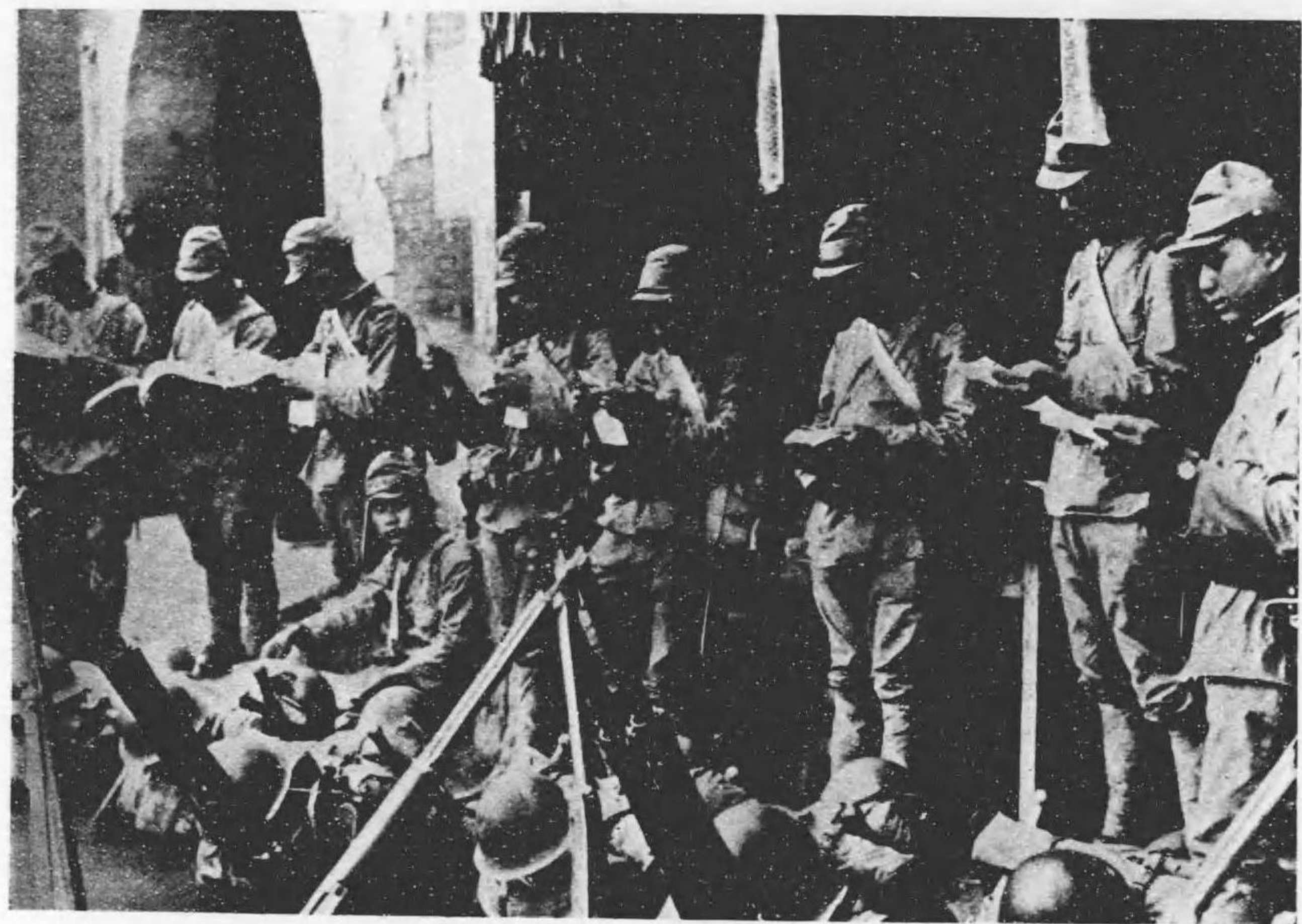
今や離水せんとする我が海軍飛行機

(海軍省御貸下)



皇軍入城

皇軍入城に日章旗を振つて迎へる支那良民

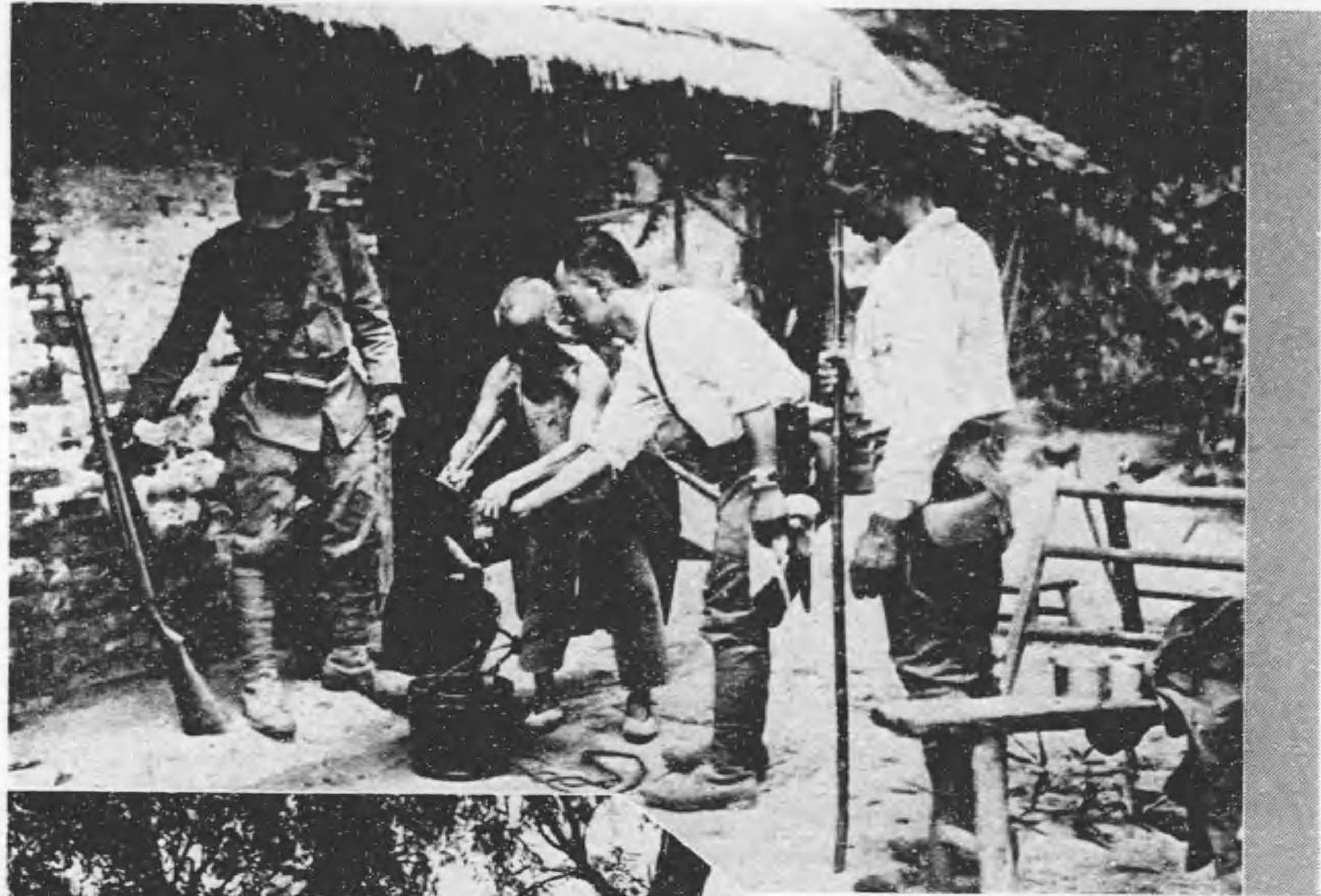


戦線に於てなつかしき
たよりに耽る將兵たち

陣中にて何を於ても先づ

樂しきは故國よりの第一信我先きにと

胸をおどらせ開封の瞬間感慨無量の光景



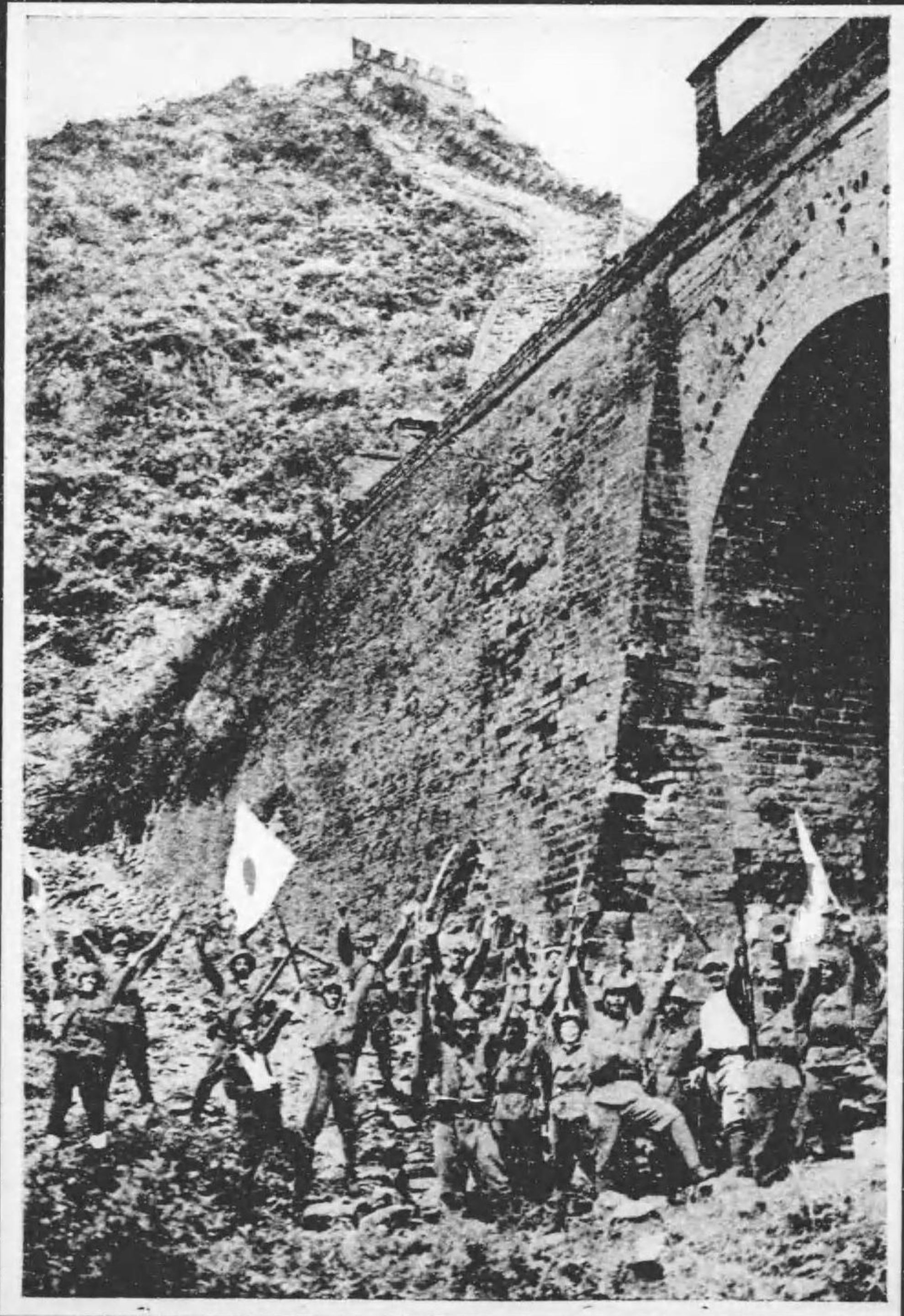
北支楊家宅方面に於て

飲料水に悩む我が將兵に對し

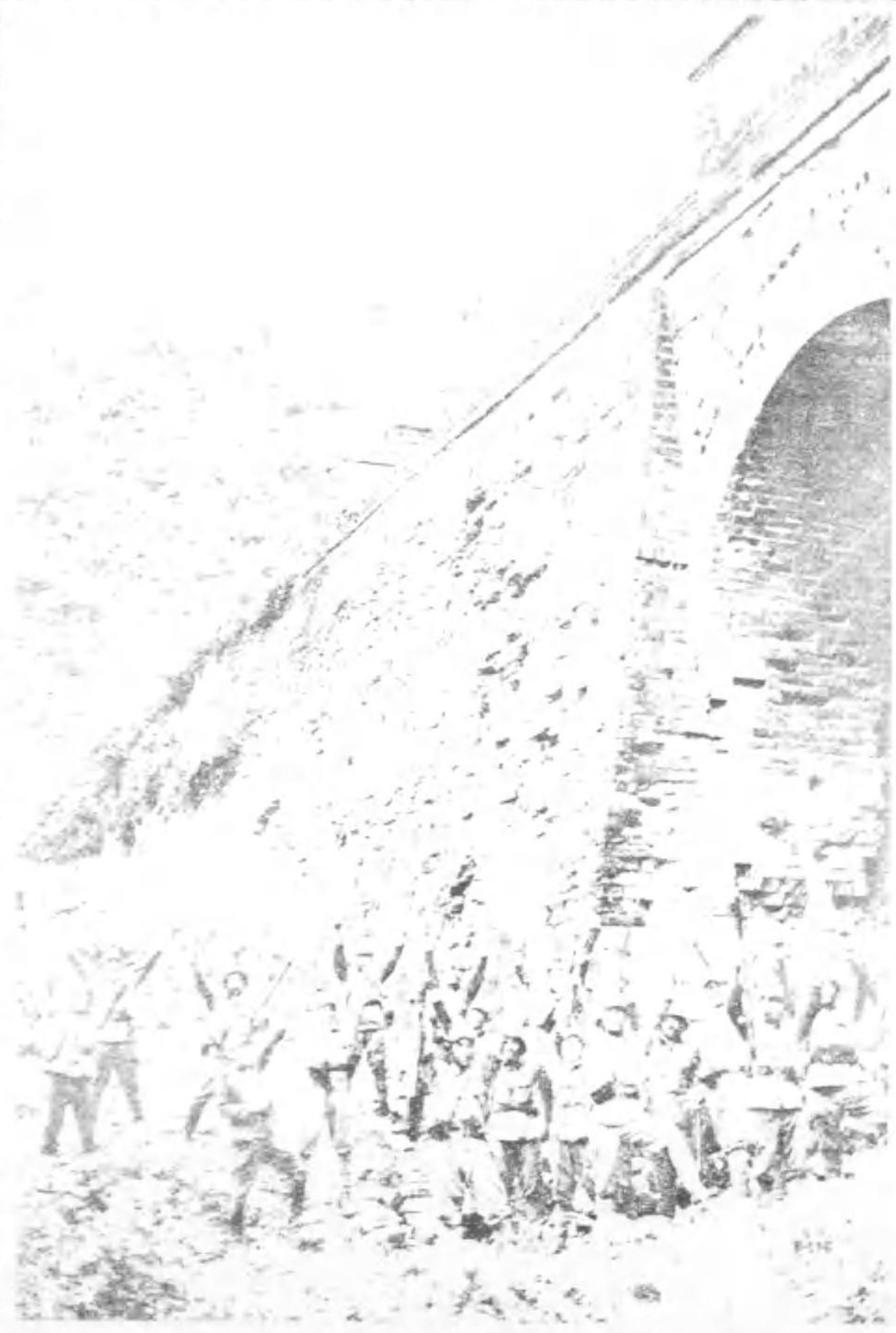
支那老婆より水を貰ふるはしい所の光景

左圖は兵士と仲よく話をする支那良民の子供達

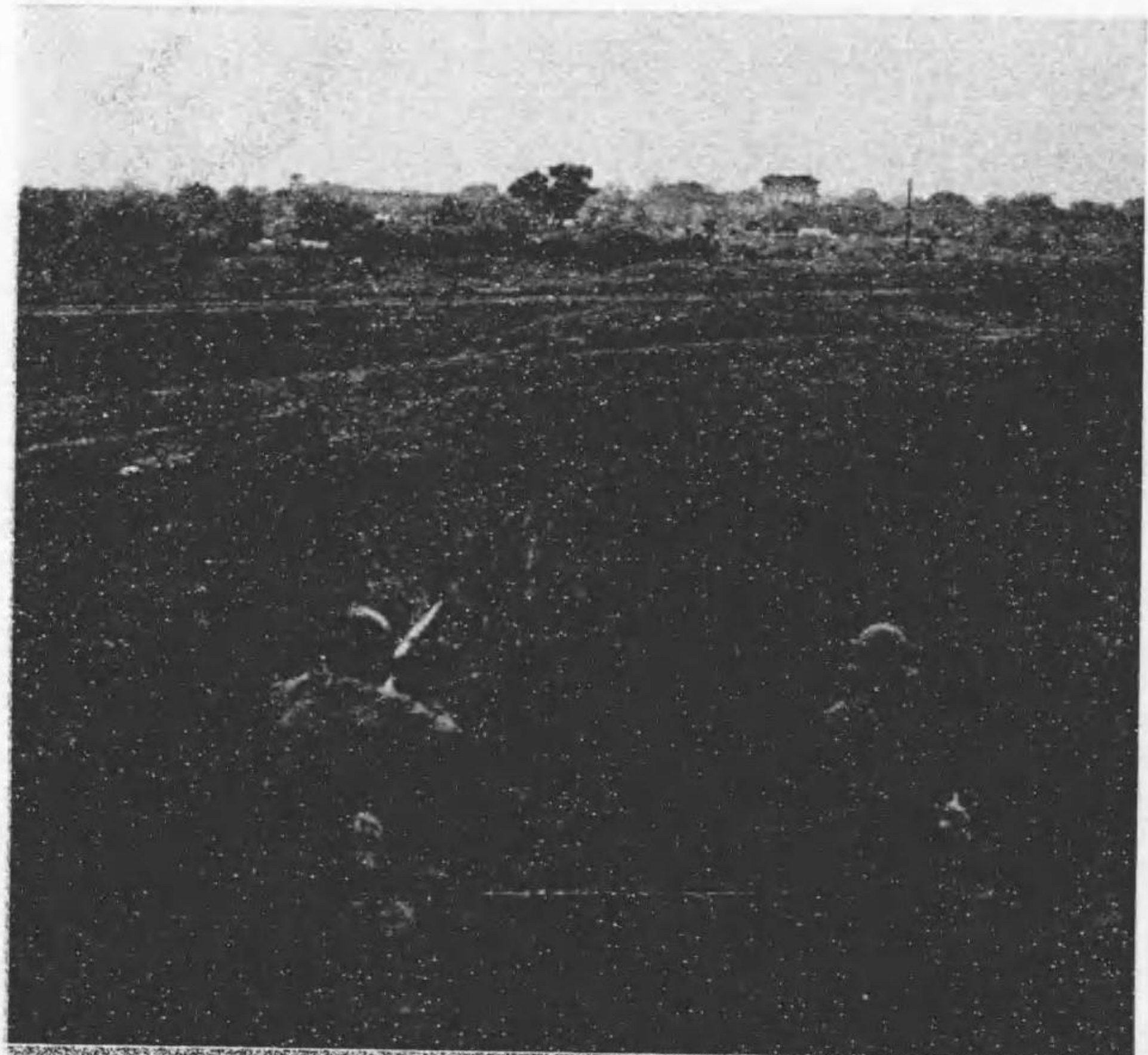
露光量違いの為重複撮影



壯烈な山岳戦



北支の戦局は第二段に入つて戦線は平緩、平漢、津浦の三線方面に延び
山雨まことに至らんとして風機に充つる状態である
寫真は天險を越え前進又前進、急追又急追、遂に我軍の手に歸した居所
關の要害占據にして極聲天に轟くの光景



昭和十二年七月七日夜わが支那駐屯部隊の豊臺部隊一部が蘆溝橋北方地區で夜間演習中午後十一時四十分ごろ蘆溝橋の支那兵から突然數十發の射撃を受けた。同部隊長は直に演習中止を命じ支那側に不法を勧告同時に撤退を要求した。然るに其の交渉進行中八日午前四時すぎ龍王廟附近及び永定河西側の長辛店附近の高地から支那軍は再び集結中の我が皇軍に對し迫撃砲及び小銃をあげせかけ不法挑戦を敢てしたので我が軍もやむを得ず自衛上これに應戦して龍王廟を占據した。この戦闘に於て敵は二十數名の死者少くとも六十名の負傷者出し我が方も十數名の死傷者を出した。これが今回北支事變の發端である。



上圖は豊臺戰線より宛平縣城の望樓を望む
右圖は最前線に活躍する皇軍にして事件發祥の地龍王廟、指させるは筒井部隊長

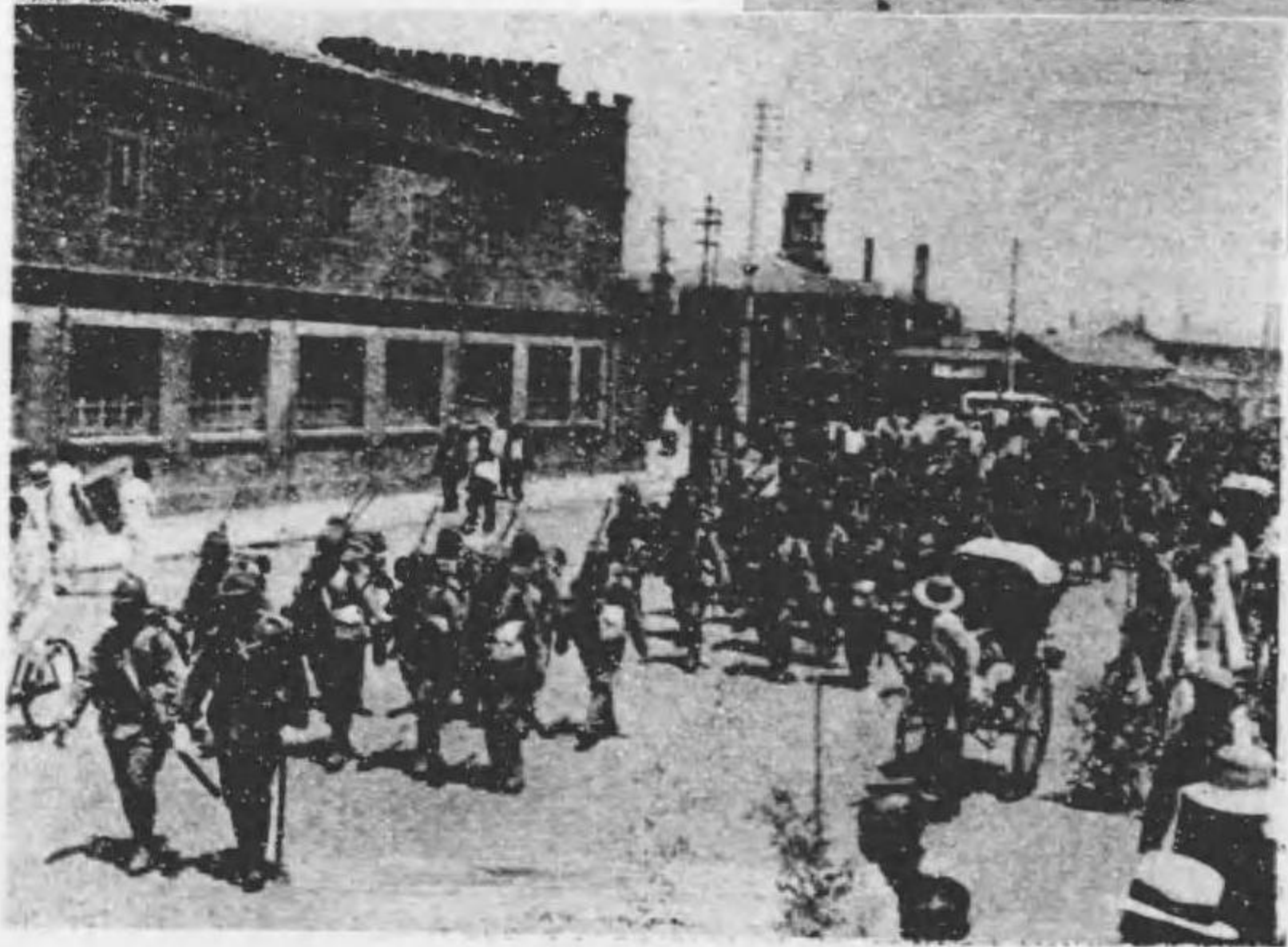
昭和十二年七月七日夜わが支那駐屯部隊の豊臺部隊一部が蘆溝橋北方地區で夜間演習中午後十一時四十分ごろ蘆溝橋の支那兵から突然數十發の射撃を受けた。同部隊長は直に演習中止を命じ支那側に不法を勧告同時に撤退を要求した。然るに其の交渉進行中八日午前四時すぎ龍王廟附近及び永定河西側の長辛店附近の高地から支那軍は再び集結中の我が皇軍に對し迫撃砲及び小銃をあげせかけ不法挑戦を敢てしたので我が軍もやむを得ず自衛上これに應戦して龍王廟を占據した。この戦闘に於て敵は二十數名の死者少くとも六十名の負傷者出し我が方も十數名の死傷者を出した。これが今回北支事變の發端である。



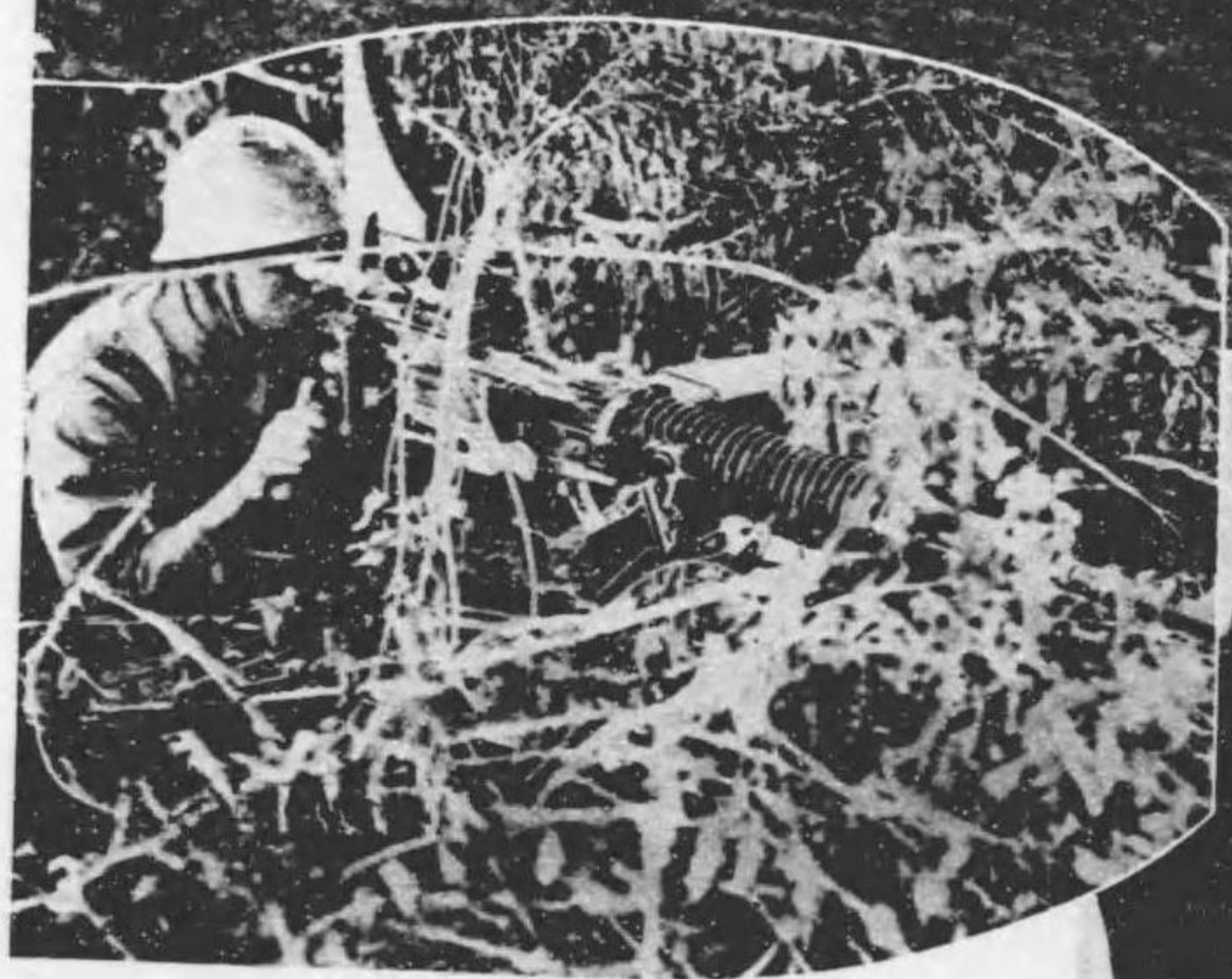
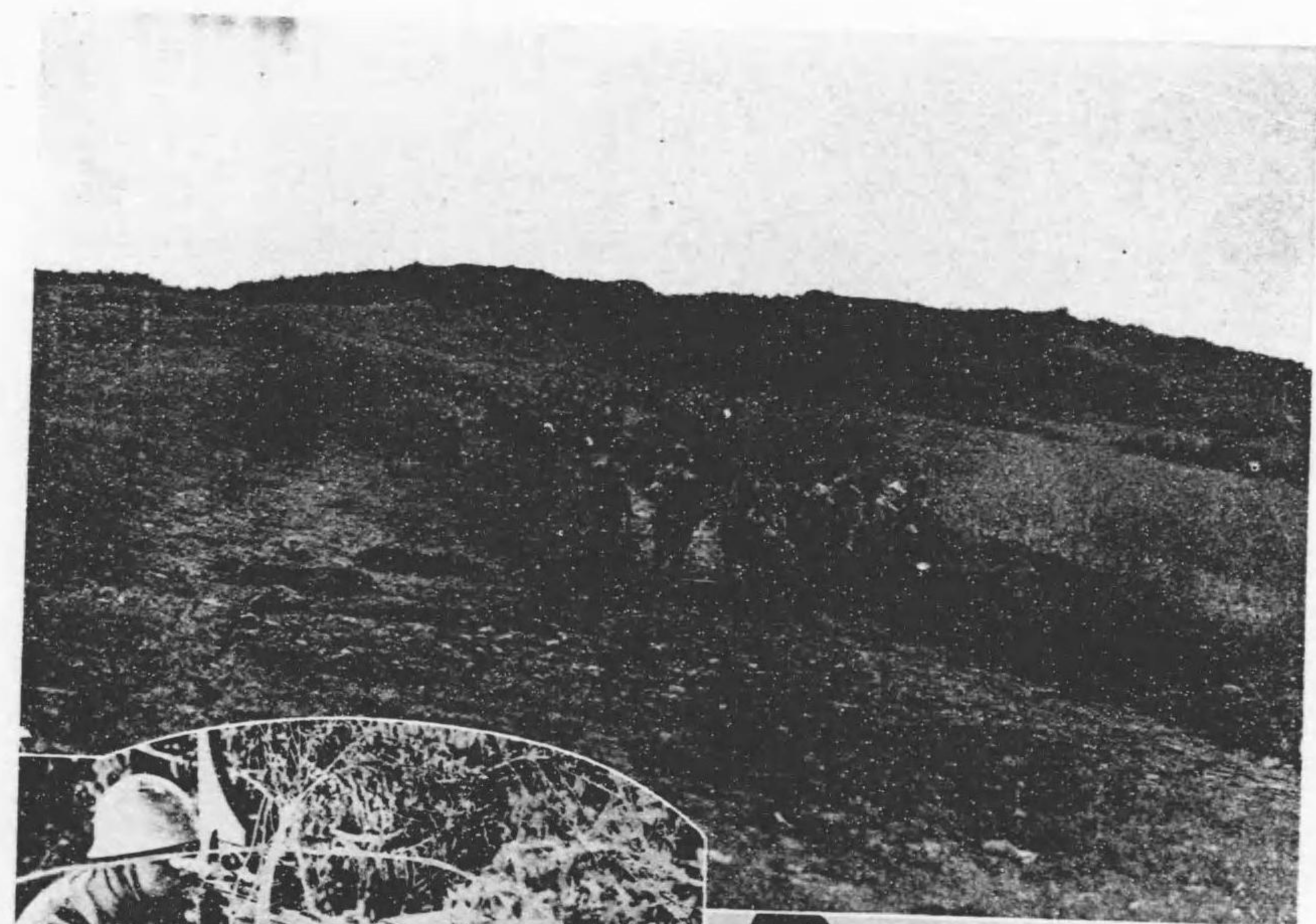
左圖は
○○に於ける最前線を警備する
○○部隊



七月廿六日
○○地に於ける
我が皇軍の精銳
部隊の行進

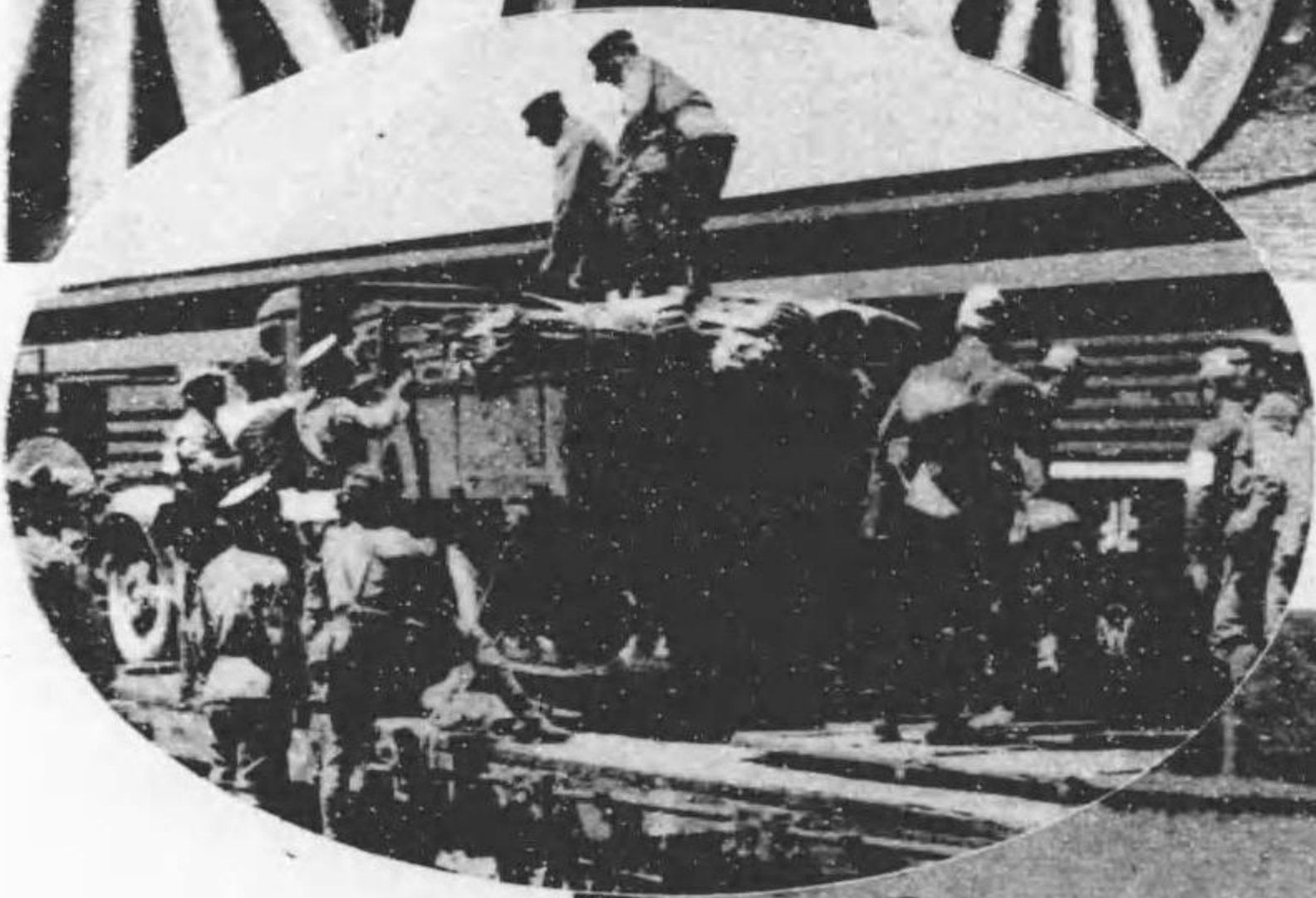
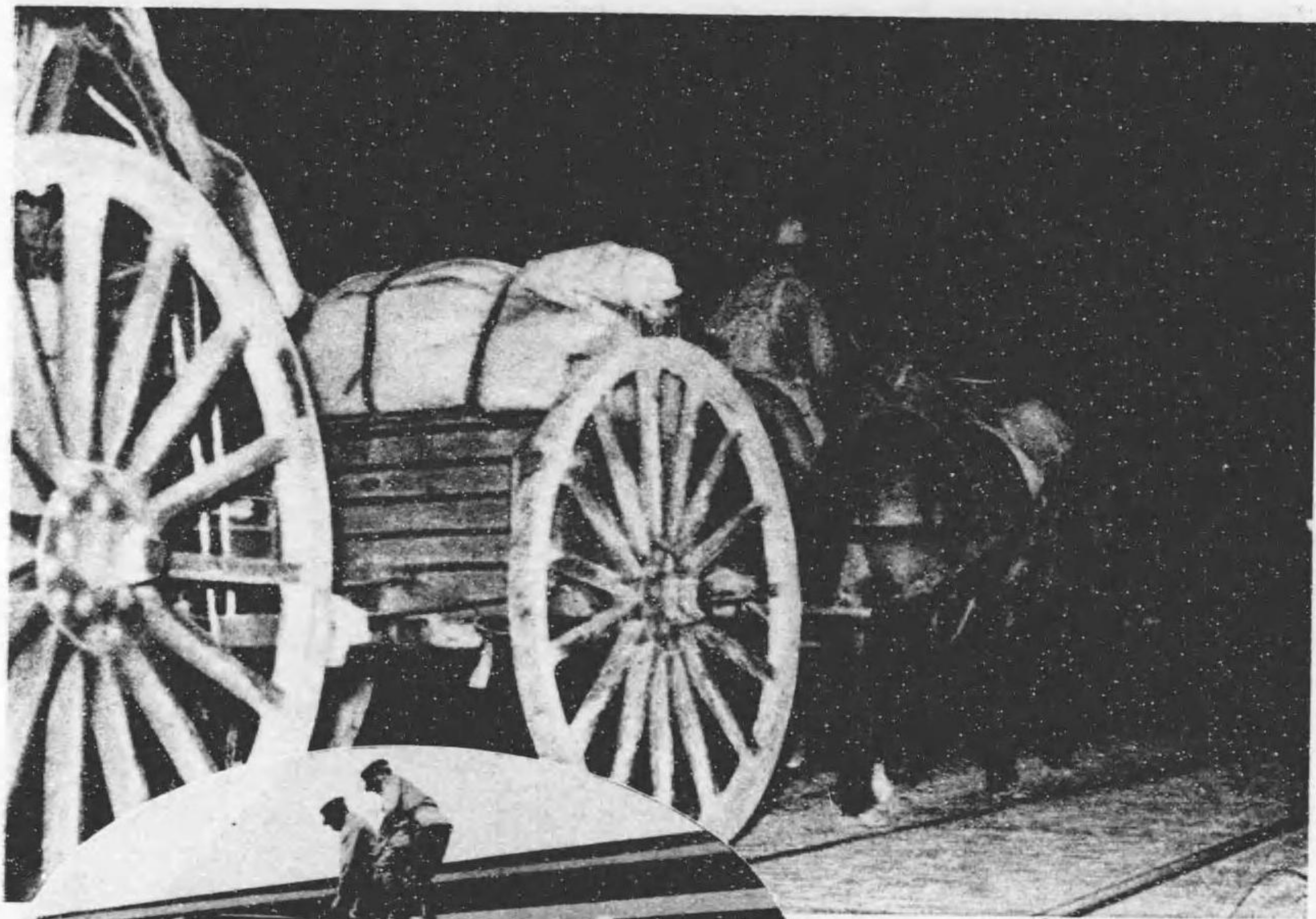


七月二十五日
○○驛に到着の
皇軍○○部隊



上圖は
○○○○における我が○○隊
陣地
中圖は
最前線に活躍する筒井部隊機
關銃隊
右圖は
七月十八日○○にて前線警備
の歩哨兵





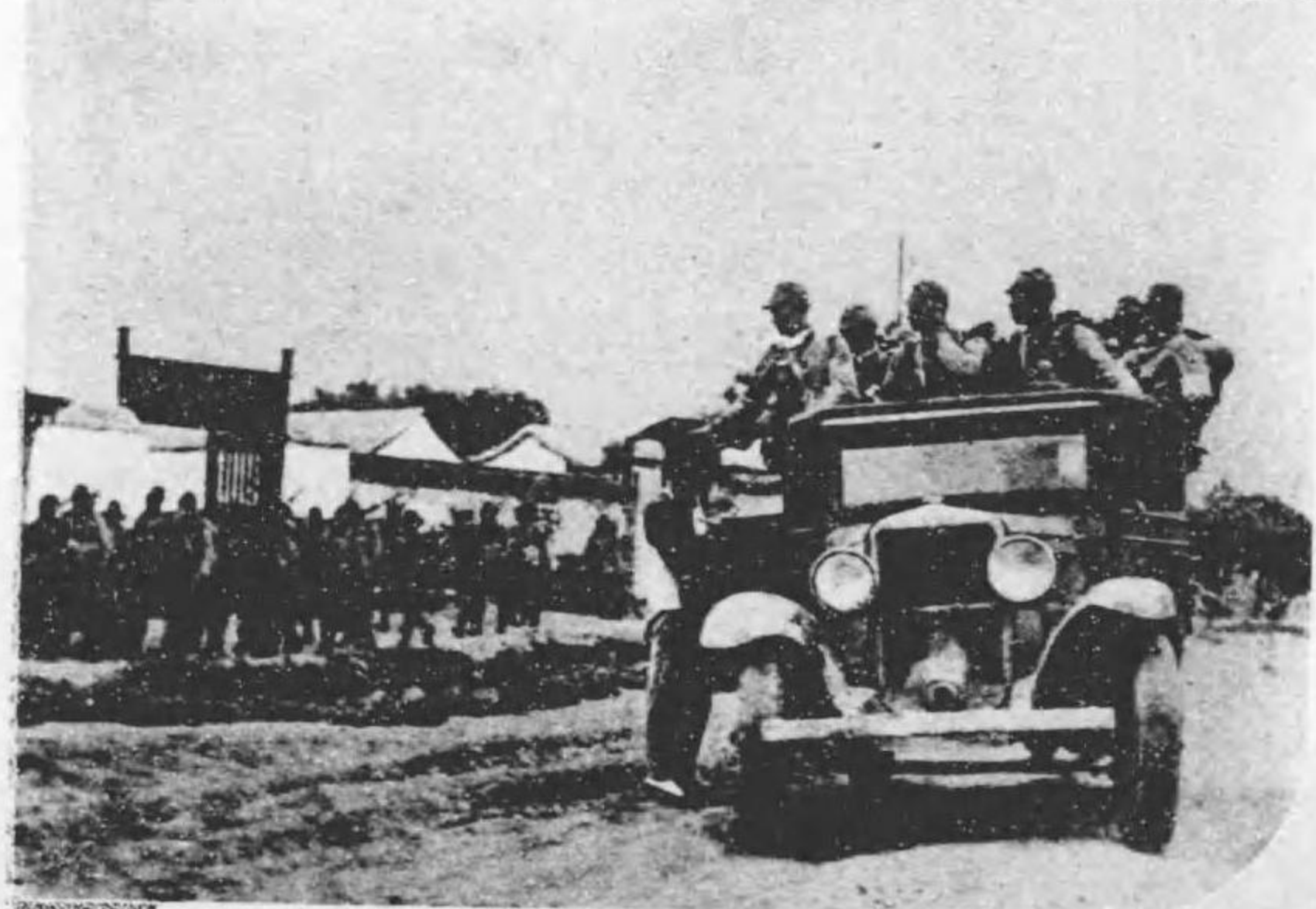
深夜の某街頭を
第一線に急ぐ我が皇軍
(朝日新聞撮影)



上圖は〇〇驛にて
トラックに積込む〇〇部隊
の我軍の防禦工作



右圖は
出動命令を受ける我が〇〇部隊



左圖は
急迫に急迫難路をトラック
にて出動前進の〇〇部隊



右圖は七月廿三日
〇〇に於ける皇軍陣地

下圖は
七月廿六日
〇〇に於ける
我が皇軍歩兵隊



七月廿六日愈々戦闘開始
寫眞は前線に於ける
我が〇〇機關銃隊の活動

七月廿六日戦線突破の河邊部隊と
河邊部隊長の觀戰



上圖は蘆溝橋前方の敵狀偵察の我が將校斥候
右圖は
最前線に於ける我軍の陣地



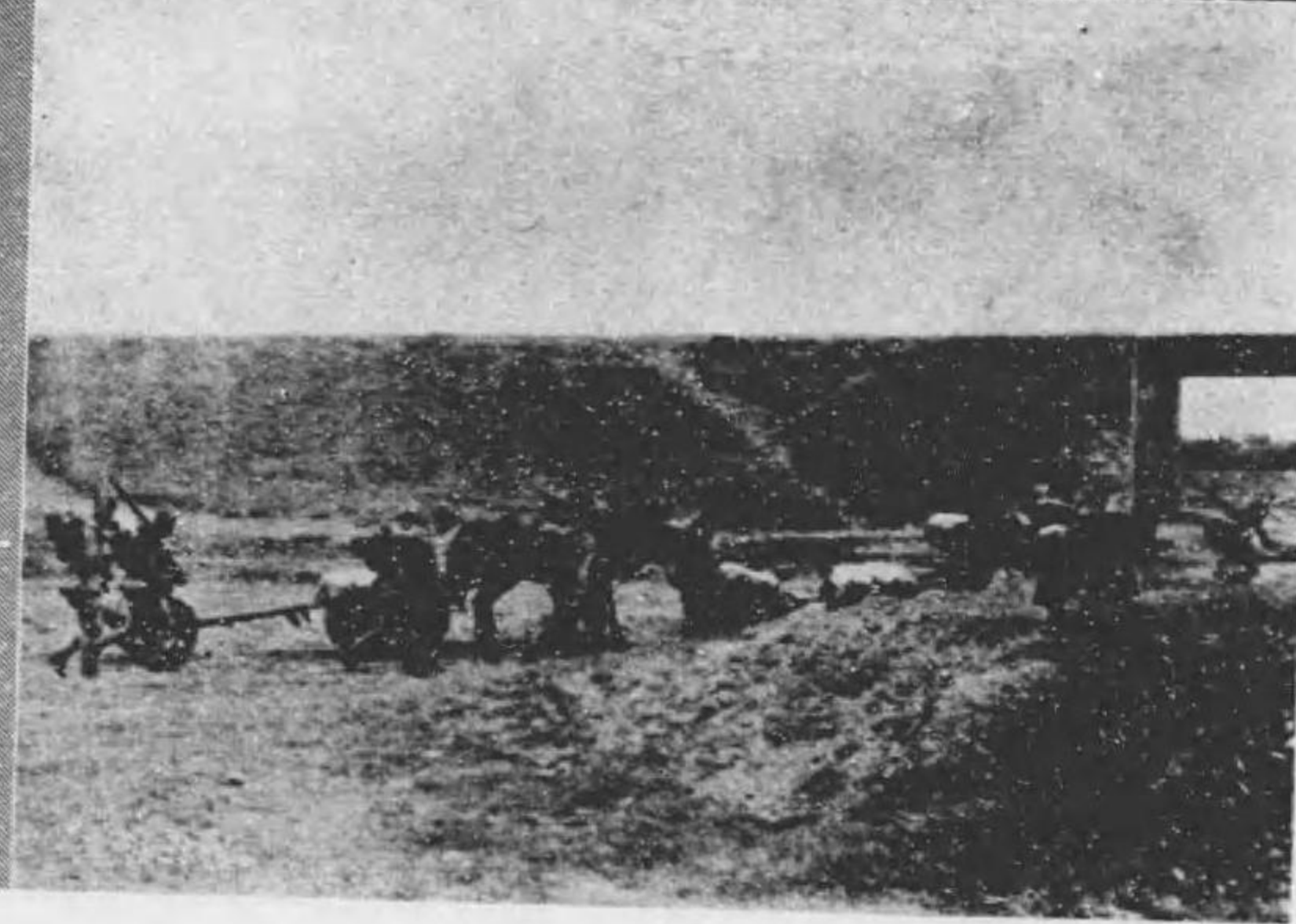
萬歳天に轟き
戦勝の喜びしたる
我が皇軍部隊



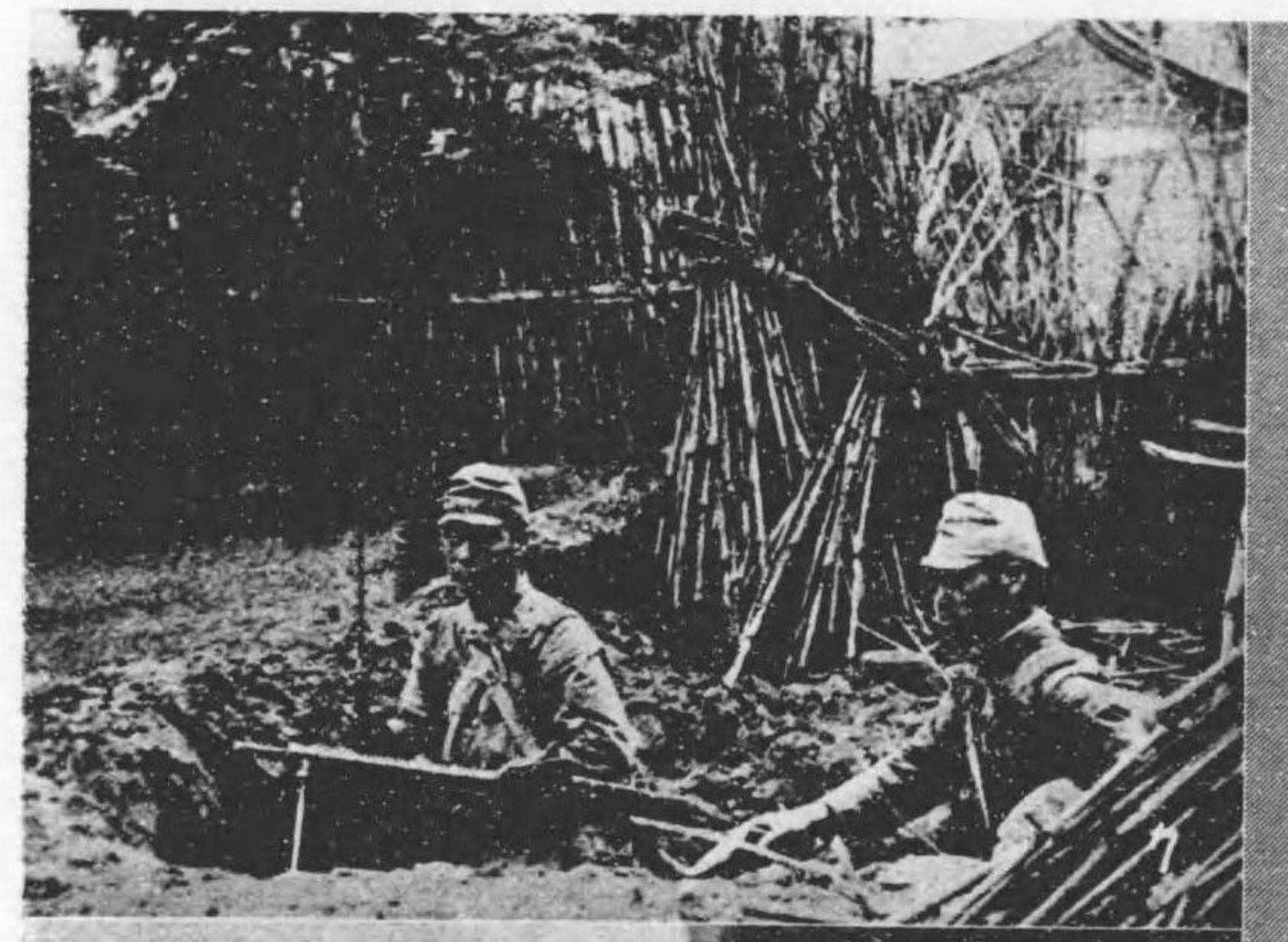
敵を押し
命令一下の
我が〇〇部隊



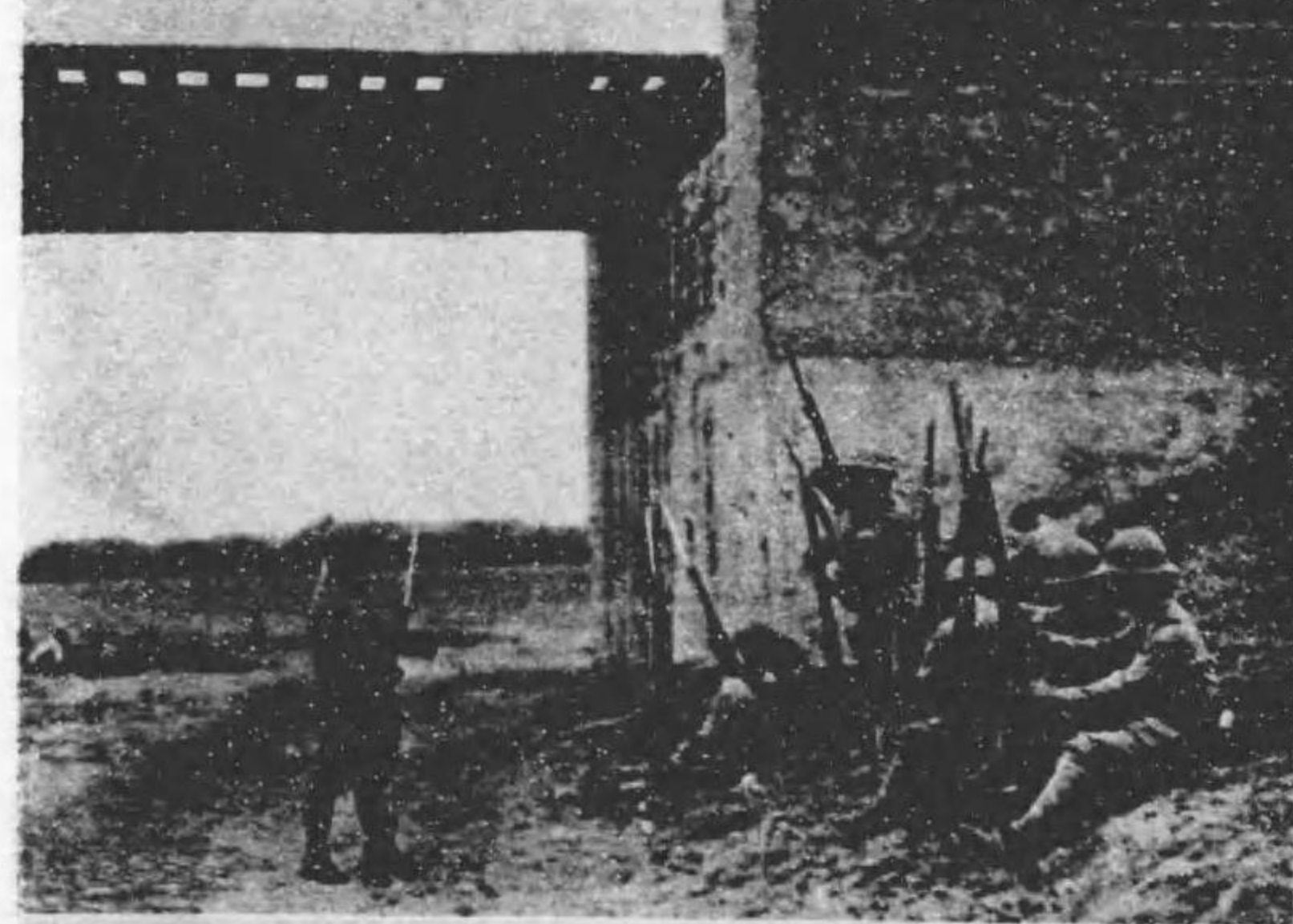
七月廿五日
鐵道線路に沿ふて
前進する〇〇附近の歩兵部隊



豊臺市中を
警備する〇〇機關銃隊



七月廿六日
〇〇〇下の戦鬪待期中の
〇〇部隊



七月廿七日
最前線の我が〇〇歩兵部隊の
戦鬪に移らんとするの光景



七月九日
停戦交渉

上圖は宛平縣城の樓門にして銃眼の影に敵の警戒兵が見える城壁の大書は抗日風潮

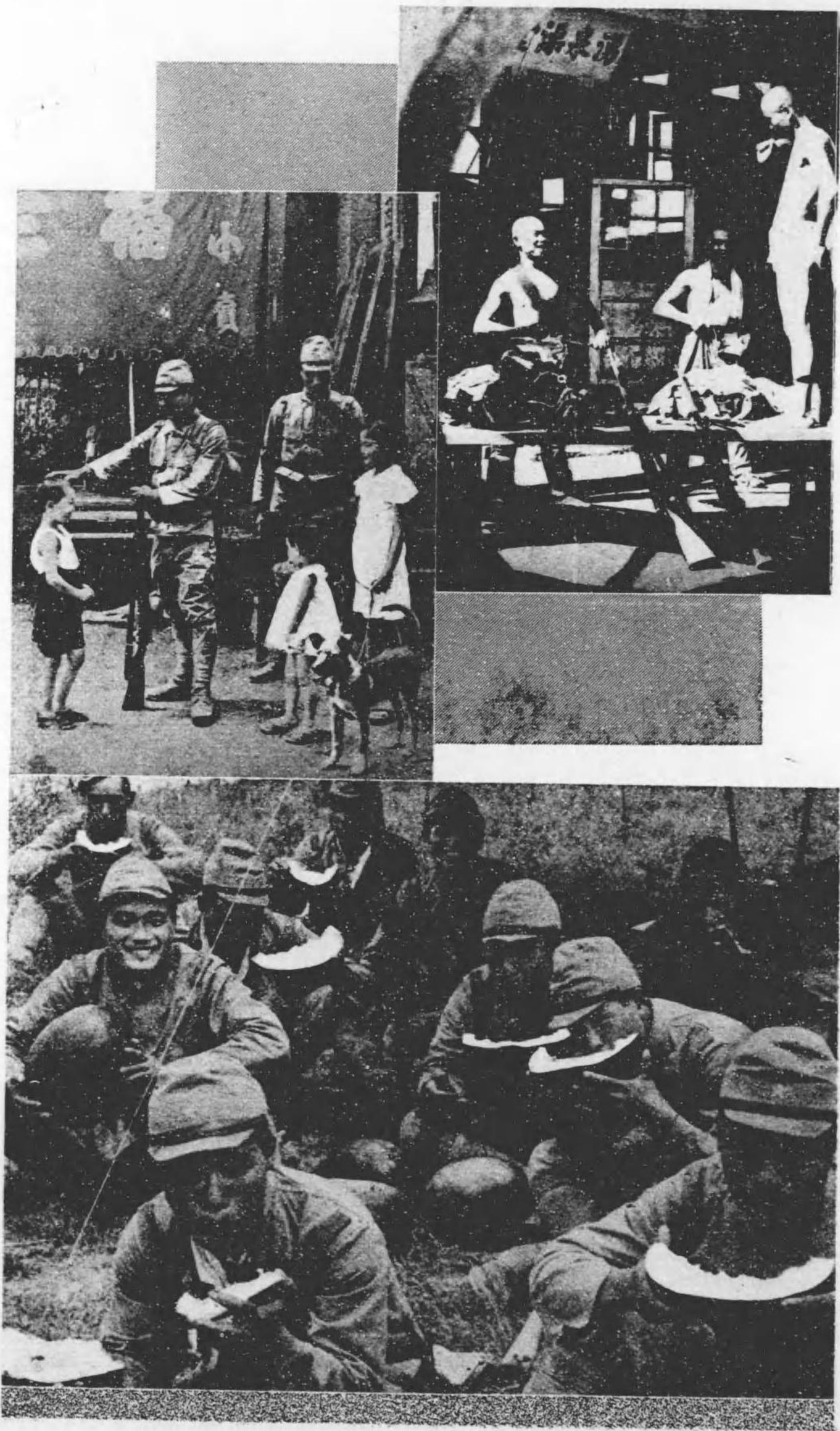


二十九軍と戦火を交へるや宛平縣城内は通行人の影も無く不氣味のうちに沈黙はつゞけられた
左圖は停戦交渉の爲め縄をよちて城内に入らんとする我軍の寺平大尉
上圖は城門を警備する廿九軍の支那兵士

久方振りにて町の錢湯で蘇生の思ひをする皇軍兵士のほがらかな気分

豊臺に於ける皇軍兵士と在留邦人の子供達のなごやかな気分

さぞ咽喉のかわくことであらううれしそうに西瓜にかぶりついでゐる兵士たち

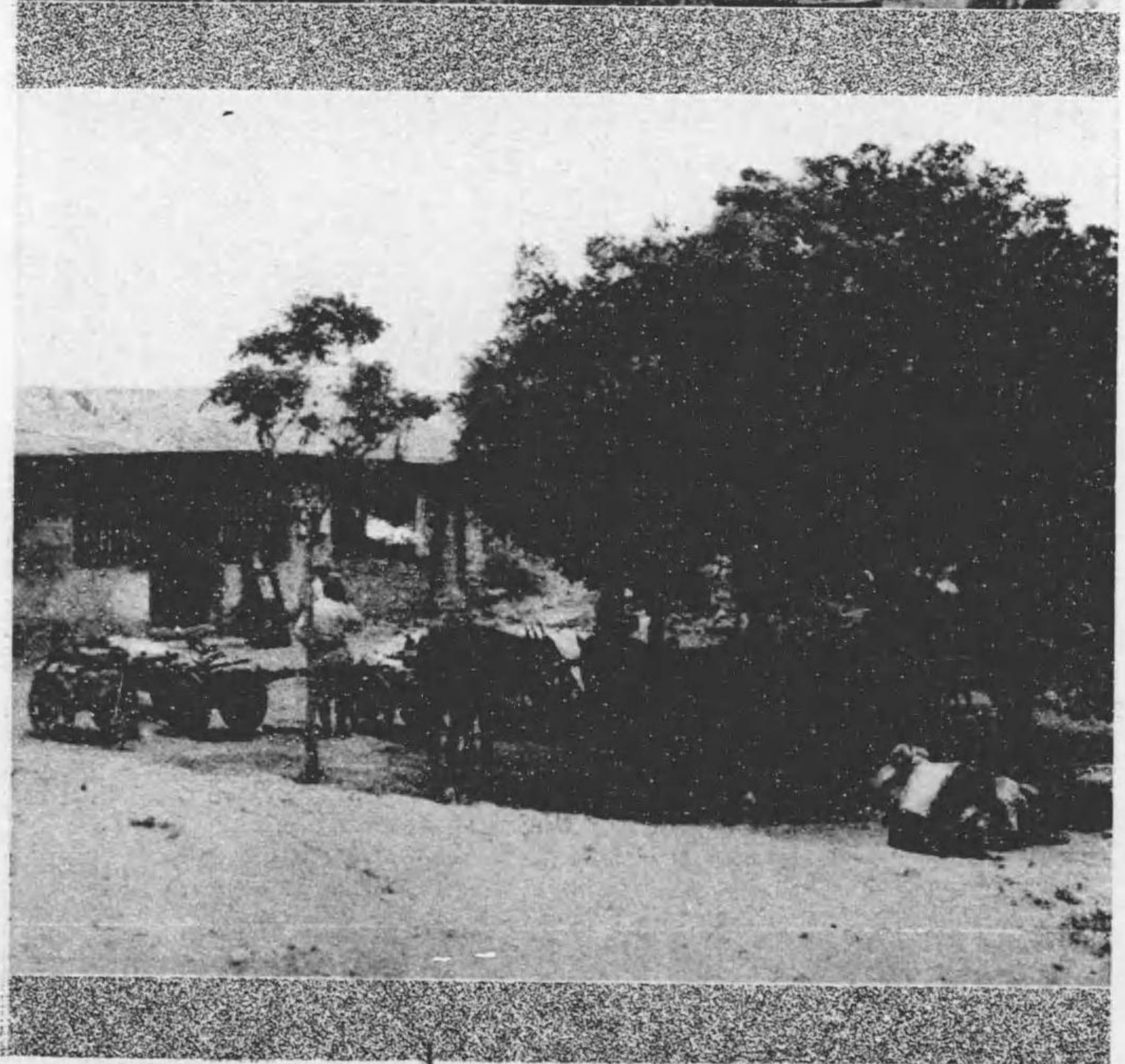


皇軍待機

炎天百三十度焼つく様な原野をよそに蘆溝橋最前線
〇〇部隊の緑蔭下の休息



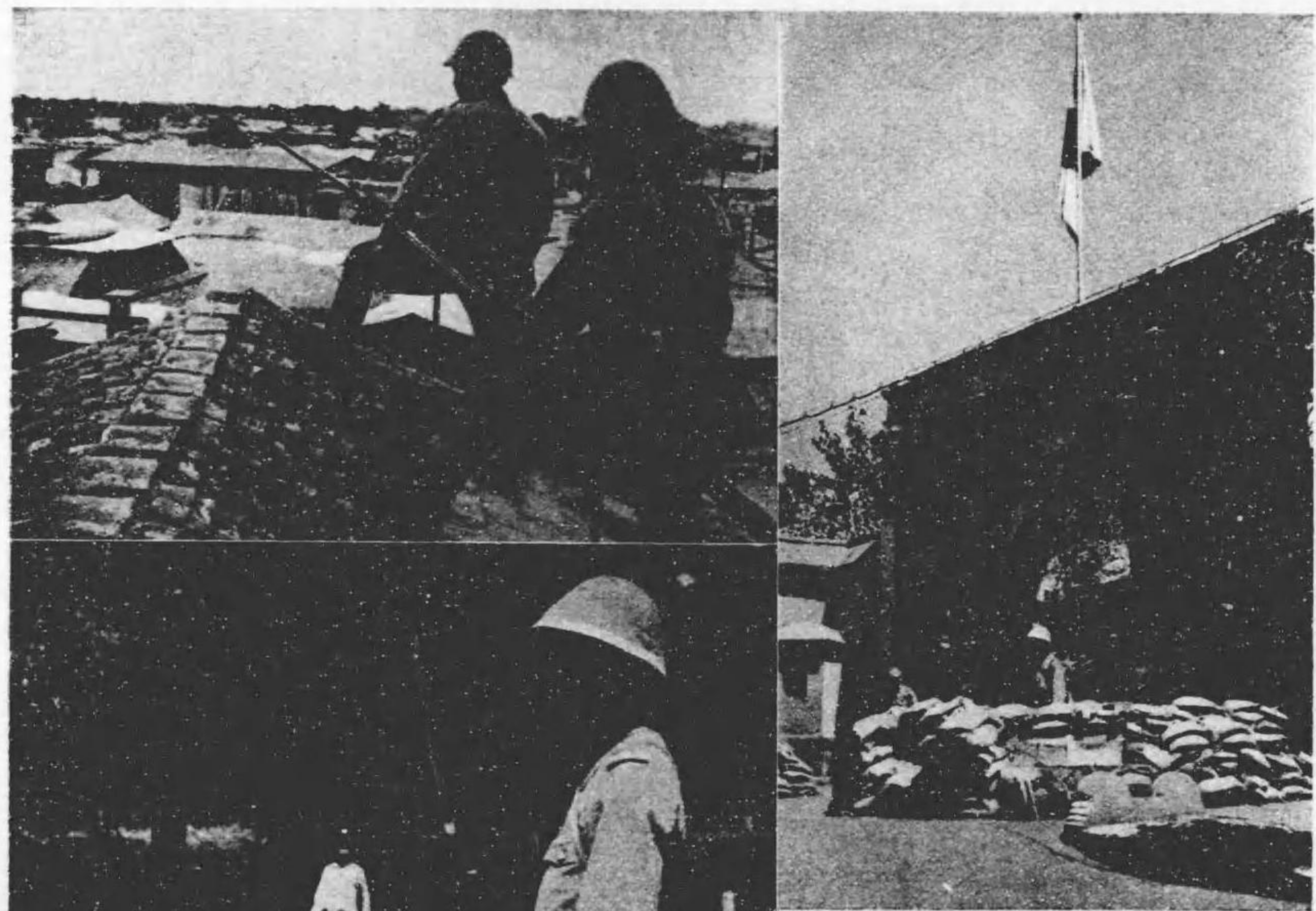
戦線近くの支那民家にて軍馬に休養を
與へてゐる我が〇〇部隊



嚴然たる我が歩哨

上部は我が〇〇駐屯軍司令部
暴戻極まる支那軍には「斷」の一字あるのみ
上岡は屋上より市中を警備する我が皇軍
中圖は危機刻々に迫る〇〇市内萬一に備へる皇軍警備兵

左圖は豊臺附近に於ける我が軍の哨兵



戦 闘 開 始



最後の通告七月二十日隠忍自重の果遂に斷乎としてたつた我が皇軍は其の第一弾を宛平縣城に向つて浴せかけ茲に兩軍とも交戦状態にはいつた

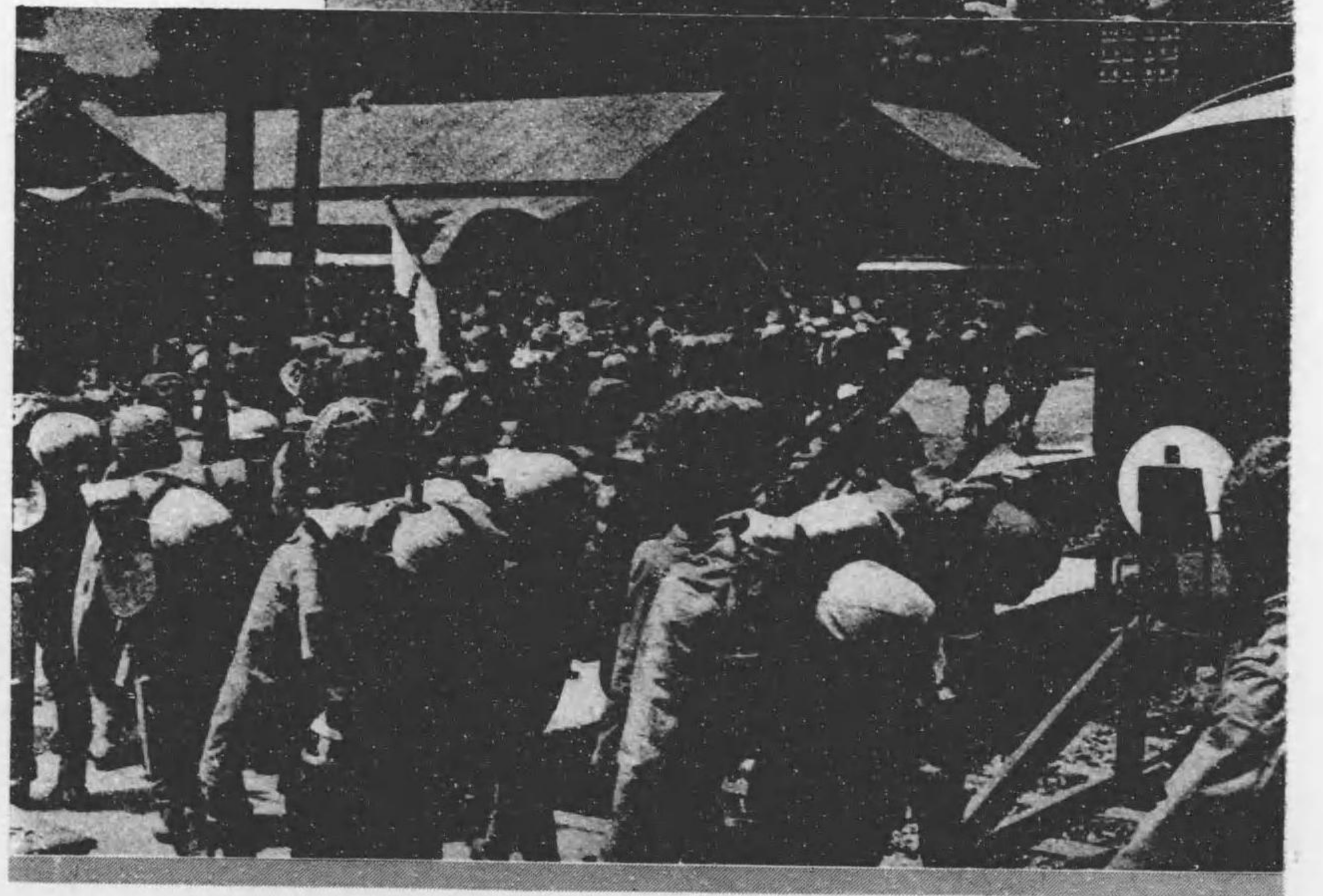
上圖は日章旗をかかげ塹壕内で活動中の〇〇部隊

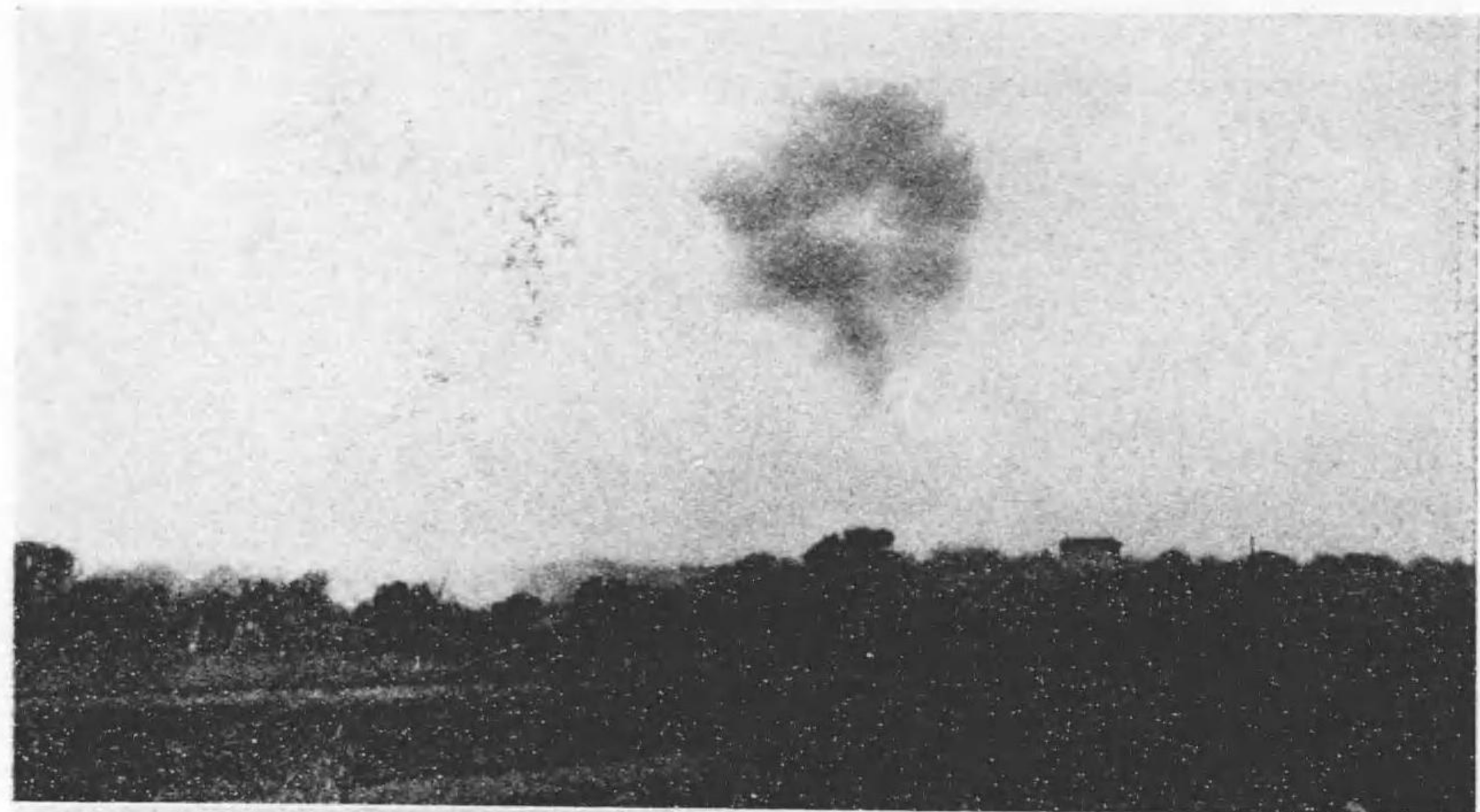
下圖は前線の塹壕内で奮戦する〇〇歩兵隊

驛頭の皇軍

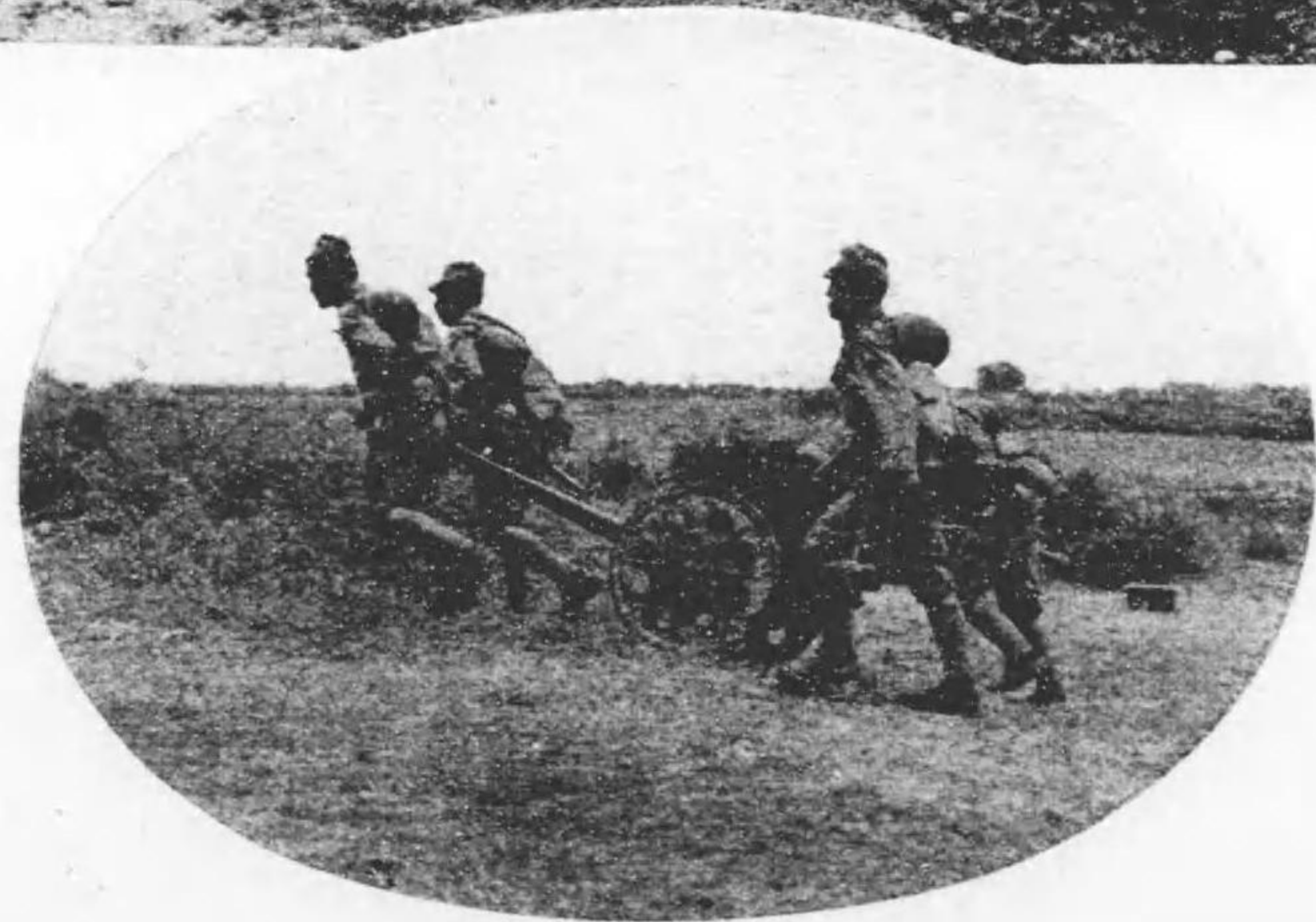
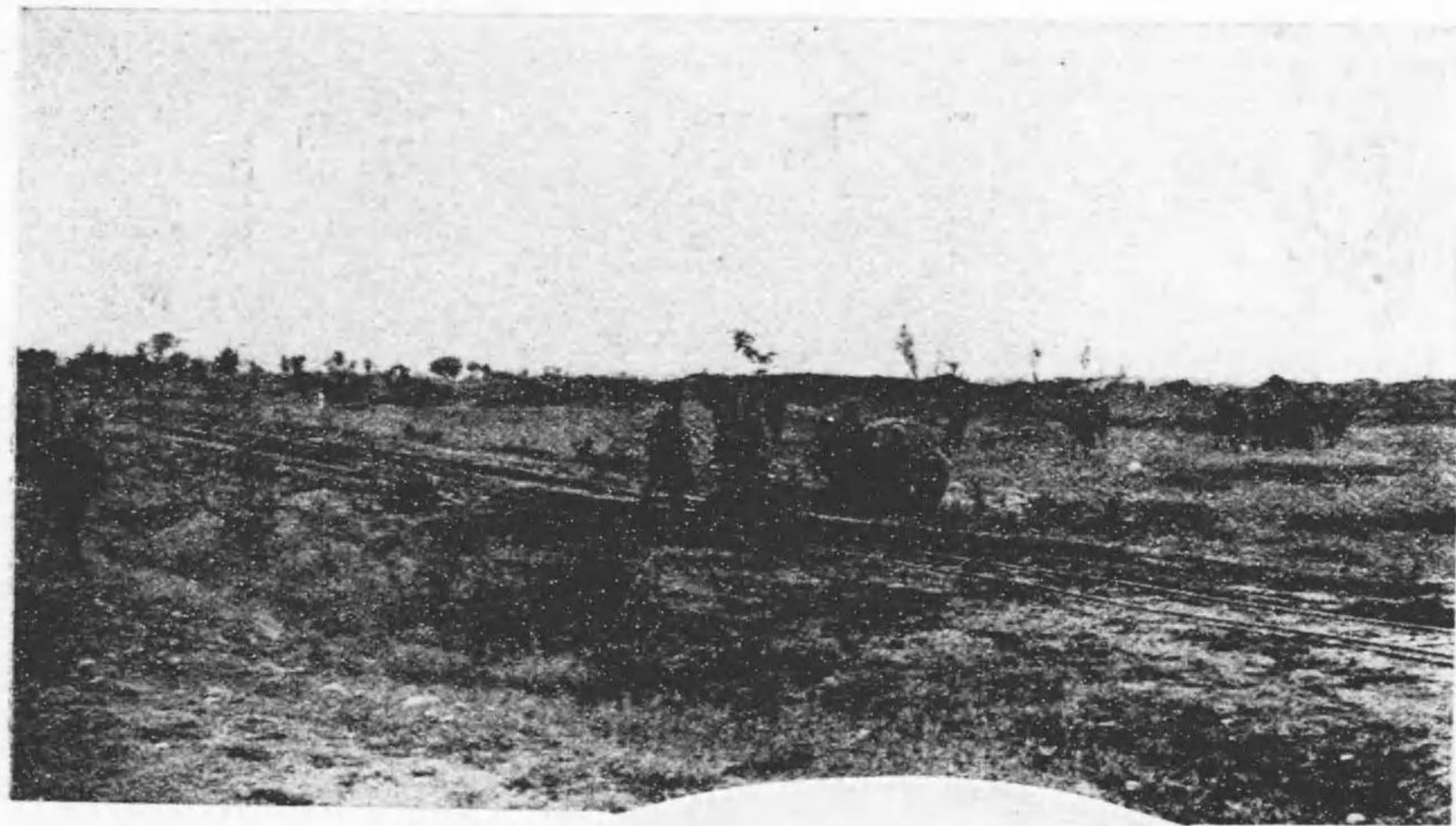
上圖は〇〇驛のプラットホームにて命令を受ける下士官兵

下圖は〇〇より最前戦に勇躍する歩兵部隊 (朝日新聞社撮影)





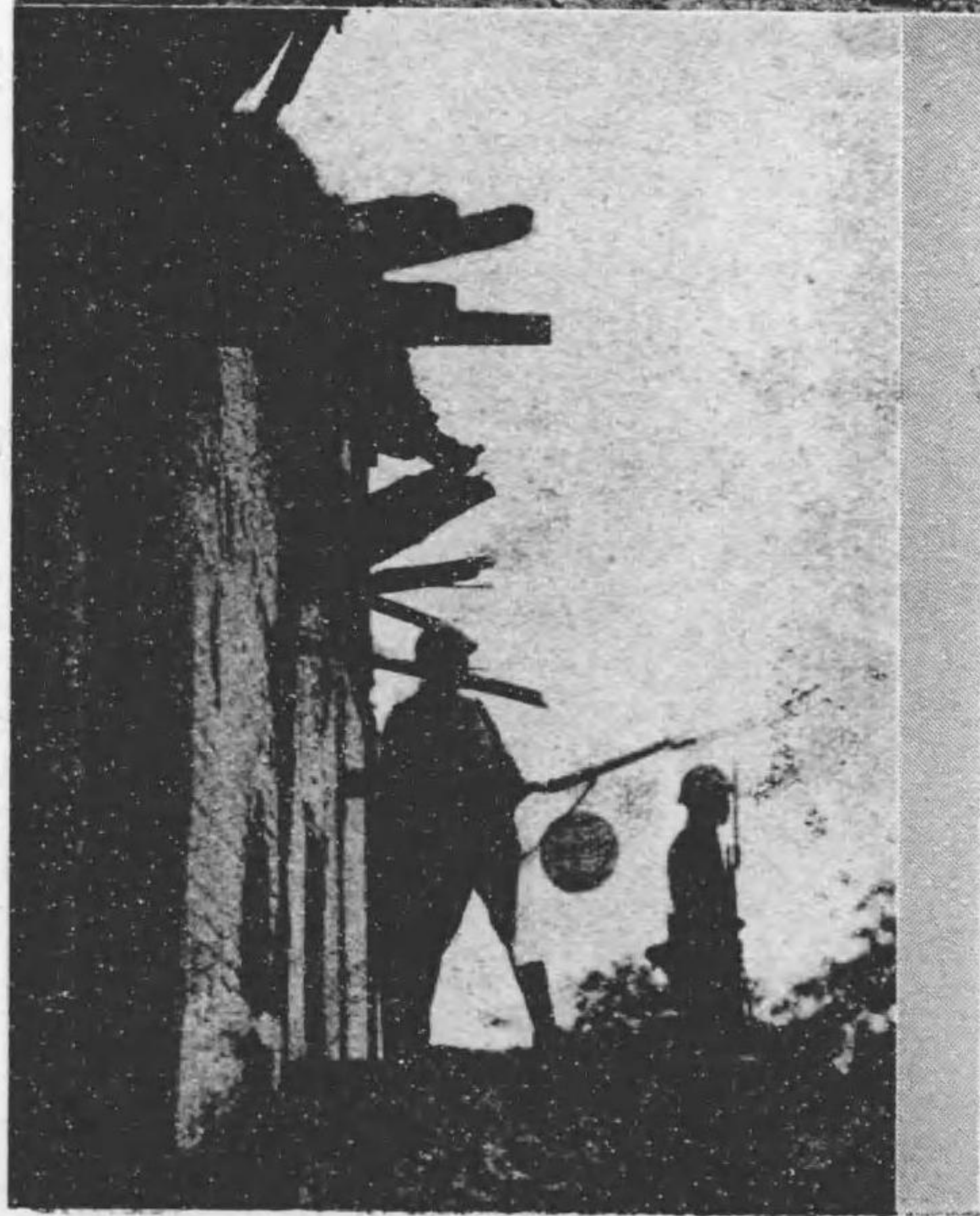
上圖は宛平縣城に於ける支那側の地雷爆發
 下圖は七月廿日の戦ひ終つてわが〇〇部隊の戦捷萬歳
 (東京日々新聞社撮影)



砲聲鼓々として天に轟く中を呼應して前進に前進
 上圖は一文字山〇〇の射撃の光景

勇猛果敢なる我が軍は急追に急追上圖は一文字
 山最前線における我が〇〇の活躍

前
 進



宛平縣城占據

無残に破壊された宛平縣城門上で萬歳を叫ぶ皇軍兵士

七月廿六日

左圖は宛平縣城に立つ我が哨兵
今や宛平縣城内は皇軍の爲め整理され支那民衆も今更乍ら皇
軍の嚴然たる態度を見て感激せぬものは無かつた



陣地を撤退する支那軍

上圖は

八寶山から撤退を開始した
第卅七師の支那軍

左圖は

引揚ぐる三十七師の兵

(西陽門西軍砦附近にて)

右圖は

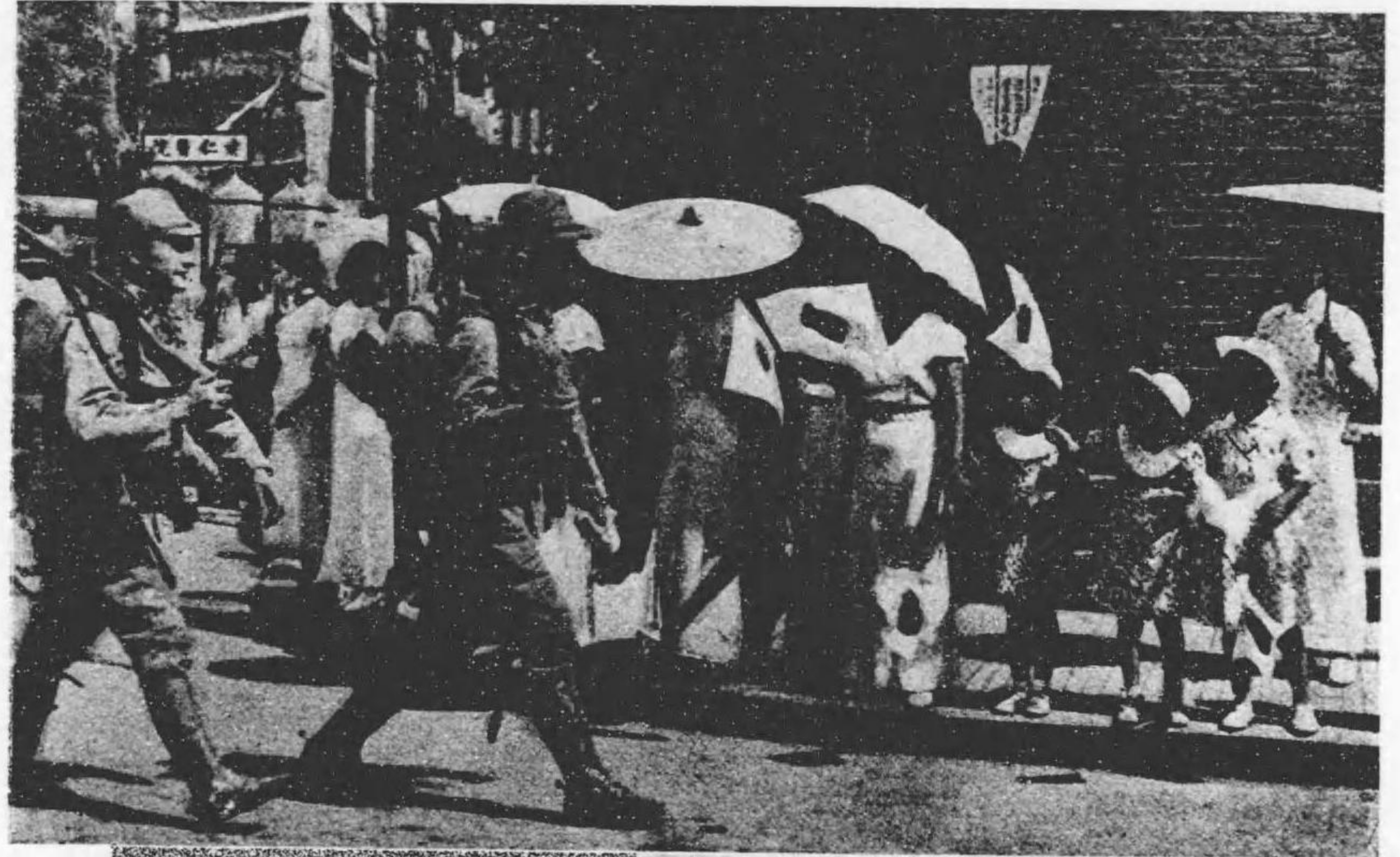
八寶山に於ける廿九軍の哨
兵

蘆溝橋占據

事件發端の土地にて第一線に我が皇軍の爲め占據された
右圖は蘆溝橋畔に立つ「蘆溝曉月」の碑文



蘆溝橋の光景にして我が皇軍の印象深き土地なり流れる川は永定河にして支那軍は此の河を利用して最も頑強に我が軍をなやましたと云ふ



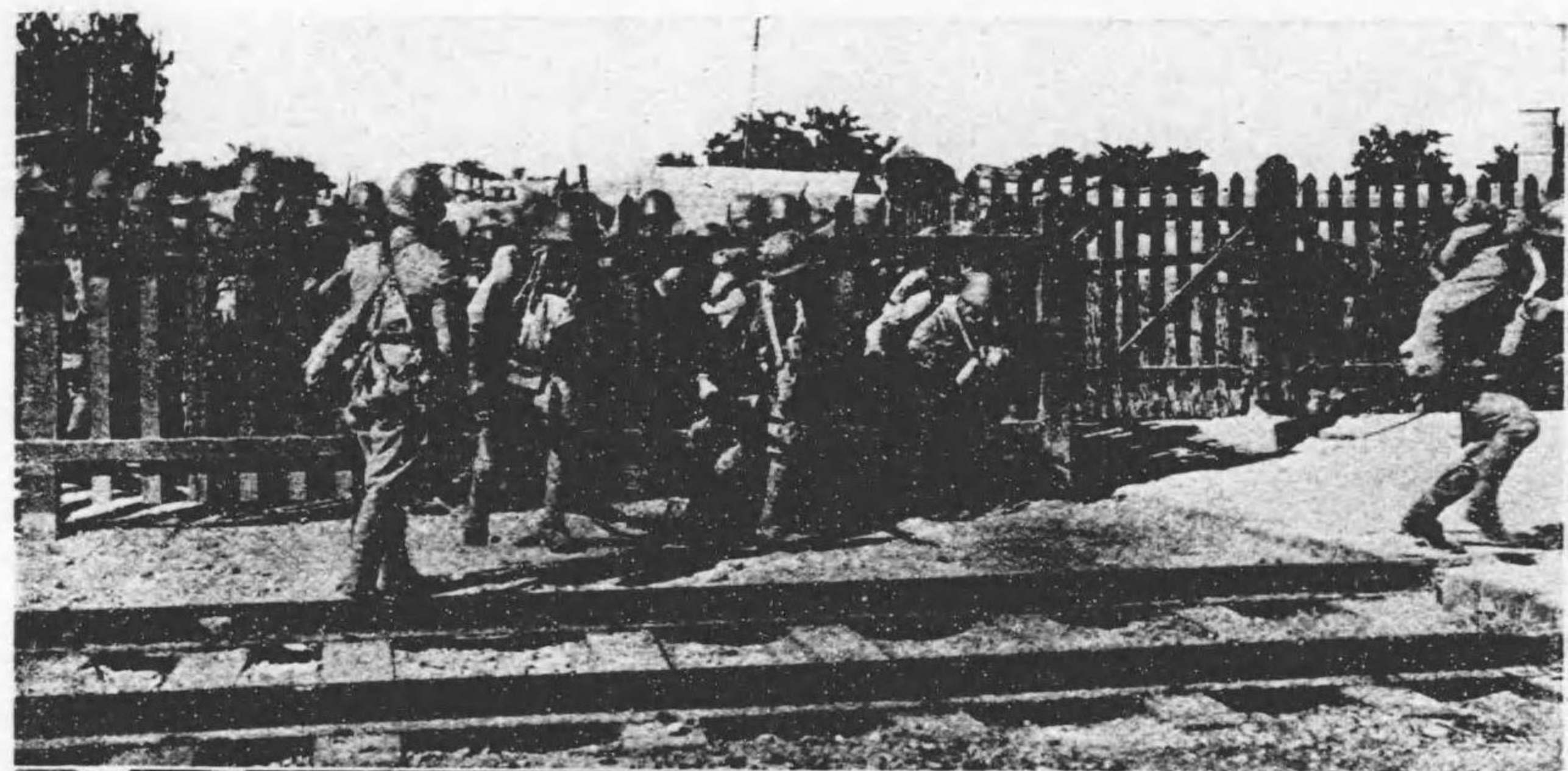
上圖は七月三十日

いたいな手に日章旗をふりかざして
皇軍を歓迎する在留邦人の子供たち

下圖は手製の日章旗をかゝけて物珍らしげ
に戦跡を見物する支那民衆たち

(朝日新聞社撮影)





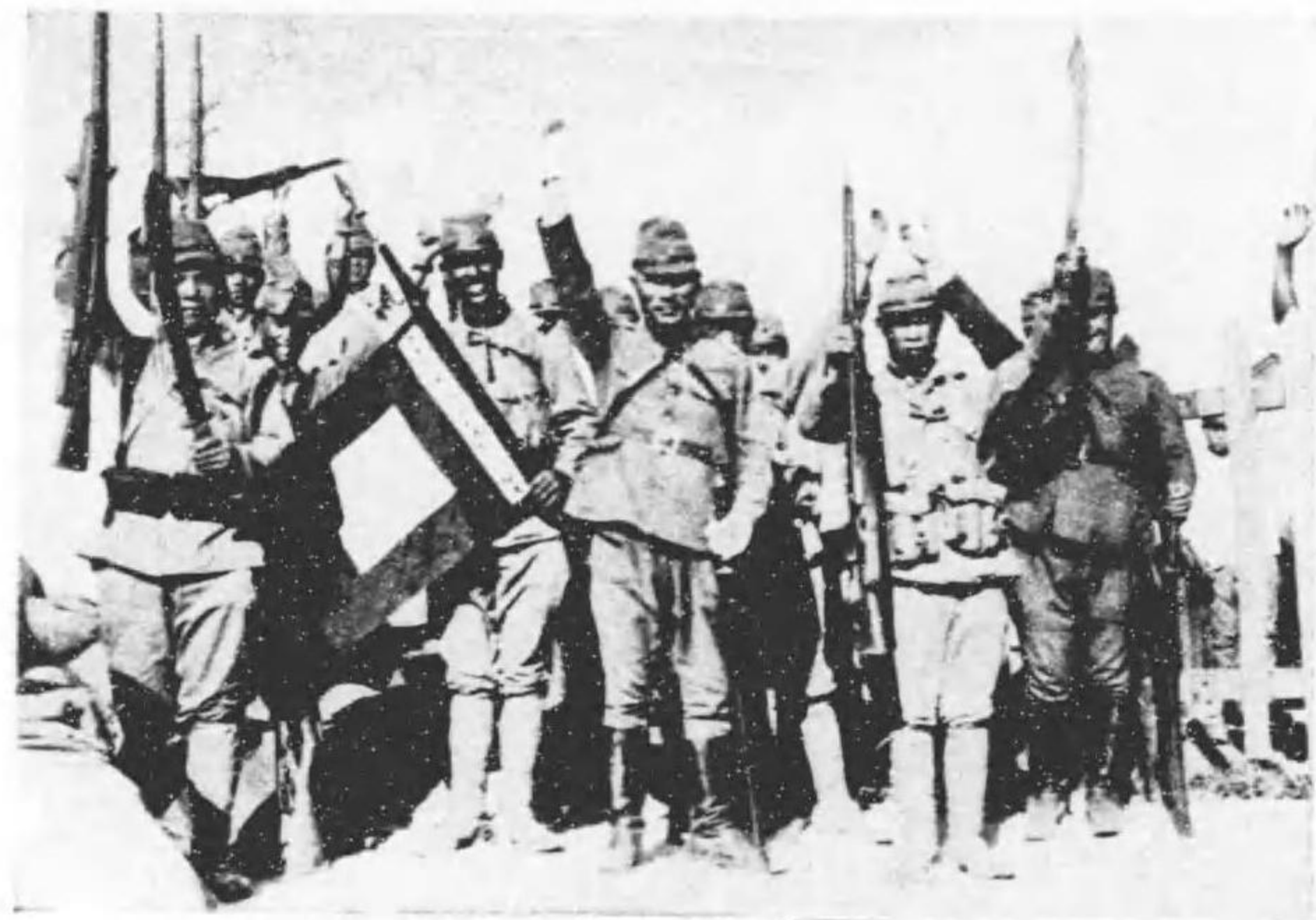
廊坊事件も一時急迫致し不安に包まれたが機敏なる我が應援部隊と共に戦線突破す上圖は廊坊驛に於ける我軍の進撃
下圖は廊坊驛の戦闘における我軍の陣地

戦線突破

果然廿五日午後十一時半廊坊において卑怯極まる支那軍の射撃をうけたので日支交戦廿六日未明空爆を决行地上部隊と空軍と呼應して壯烈なる攻撃前進を行ひ午前八時廊坊を完全に占據した



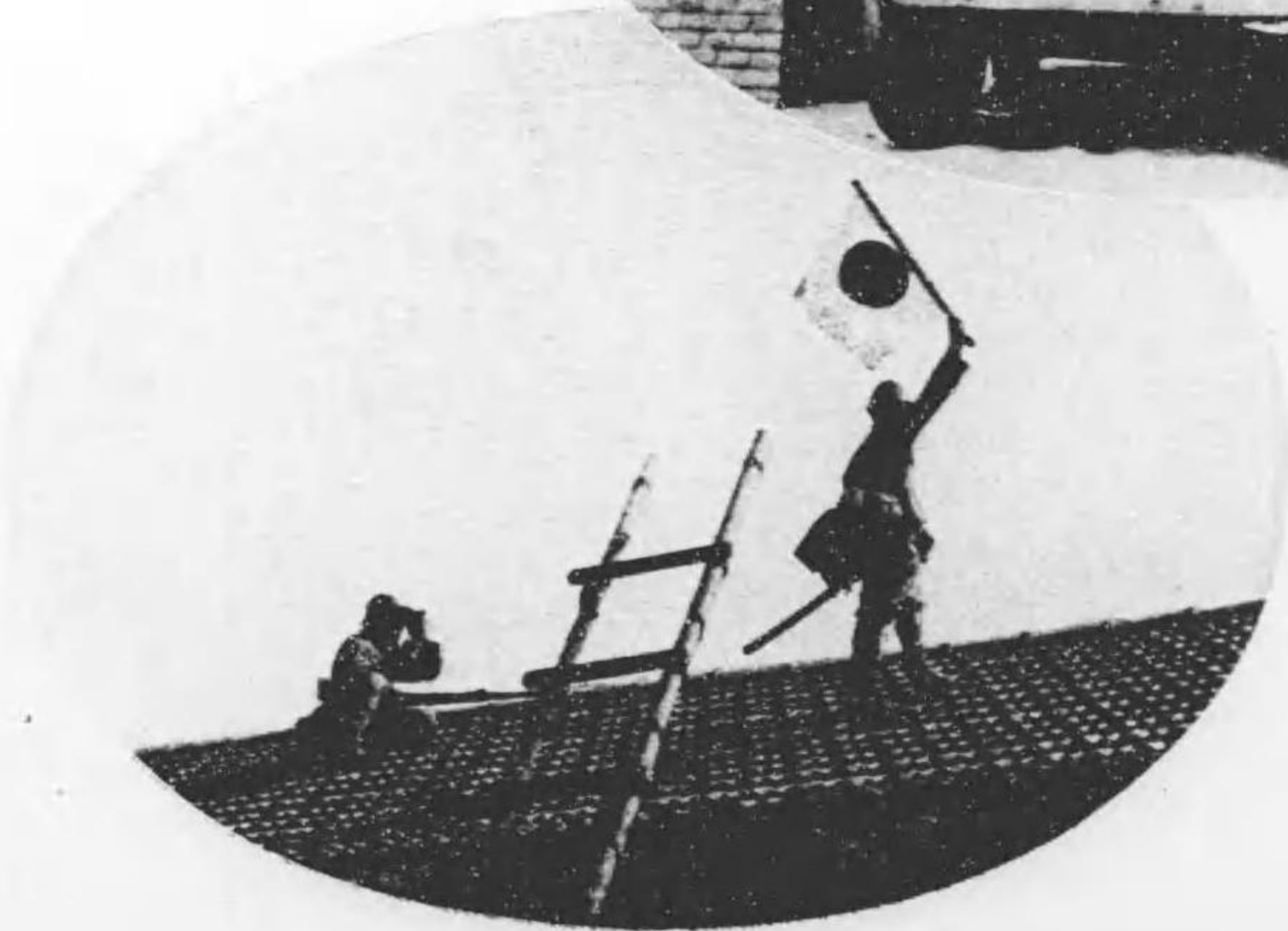
上圖は廊坊驛増援の〇〇部隊
中圖は廊坊驛における我が軍應援隊の進撃
下圖は廊坊驛前の防戦



戦利品を前に鯉登部隊の萬歳



戦線急を告ぐるや命令一
下
出動の皇軍〇〇隊



猛烈なる總攻撃に敵は撃退され茲に
日章旗は廊坊驛屋上に翻る



廊坊驛跨線橋を渡る
來援部隊



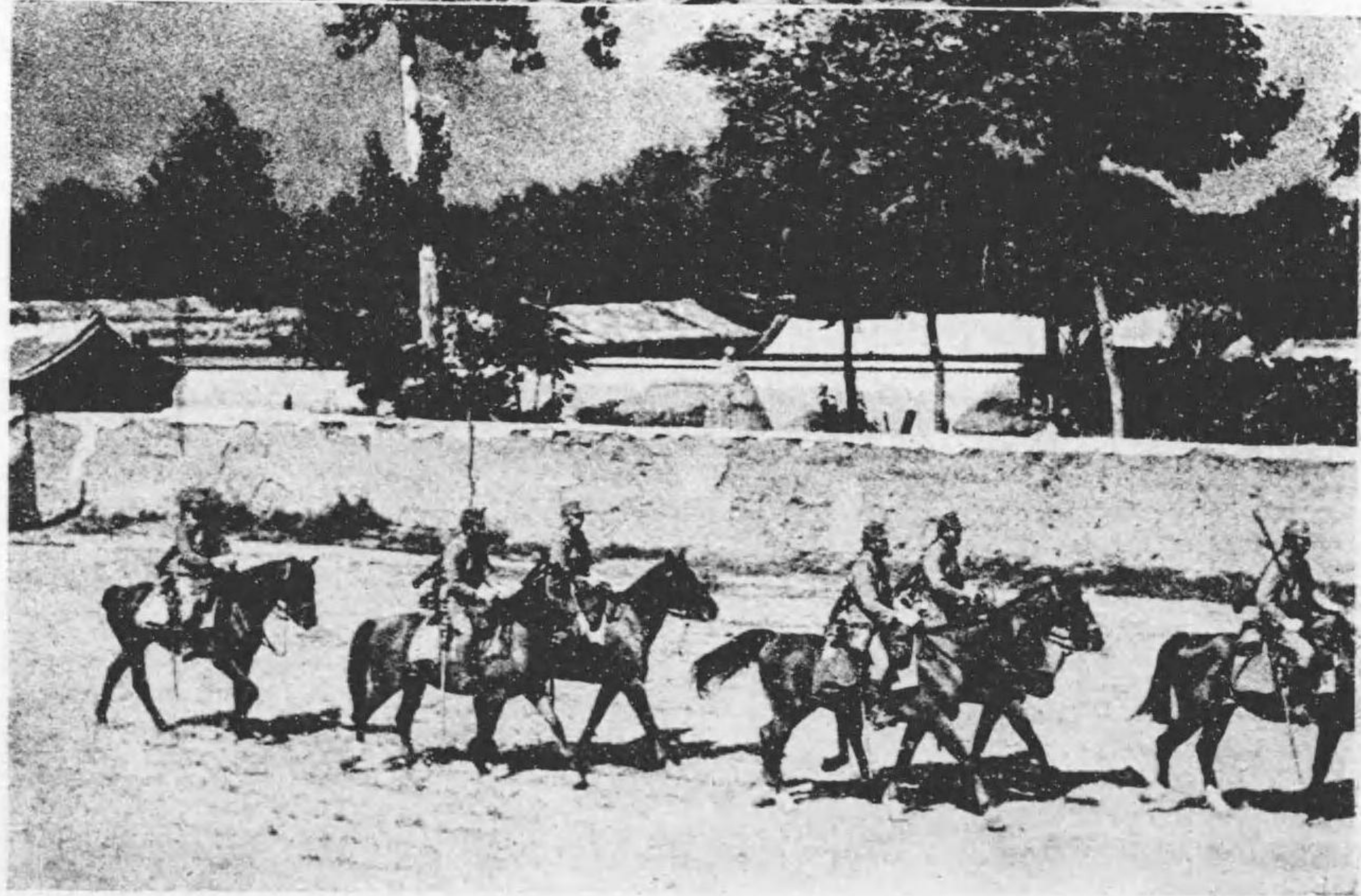
下圖は
廊坊戦線に於ける
支那軍の捕虜



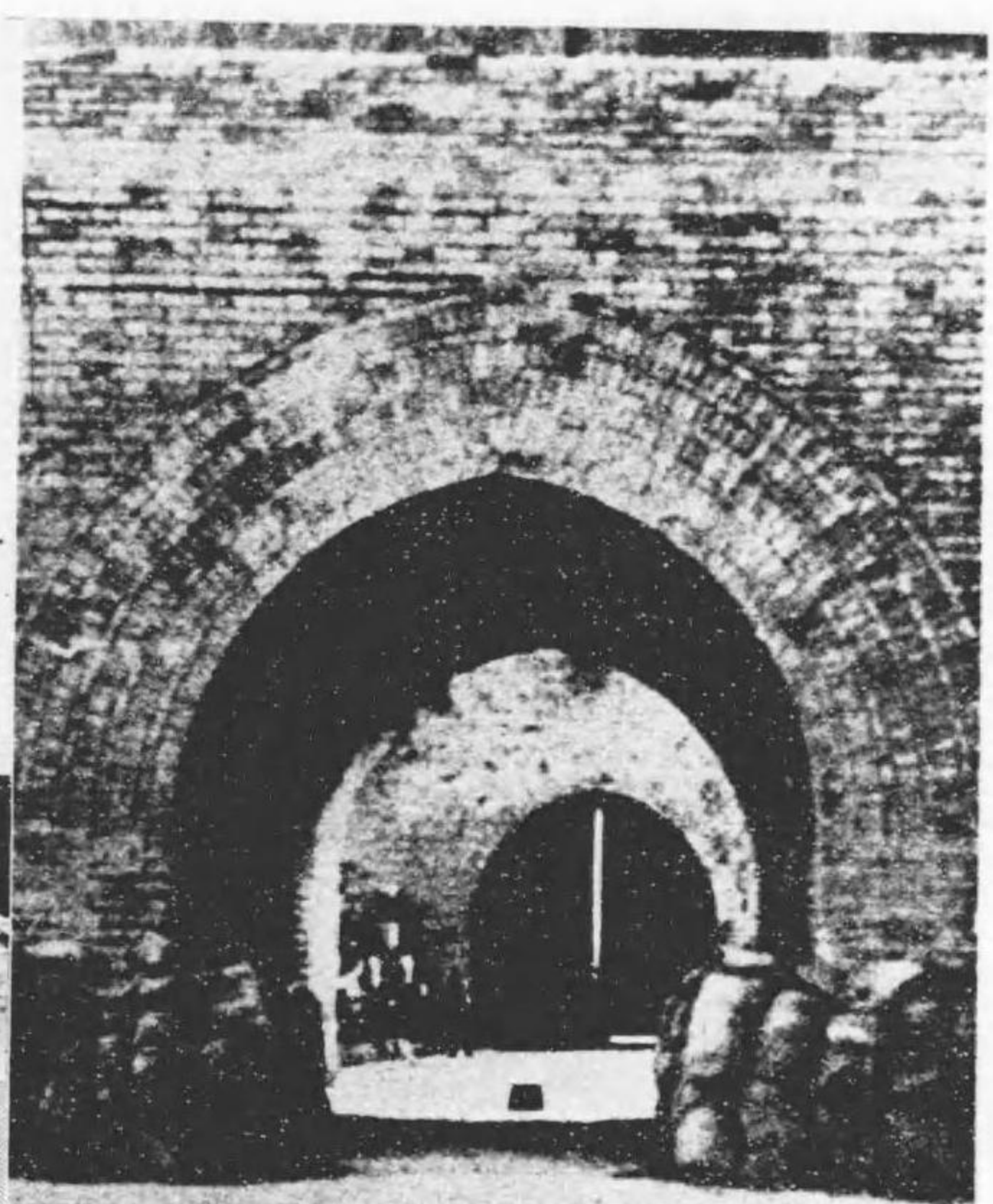
上圖は
廊坊驛の皇軍歩哨兵



炎熱戦線の皇軍



炎熱百三十度焼つきそうな酷暑の中を重き軍装に身をかため行軍を続行する〇〇歩兵部隊
下圖は蹄鐵の音高らかに警備に出動の我が〇〇部隊



北平廣安門不法射撃事件

上圖右は七月廿六日北平の居留民保護の爲め支那軍の諒解を得て入城せんとした廣部部隊に對し突如城門を閉鎖して機關銃又は手榴彈等によつて不法な猛射を浴せかけた廣安門なり右圖は廣安門望樓下乗り込む廣部部隊左は廣安門事件の際交渉委員をして支那軍の爲め重傷を負つた櫻井中佐

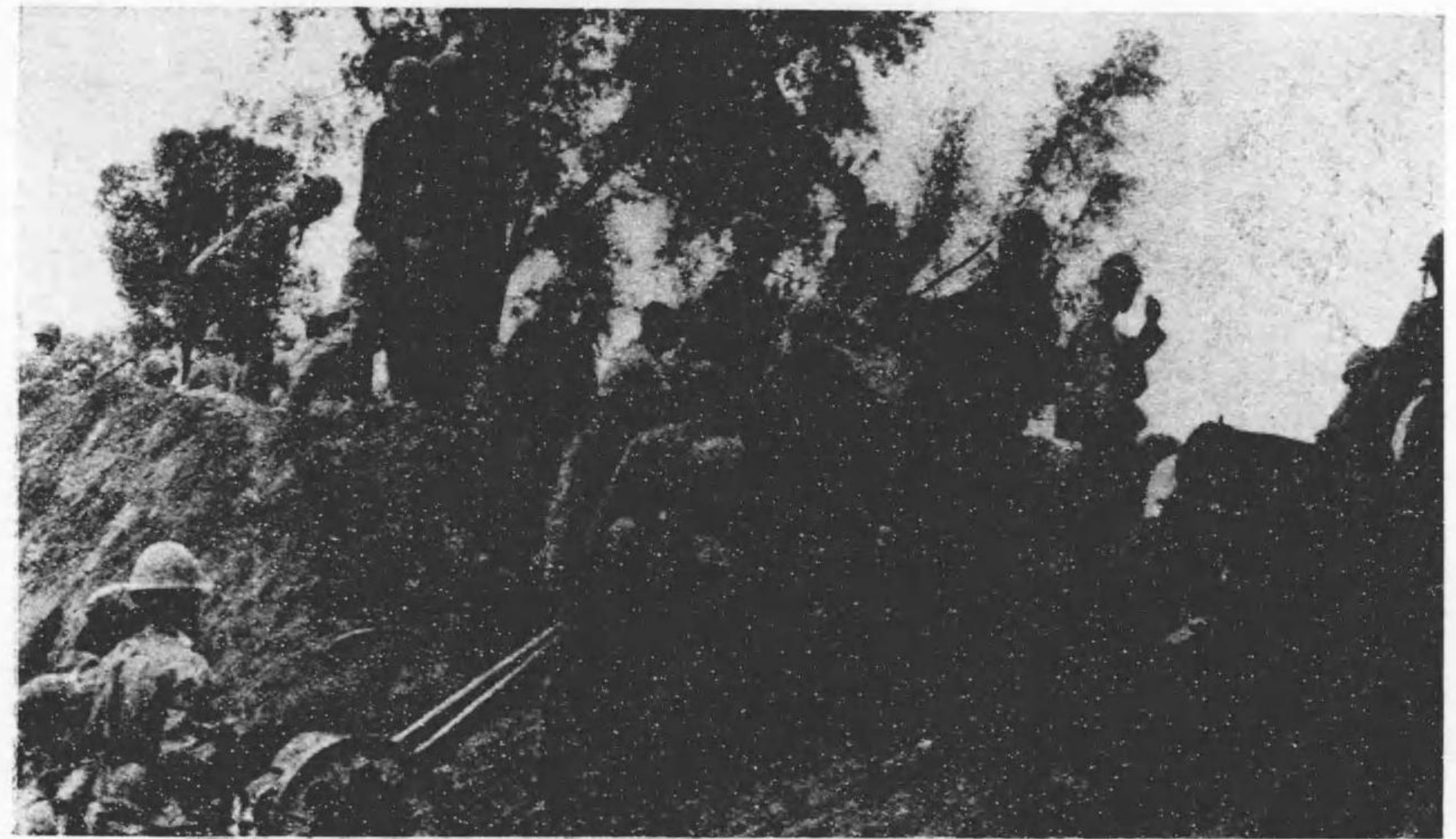
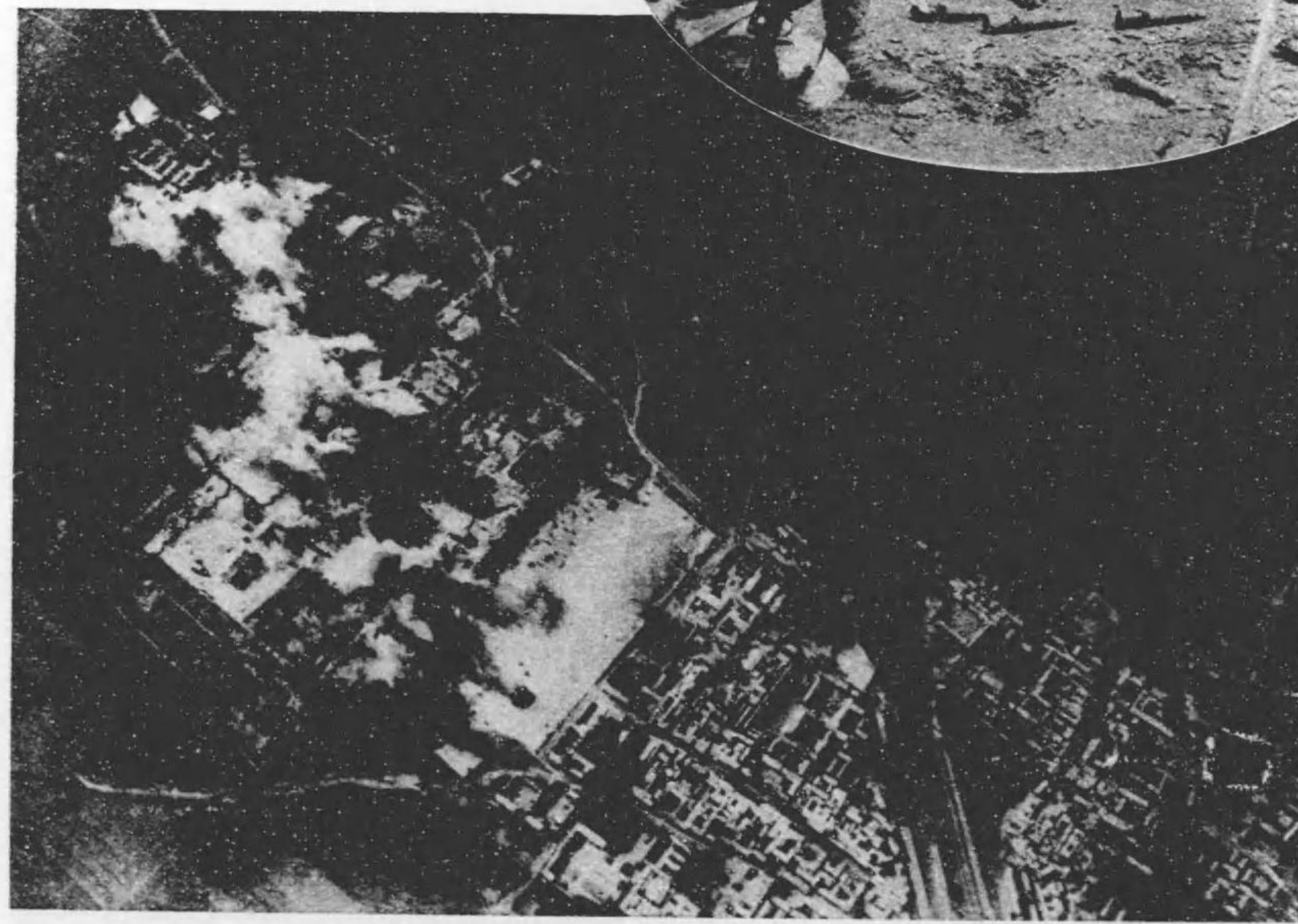


我が飛行隊に爆撃されたる
廊坊に於ける支那兵營



曉の廊坊爆撃

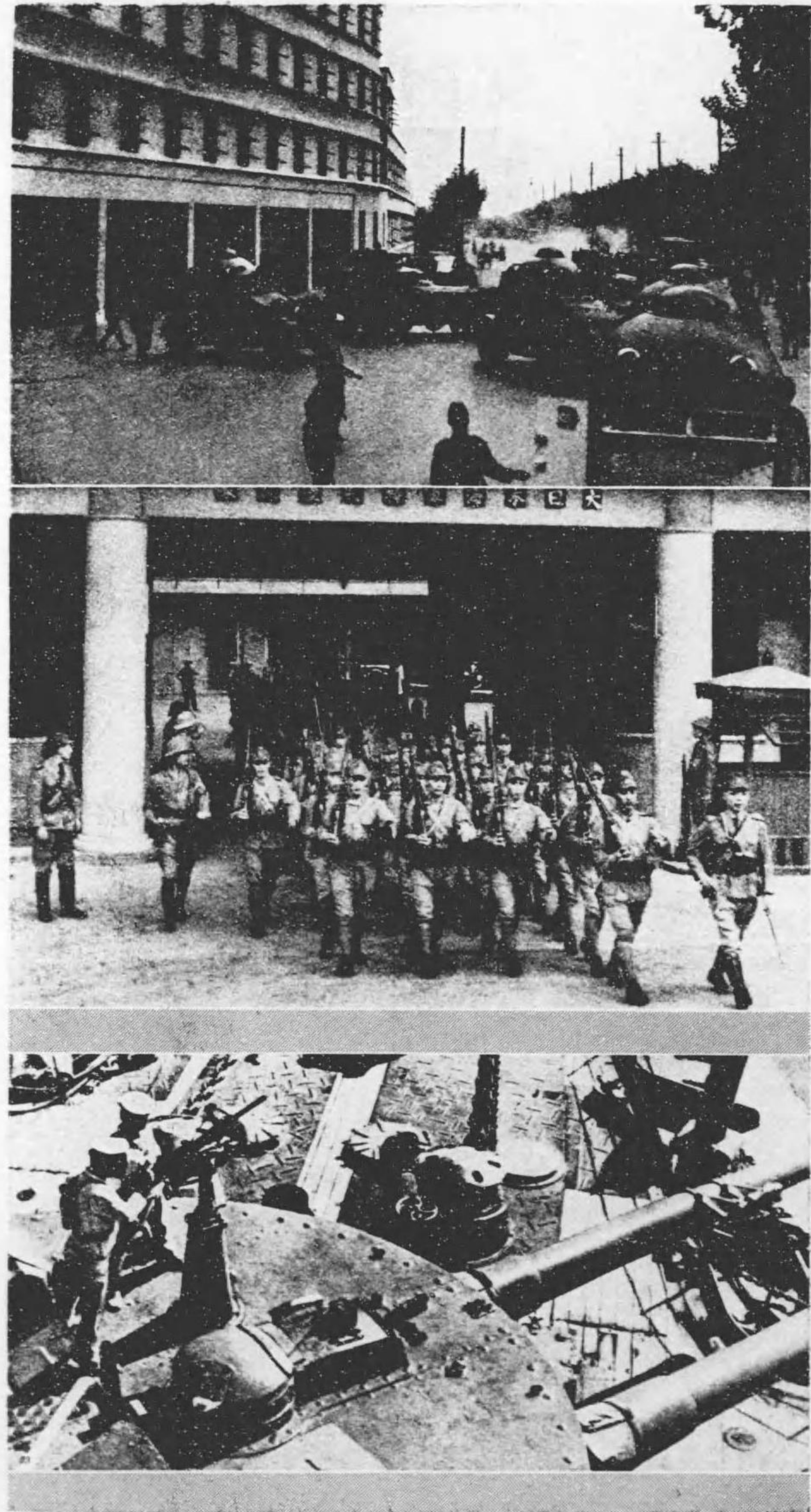
七月二十六日壯絶、我空軍の爲
め爆破されたる廊坊の支那兵營
下圖は支那軍の使用した不發の
手榴彈



南苑の戦火

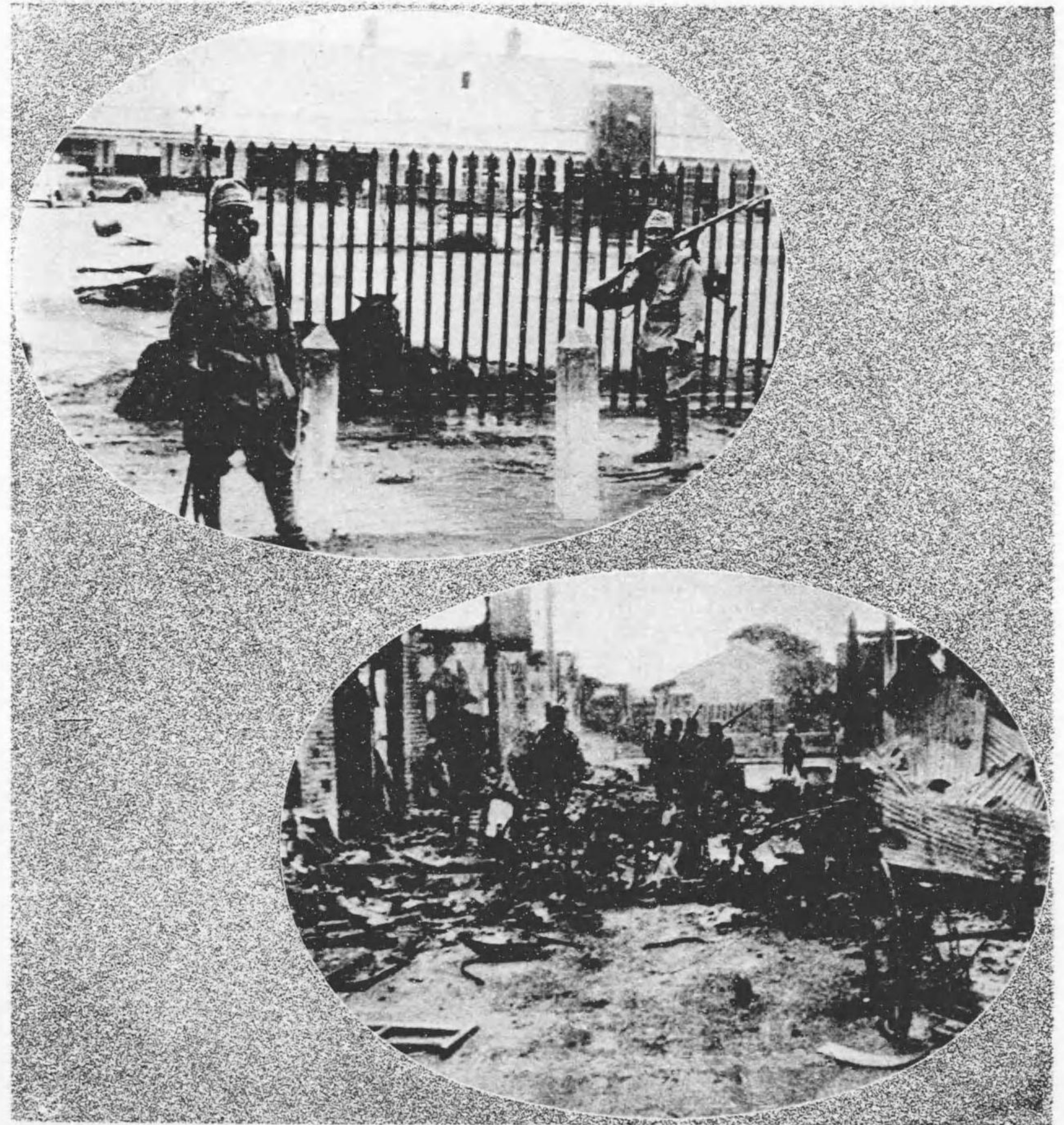
上圖は廿八日午後一時南苑戦闘に於ける〇〇部隊
下圖は廿八日百雷轟く中に活動の我が砲兵隊





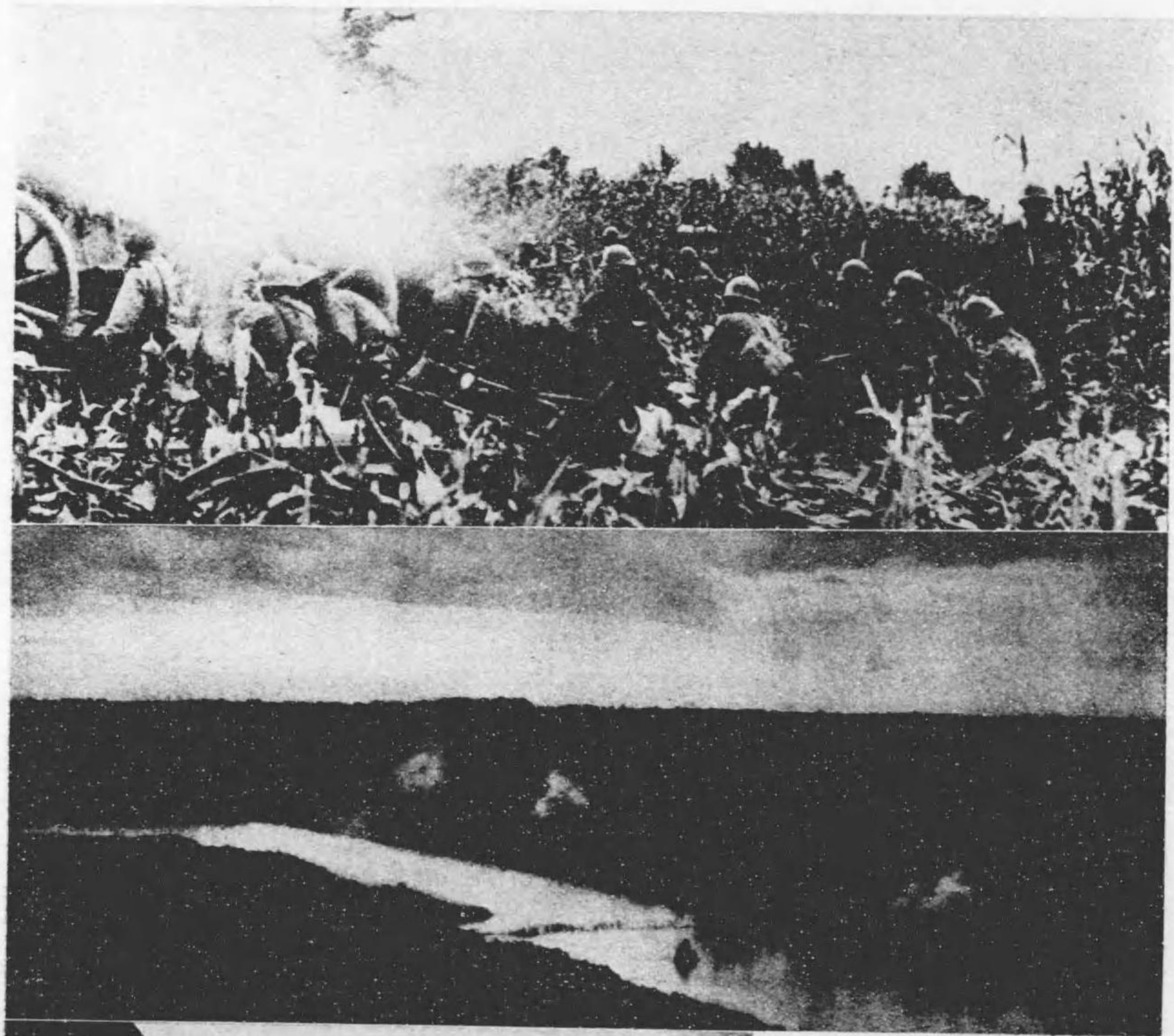
上海不憂急

長江筋の數々の抗日行爲暴逆言語に絶する大山中尉射殺齋藤一等水兵戦死等々重なる毎日行爲に備へて今や上海は緊張を加へ
 暗雲低迷不安の色濃く無氣味な沈黙にしづまり返つた
 上圖は爆音高く一擧に出動する海軍特別陸戦隊の装甲自動車群なり上海在留人三萬の邦人達は文字通り百萬の味方を得た思ひ
 で感激の涙に眼をうるませてゐる中國は武装に身を固めて出動せんとする我が海軍陸戦隊の勇姿下圖は〇〇軍艦上の猛訓練の
 光景



七月廿八日東站驛前に於ける暴虐なる支那軍の爲め射殺されたる支那軍馬

下圖は七月廿九日東站驛便衣隊の巢窟の爆撃を敢行し爆破後は掃蕩につとむ如何に我軍の周到なる活躍を見よ



南苑砲撃

七月廿八日空陸呼應して攻撃する〇〇砲
兵部隊の勇姿
中圖は南苑砲撃は一彈又一彈と命中し其
の爆煙あたりを掩ふ
下圖は恨みは深し南苑兵舎爆破

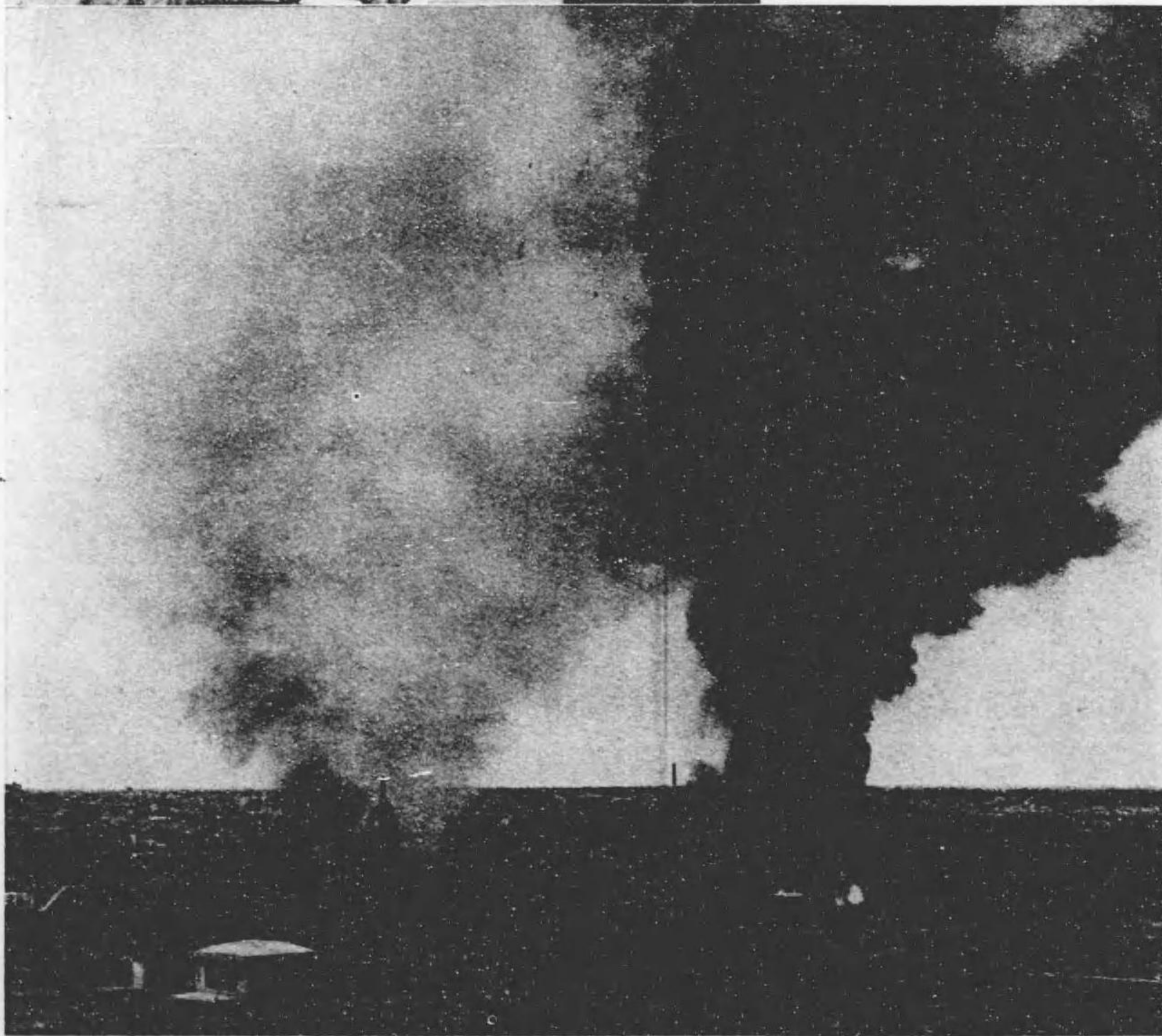


天津市街戦

上圖は天津日本租界附近に
於ける三十日の戦闘我が〇
隊の奮戦
右圖は天津驛前の我が軍の
防備警戒
上圖は天津租界境界線の鐵
門を閉ちて警戒の我兵

天津空軍出動

七月廿九日我が軍は自衛上已むなく支那軍隊の據れる主要地點爆撃するに決し同日午後二時司令部より聲明北寧津浦兩鐵路局保安隊本部警備司令部市政府大福公司等の主要地點を空陸呼應して爆撃す
寫眞は爆撃によつて燃えあがる天津市政府上圖は天津爆撃の報を聞く多記部隊長



天津爆撃

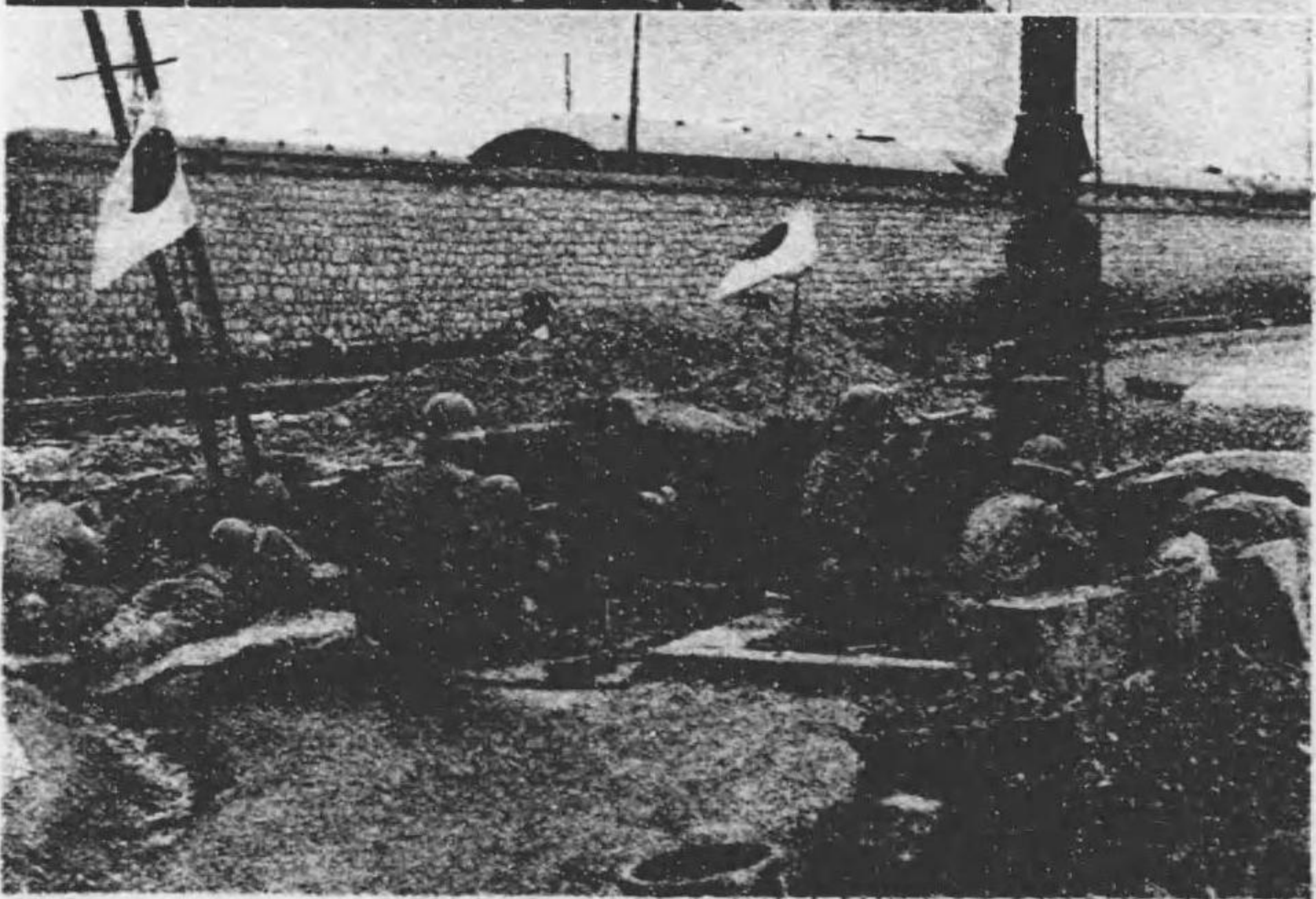
七月二十九日天津スバイの根據地
電話局爆破の光景

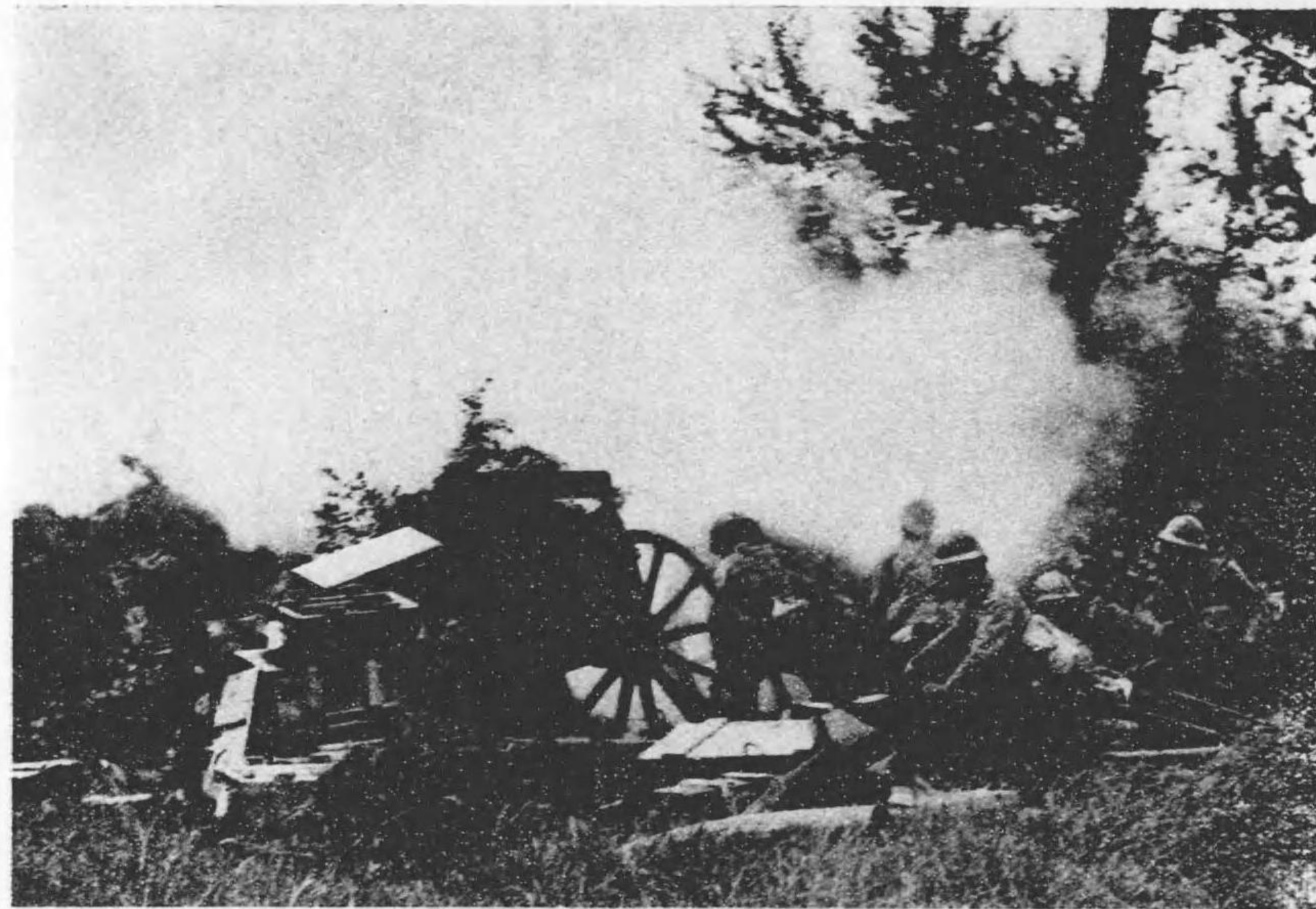


天津電話局第二回の爆撃の光景

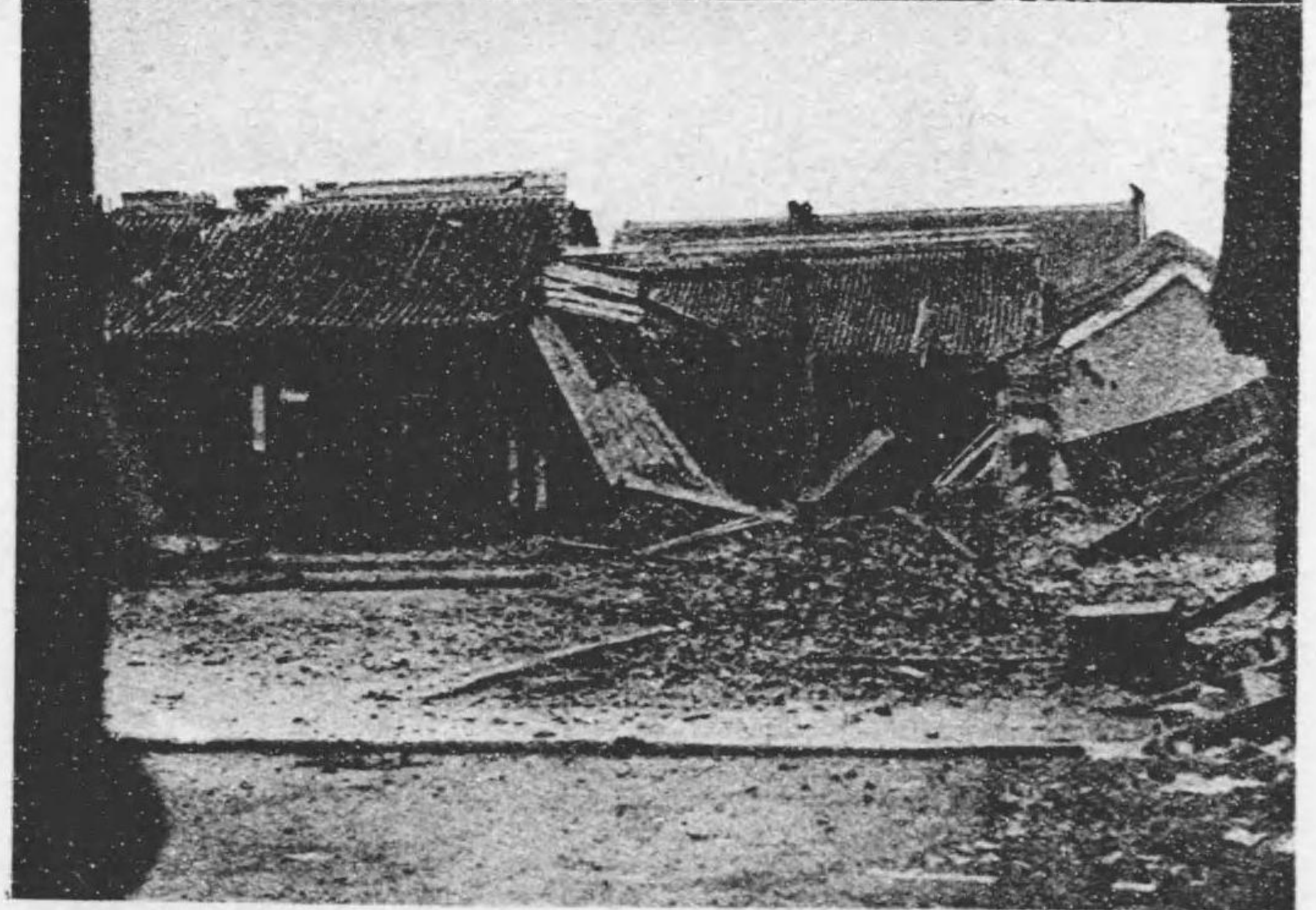
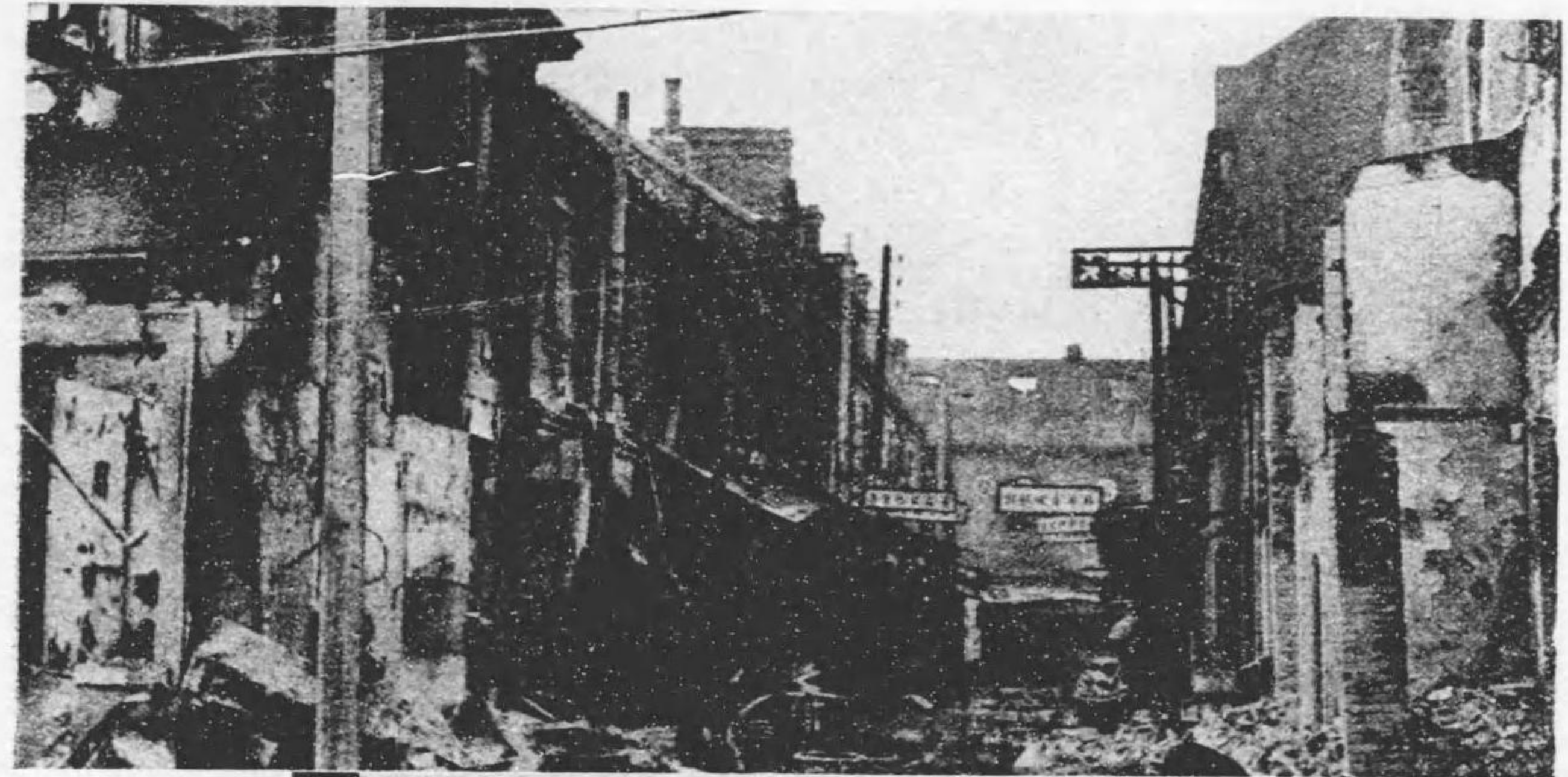


二十八日〇〇驛附近を警戒しつつある我が皇軍



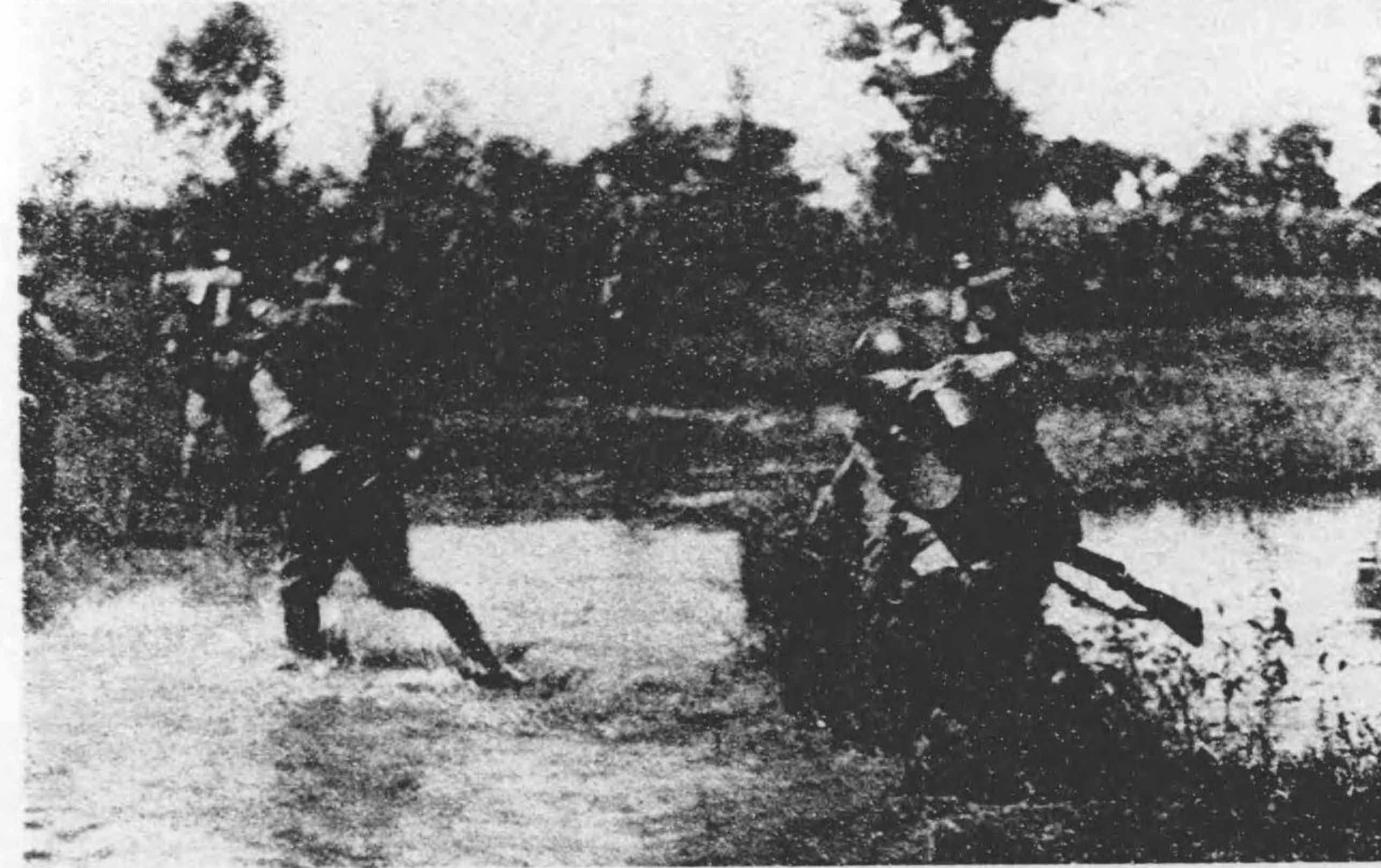
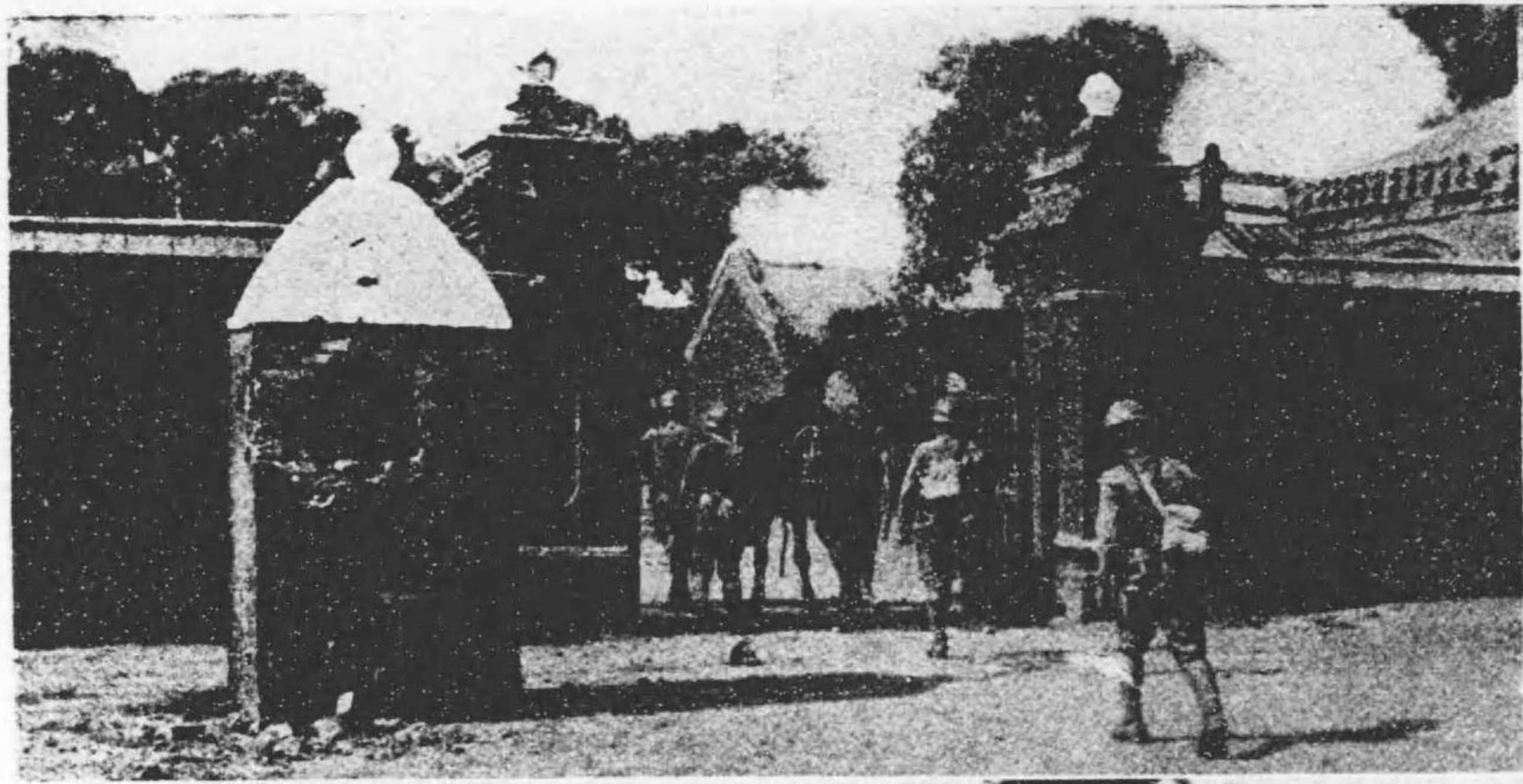


上圖は○Cを砲撃する我が砲兵の活動
下圖は七月三十日炎天と戦ひ前線に急ぐ歩兵隊

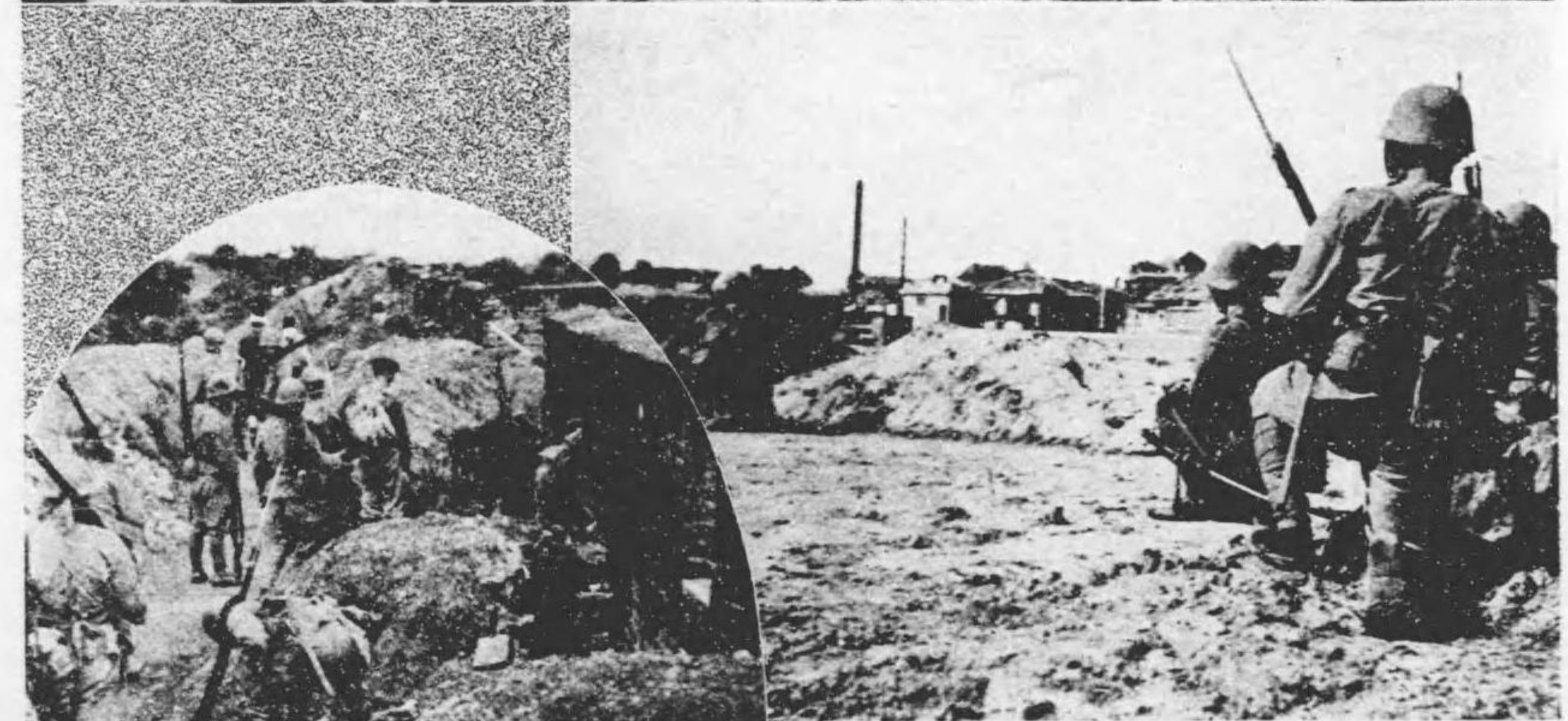


天
津
爆
破

上圖の場所は支那兵の最も強硬に頭張りし所にて支那敗殘兵の巢窟であつた此の抵抗にも空爆には何んの一瞬にして崩壊された
下圖は爆撃を受けた天津市政府の内府



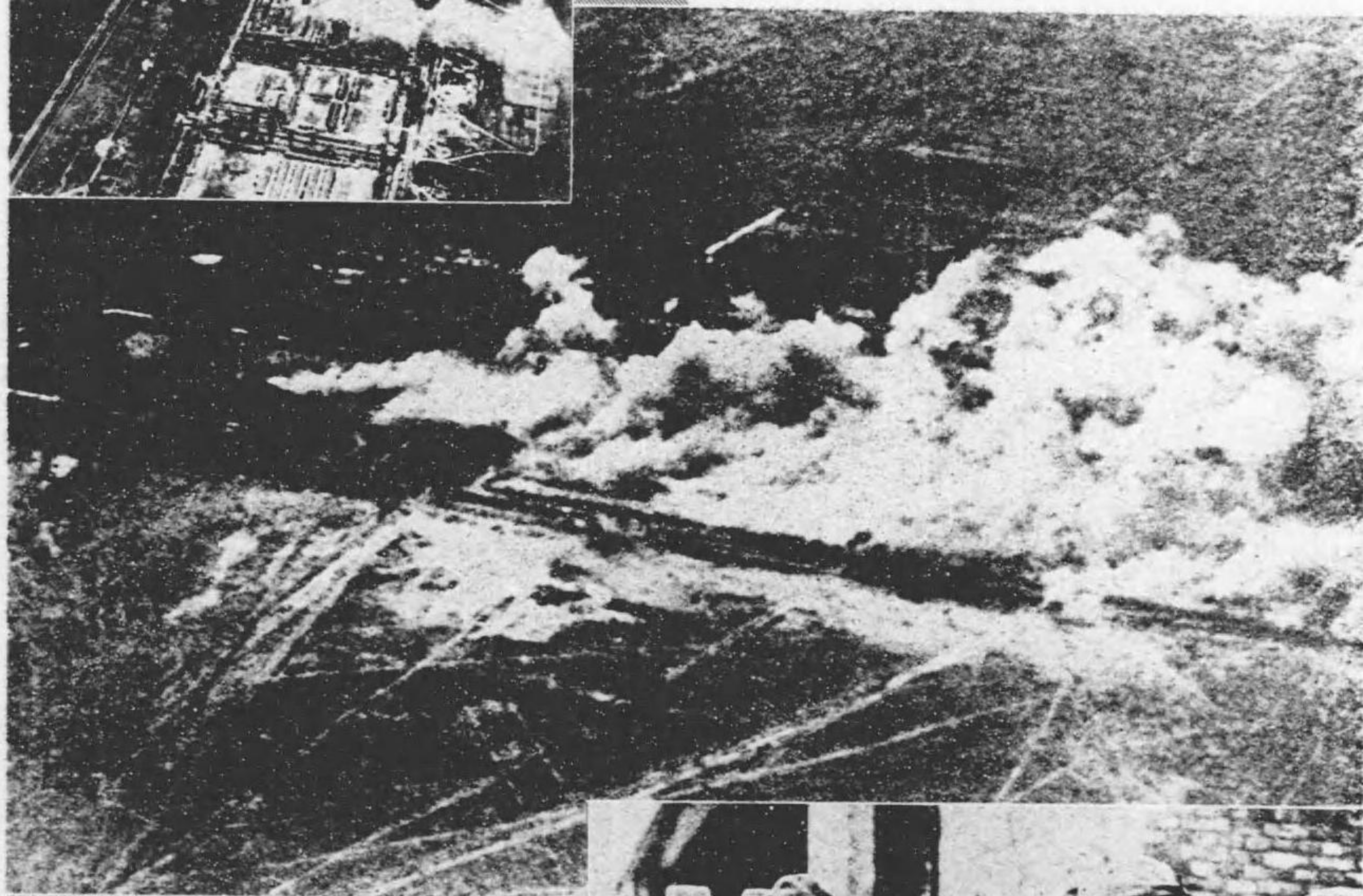
上圖は我が砲撃の命中を受け火災を起した南苑の支那兵舎
砂塵に或は沼地に或は泥田に酷暑と戦ひ突撃する我が歩兵隊



七月三十日支那部落に於ける我が軍の警備
中圖は空爆後谷崎部隊出動
残兵便衣隊の掃蕩
左圖は敵敗残兵を捜査する
皇軍部隊

南苑の爆撃

七月二十八日雷雨を衝いて南苑
爆撃敢行の我が飛行機
正義の爆撃狂ひなし支那軍の兵
舎一瞬に崩壊す
下圖は空襲によつて火災を起す
支那軍兵舎



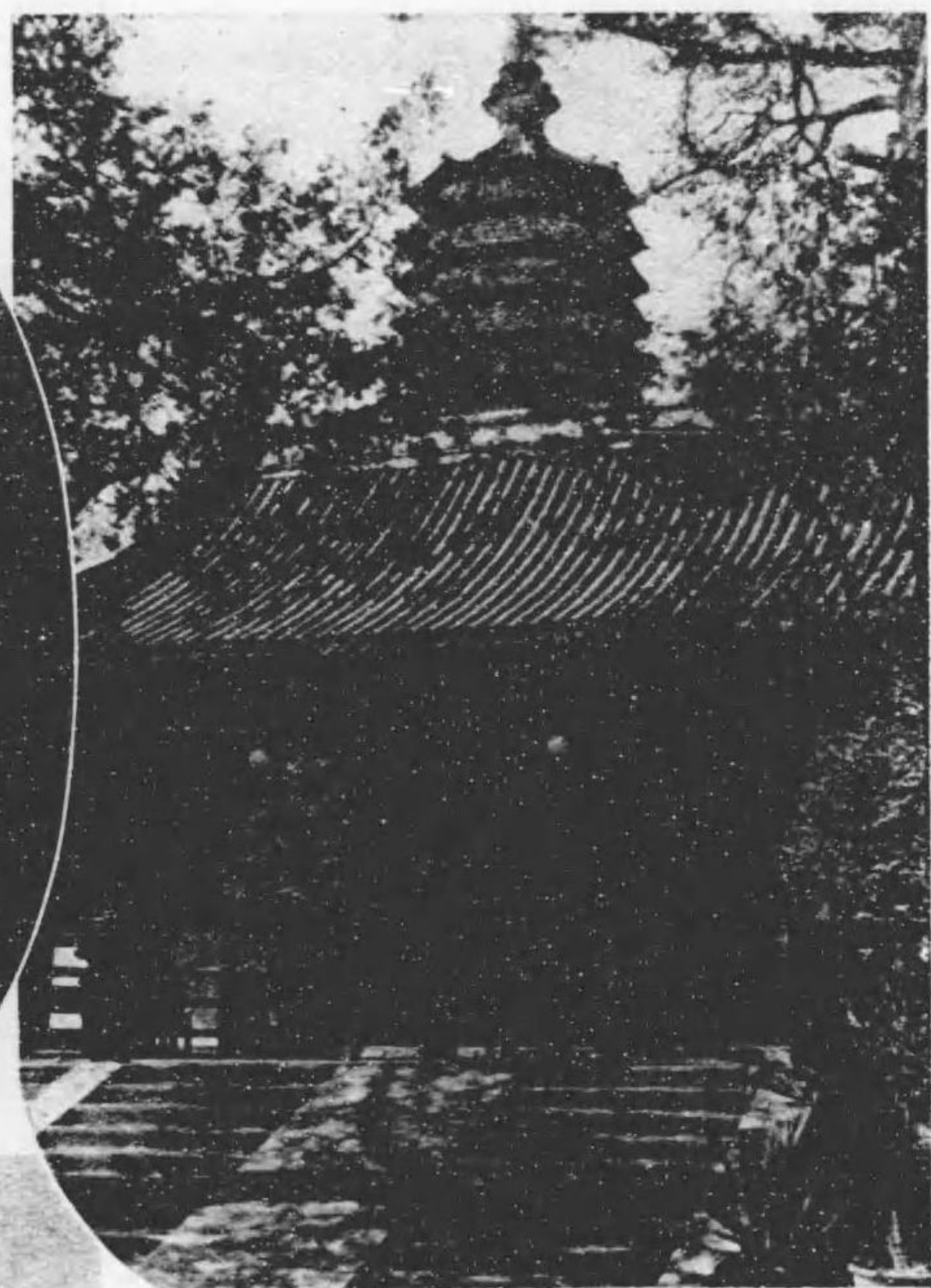
下圖は
爆撃の報告を受ける
徳川部隊長

(朝日新聞社撮影)

通州事件



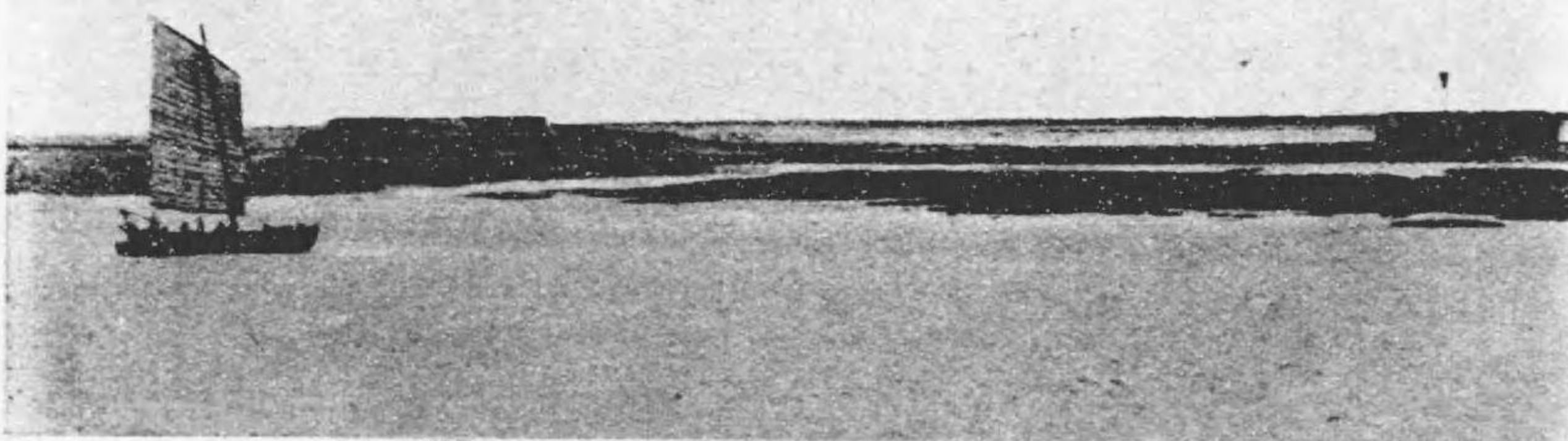
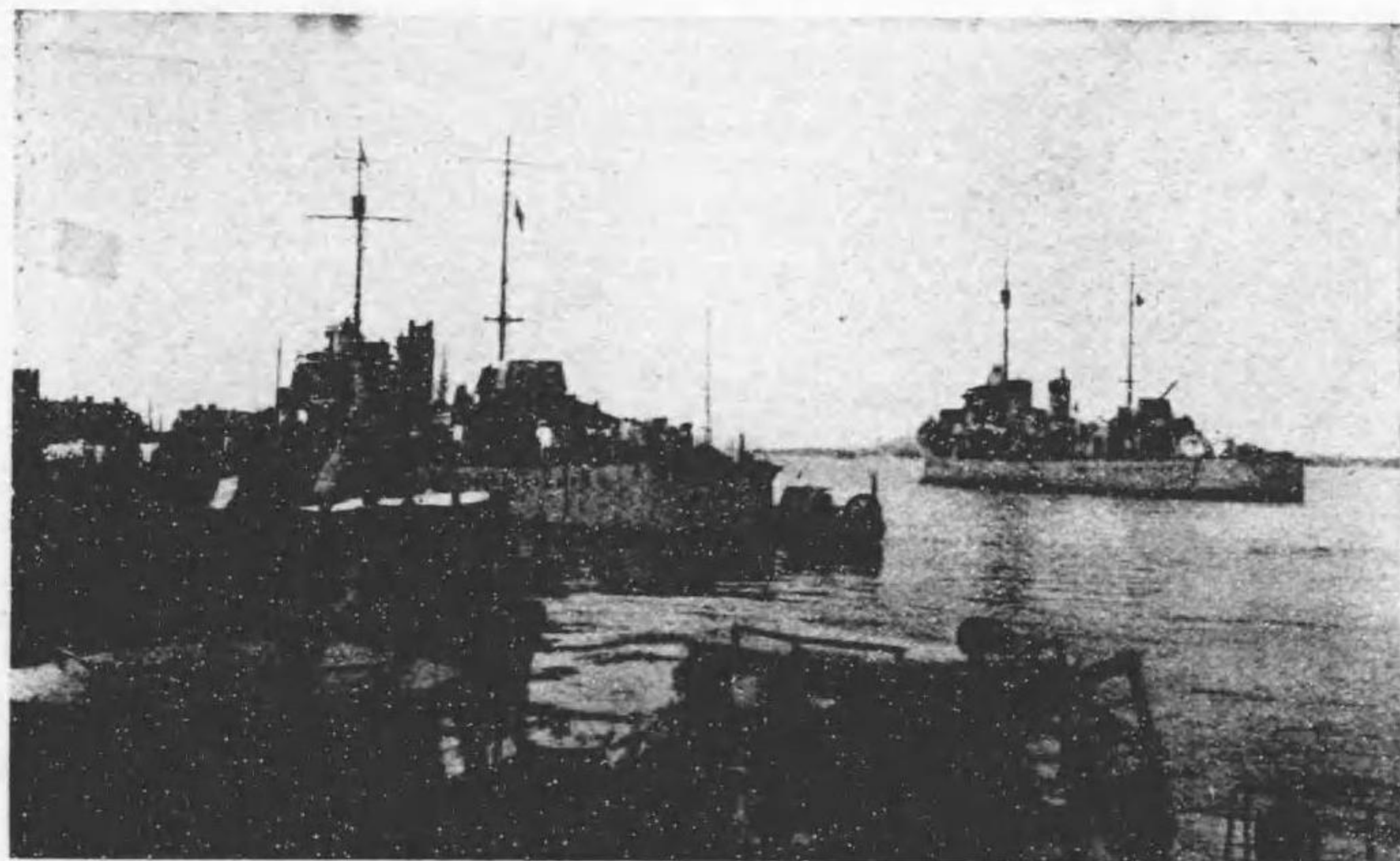
上圖は我が守備隊の警戒
中圖は我が軍に爆撃され
た通州二十九軍司令部の
内部
下圖は通州保安隊反亂
軍の武装解除



冀東政府

冀東政府は北支中最も有望なる親日政府にして我國と密なる關係を有し主席殷汝耕氏も大の親日家なりされど支那中央政府にまどはされ保安隊の一部が反亂軍と化し抗日並に茲に戦火を交へ通州事件となつた上圖は冀東政府の内部左圖は主席殷汝耕にして反亂軍の爲拉致された下圖は殷汝耕氏救出しに活躍した荒木五郎氏（ヘルメット白服の人）

わが海軍の大沽砲撃



大沽砲撃は我が海軍最初の攻撃にして上圖は三十日我が海軍堂々塘沽に入港中圖は白河下流右岸にある堡壘（大沽側）下圖は大沽占據の萬歳



北苑の
武装解除
八月二日我が軍によつて武装
解除された支那第二十九軍の
兵士（北苑の支那營庭にて）



上圖は八月三日我が空軍に爆破された西
苑馮治安第三十七師の支那兵營
左圖は八月五日北苑に於ける第二十九軍
の押收武器



敵影の掃蕩

右圖は

八月五日〇〇縣城内の敗殘兵を捜査する我が
騎兵部隊

下圖は

八月五日どんよりした小雨の中を便衣隊又は
正規兵を求むべく捜査する我が警備兵
(朝日新聞社撮影)



砲火の中に皇軍警備



上圖は銃剣を手に闇を突いて眼を光らす

〇〇縣城内の警備する我が歩哨

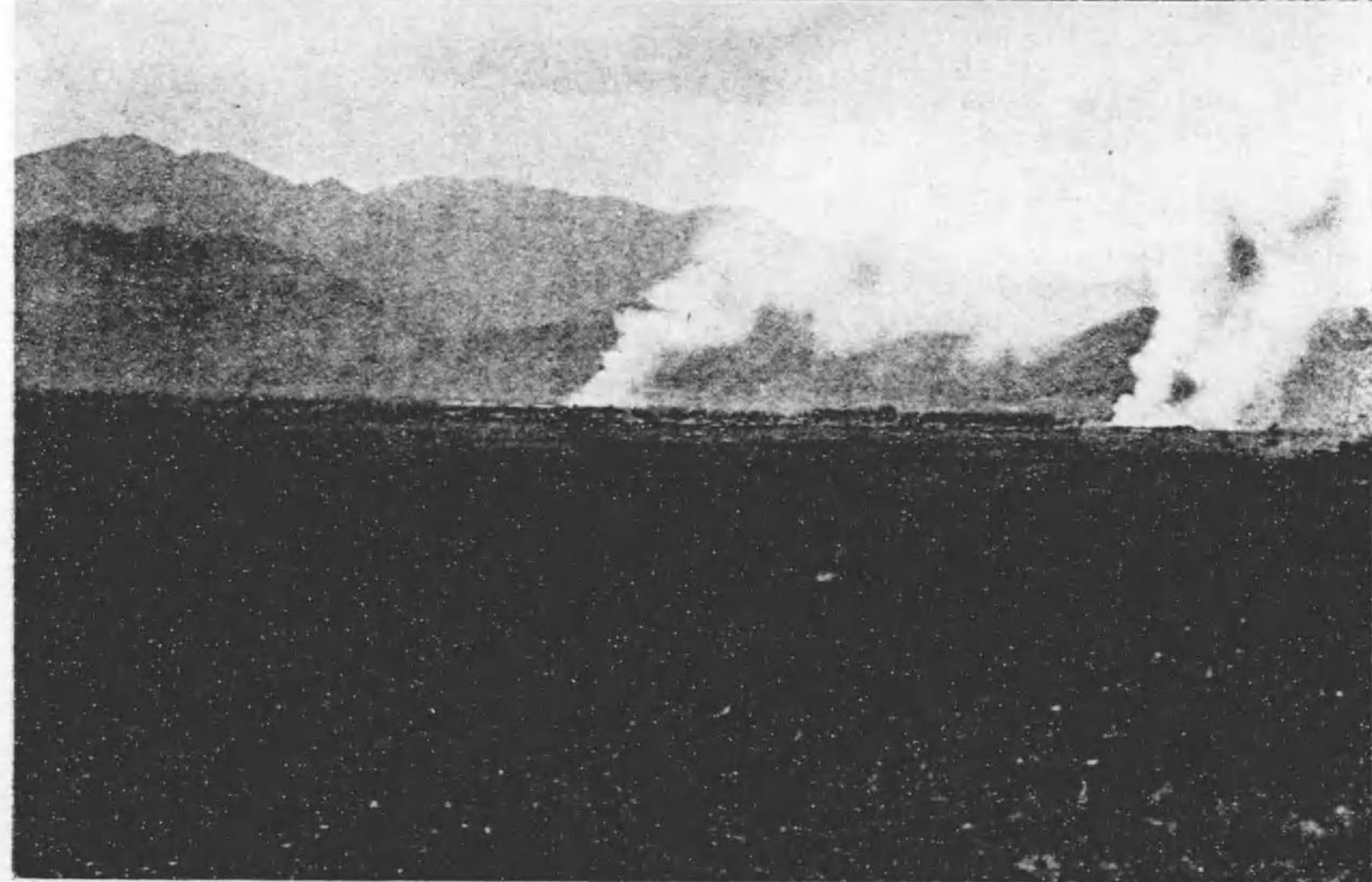
八月八日〇〇縣城内壁で寸刻の餘間もなき我が警備兵



皇軍の北平入城

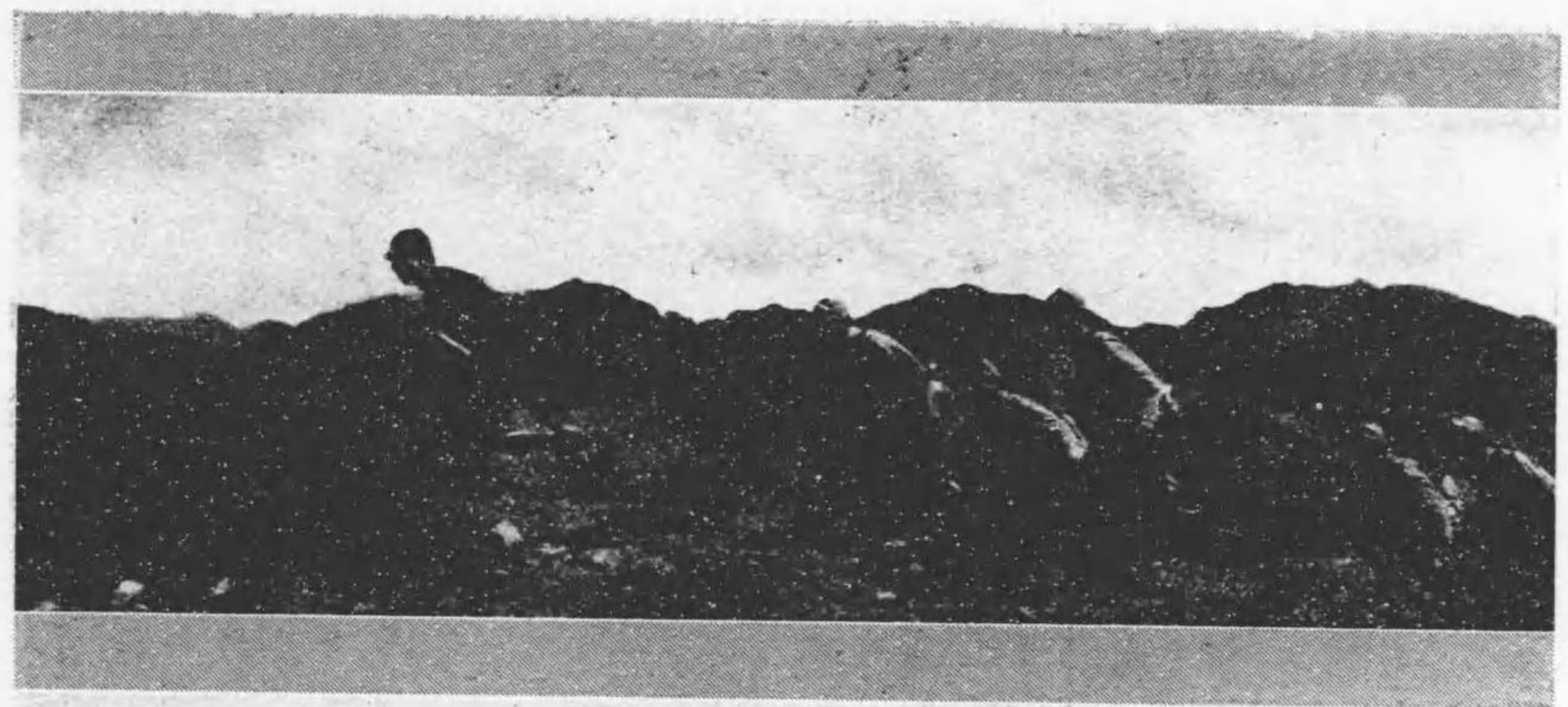


八月八日北平は遂に我が軍の爲め占據され、今や正陽門附近を堂々入城する我が〇〇騎兵隊(上圖)(下圖)は北平入城する皇軍部隊を歓迎する支那人



南 口 砲 撃

上圖は南口鎮敵陣めざして猛撃の火蓋を切つた我が〇〇砲兵隊の活躍下圖は天嶮を利用しての敵の作戦も我が精銳無比の砲撃には遂に屈服今や轟然ねらひ打に打込む巨弾によつて炎々と燃えあがる南口市街



南 口 の 攻 撃

愈々中央軍との衝突

八月十一日南口鎮攻撃の爲め敵陣めがけて突撃する我が第一線部隊の將兵

下圖は炎熱と戦ひつつ砂煙を卷いて南口の敵陣めざして進撃する我が騎兵部隊



南口總攻撃

八月十一日南口總攻撃における敵狀視察中の我が皇軍左圖は爆音高く南口攻撃に陸上部隊と協力する我が軍飛行機右圖は最前線で活躍する通信班と敵兵に猛射をあびせる皇軍兵士の勇姿



南口鎮占據

八月十一日南口鎮は遂に我軍の爲め完全に占據された上圖は皇軍の萬歳三唱
右圖は
豪雨流れて南口鎮城門から瀧の如くあふれる中をわが軍入城す歡聲をあげ南口望樓敵陣地に肉迫する我が軍の勇壯振り

神速的通州攻撃

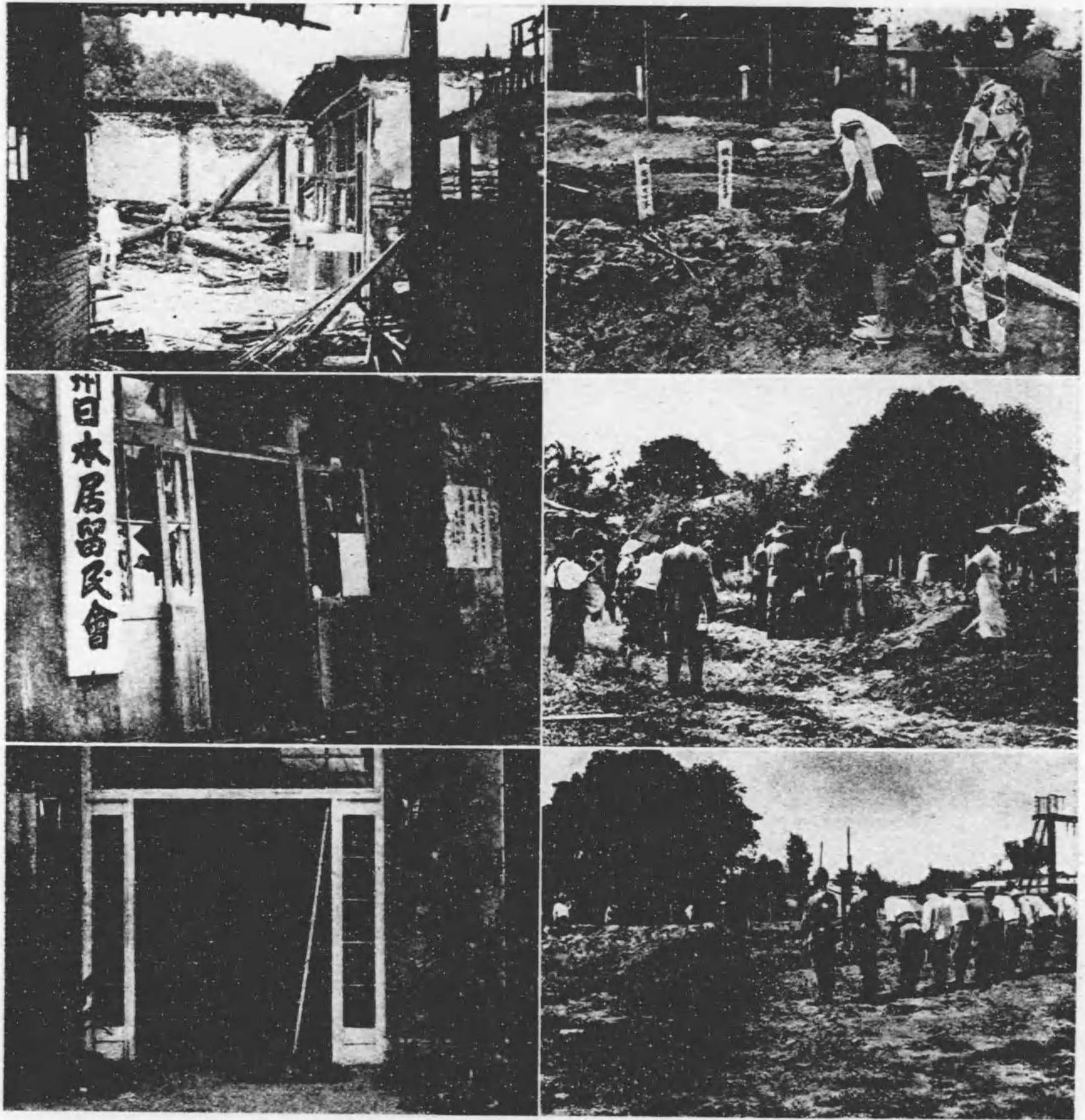
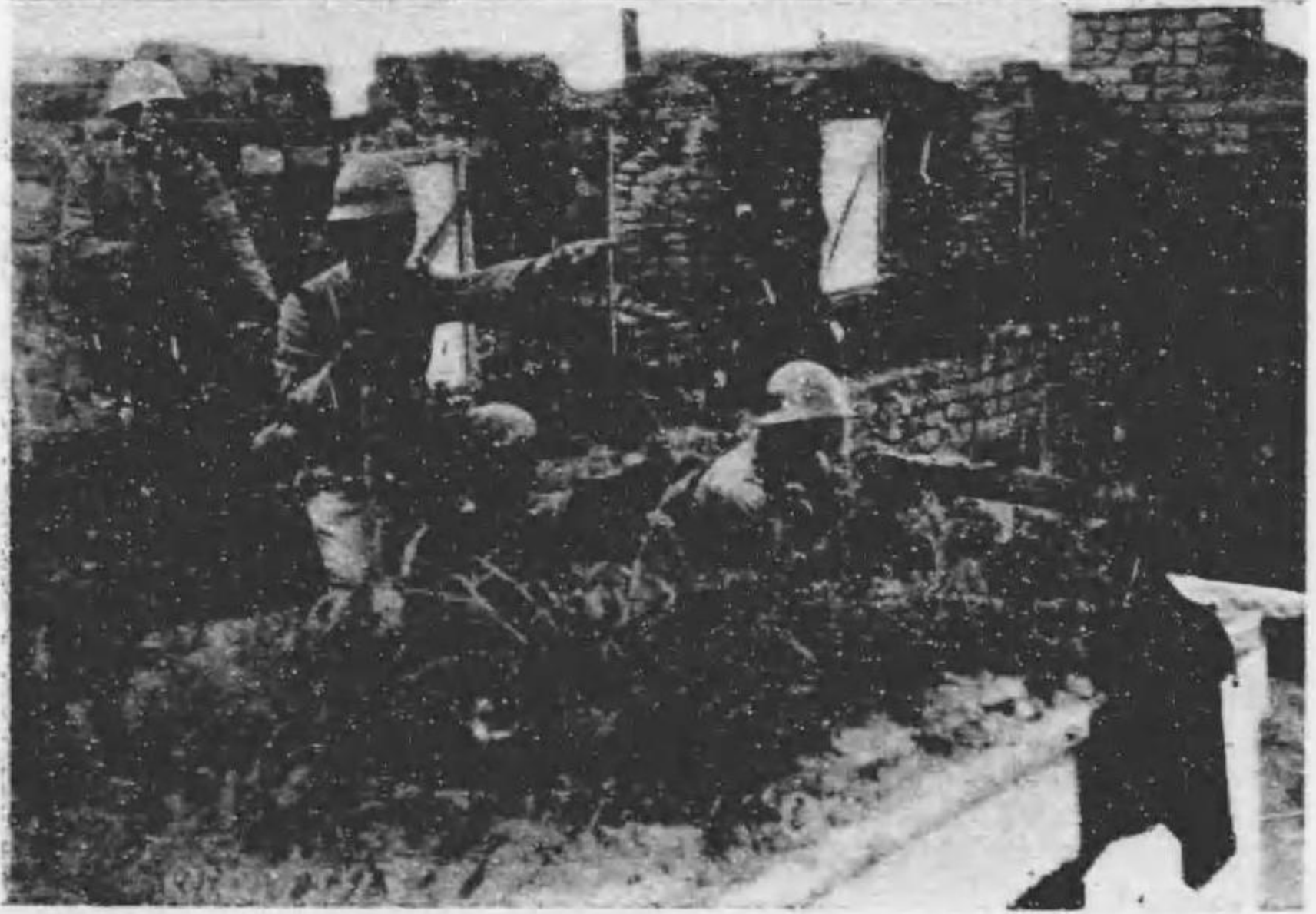
權益擁護の爲め力戦奮闘の皇軍は一日も涙なくては居られぬ上圖は通州城壁上の哨兵



通州城壁に據つて敵軍をねらひ射する我軍



通州城壁に據つて射撃中の我が皇軍



噫！
通州慘劇の跡

上圖は
生存者たちが花を折つて墓地に供る

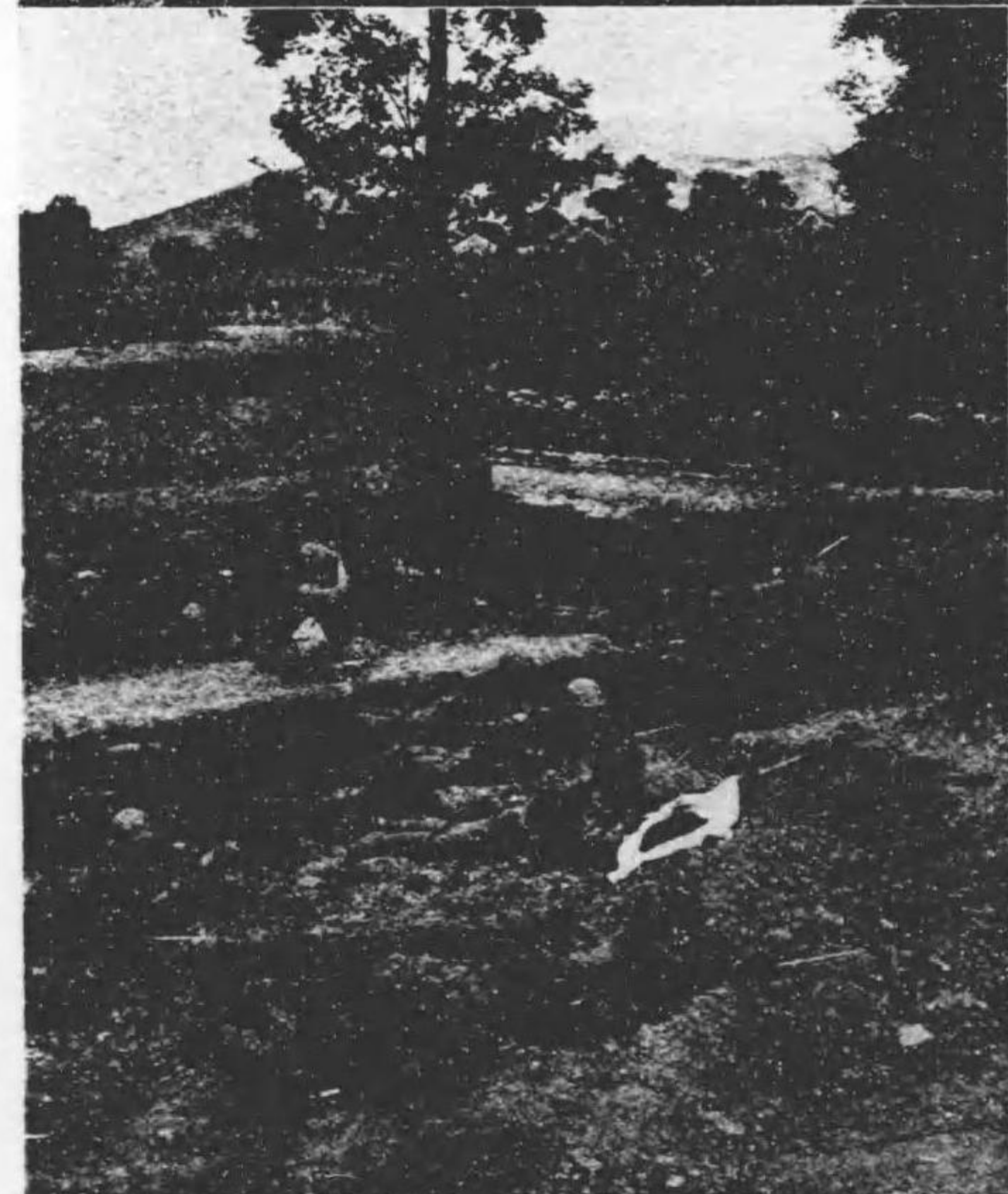
中圖は
犠牲者の悲しき假埋葬

下圖は
生存者一同の假埋葬地に於ける禮拜

上圖は
日本領事館警察署の被害

中圖は
破壊されたる日本通州居留民會の入口

下圖は
犠牲者を多くだした近水樓の入口



皇軍の進出 冀東地方の戦闘

勇猛果敢なる皇軍は命令一下陸に空に協力してよく数十倍の敵を引受け愈々戦火を交へるや殲滅的打撃を與へしむるは國民の感激する所なり

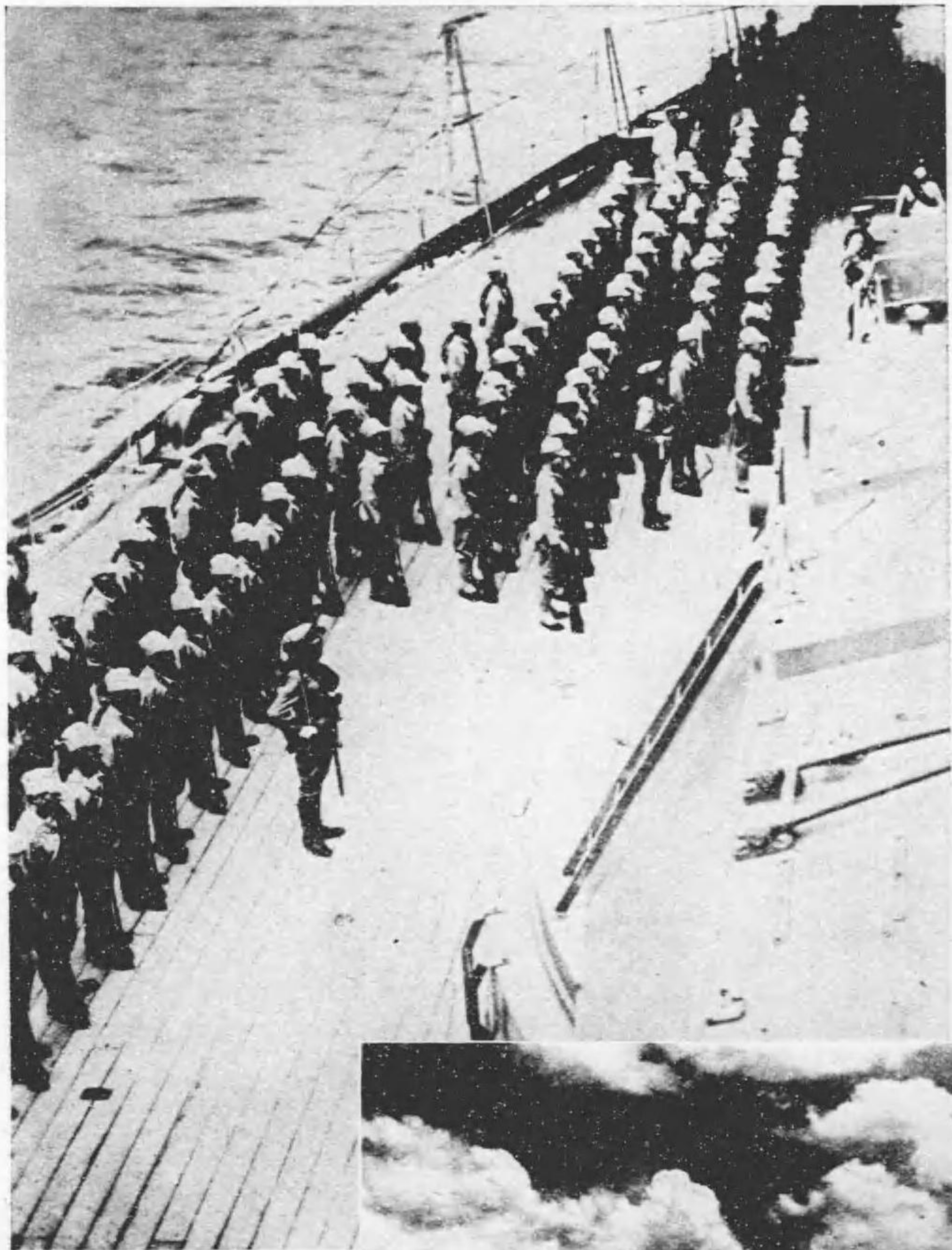
上圖は我軍偵察隊長驅〇〇城に入る左圖は冀東地區〇〇附近に進出の我が〇〇部隊の先頭



鐵路を守る

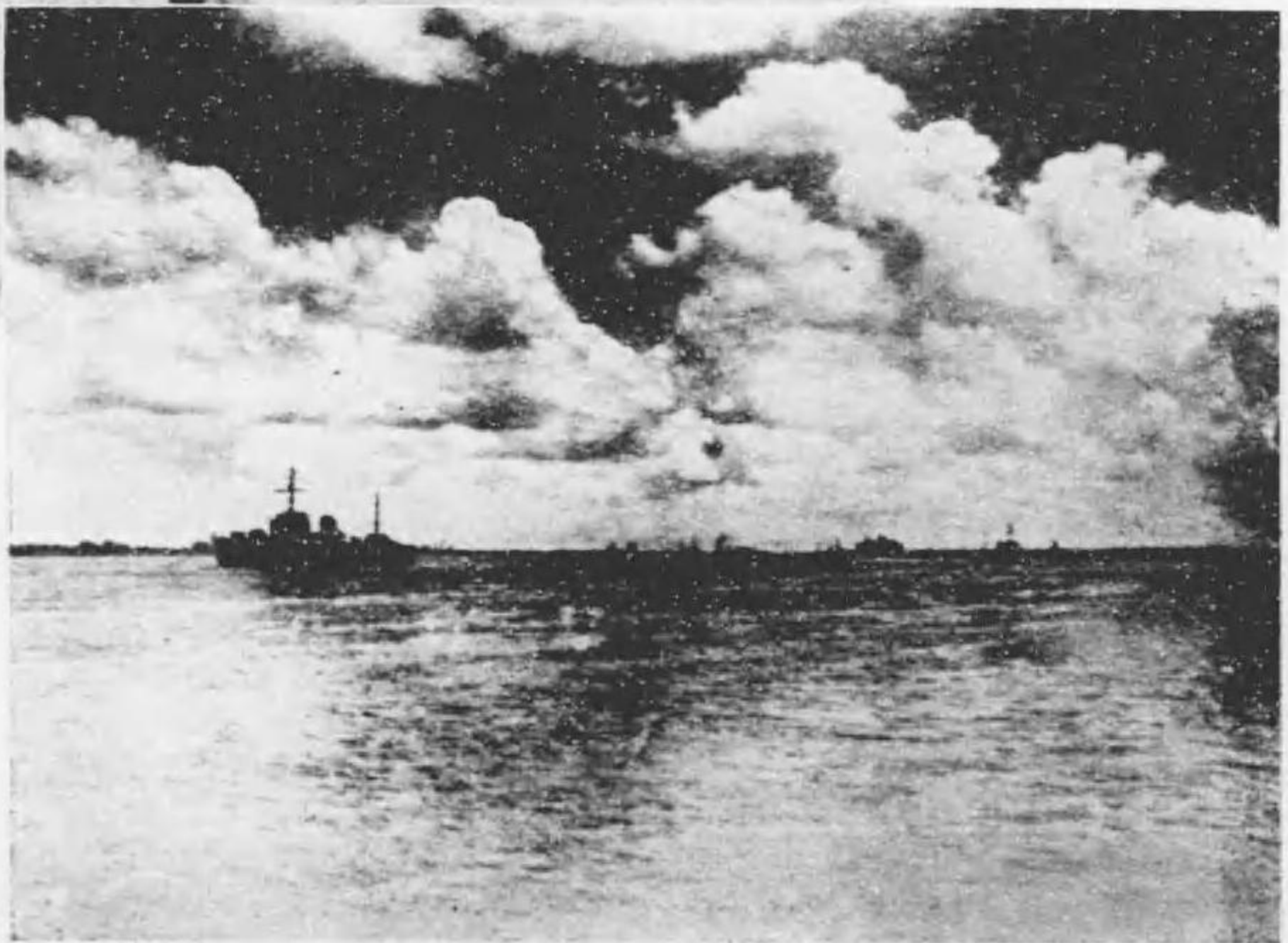


上圖は支那軍爆破の長辛店鐵道線路と線路を守備する皇軍と應戰
中圖はトロッコで鐵道沿線を警備する〇〇歩兵部隊
中圖右は支那軍敗走の際爆破した南崗窪鐵橋
下圖は南崗窪で盛に交戦中我が機關銃隊



封鎖宣言

第三艦隊司令長官は廿五日午後四時左の宣言を發した
昭和十二年八月廿五日午後六時より中華民國沿海に於て本官指揮下に屬する海軍力を以て中華民國公私船の交通を遮斷する事を宣言す



上圖は勇躍任務につかんとする海軍陸戦隊
下圖は支那沿海を封鎖の我が海軍

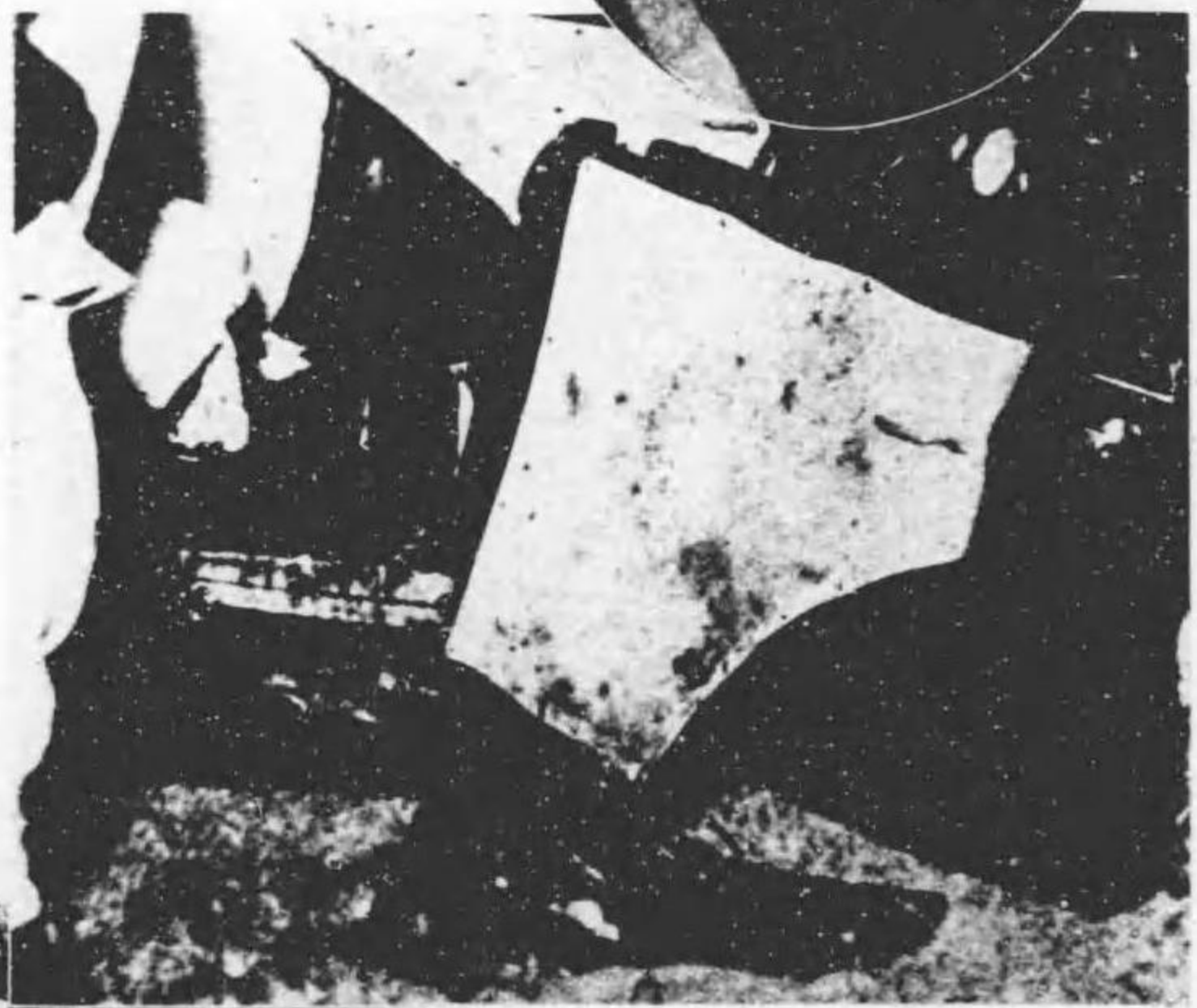


北支事變遂に上海に飛火

大山齋藤射殺事件

右圖は射殺された大山大尉

左圖は齋藤與藏兵曹

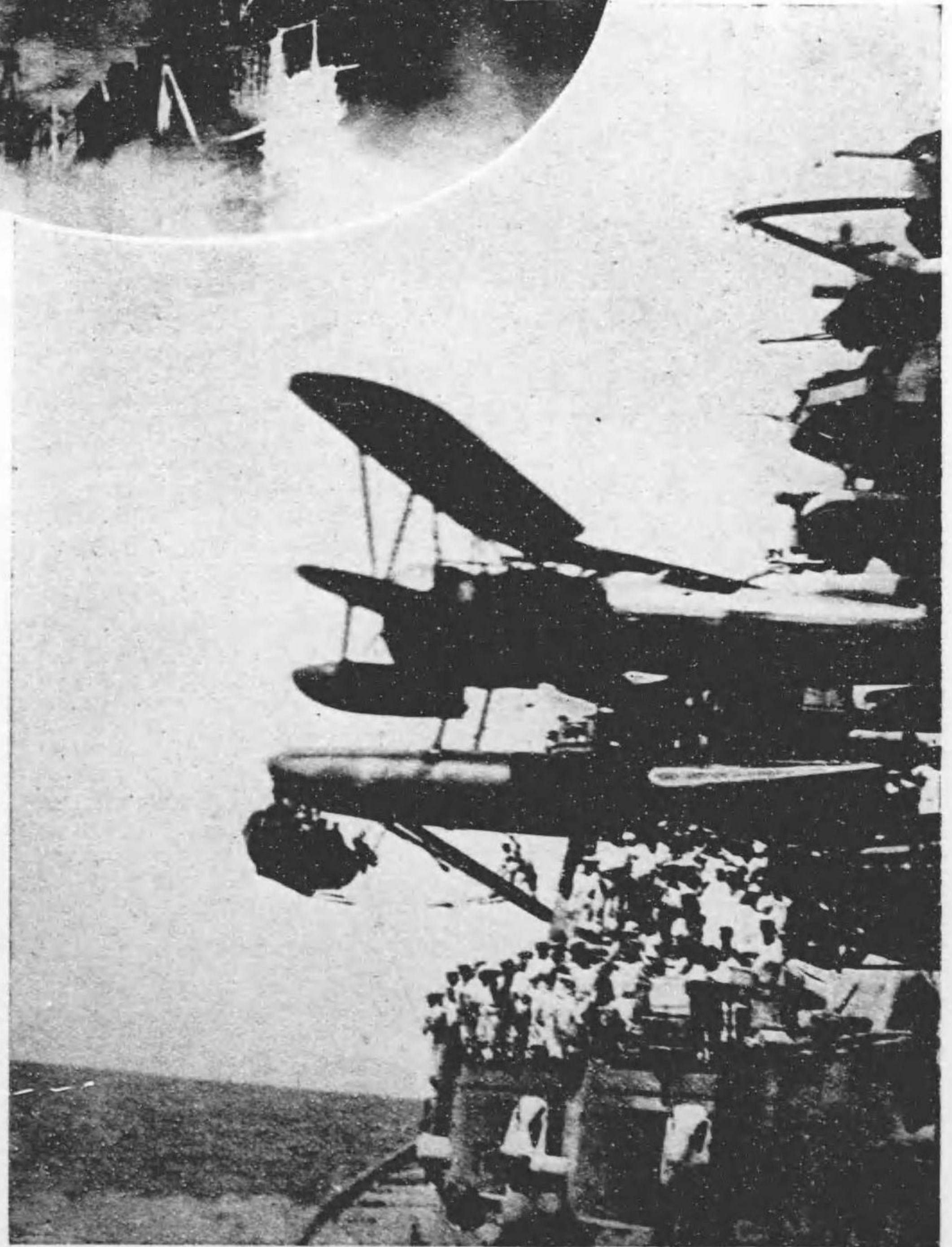
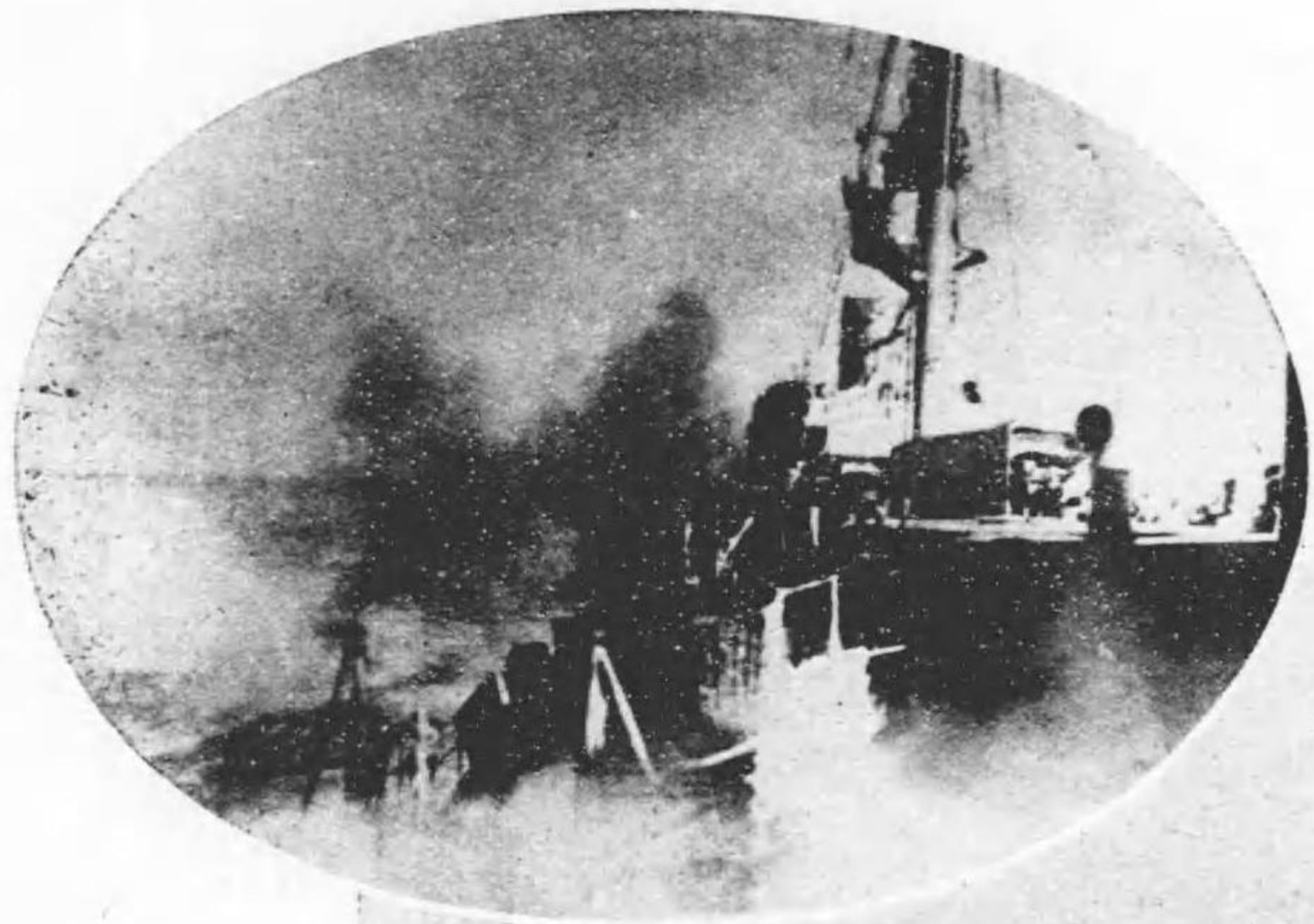


下圖は共同租界越界路モニユ
ーメント路の大山大尉齋藤兵
曹憤死の現場に於ける日支共
同檢證



上圖は
大山齋藤兩氏の乗つてゐた遭難自動車の一
部扉は一面血に染り、其の前のステツ
プに腦漿が流れてゐた
(東京日々新聞社撮影)

海の精銳と
空の精銳

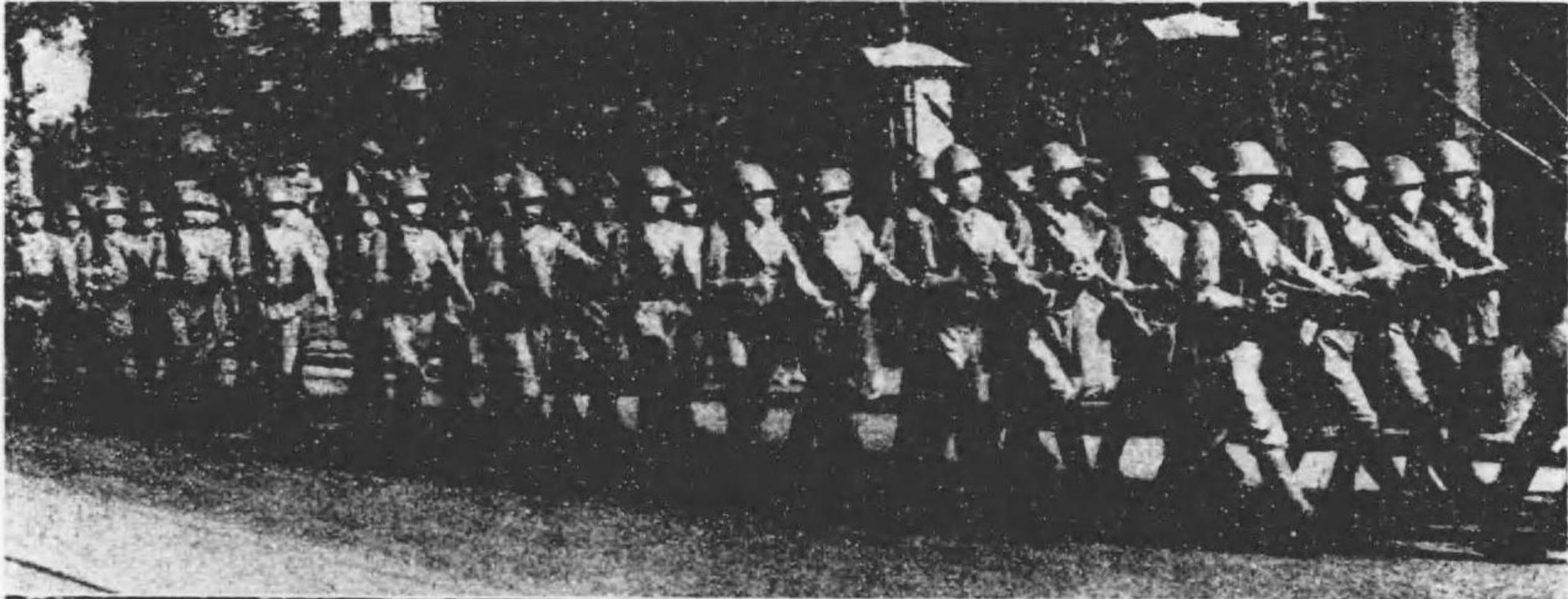
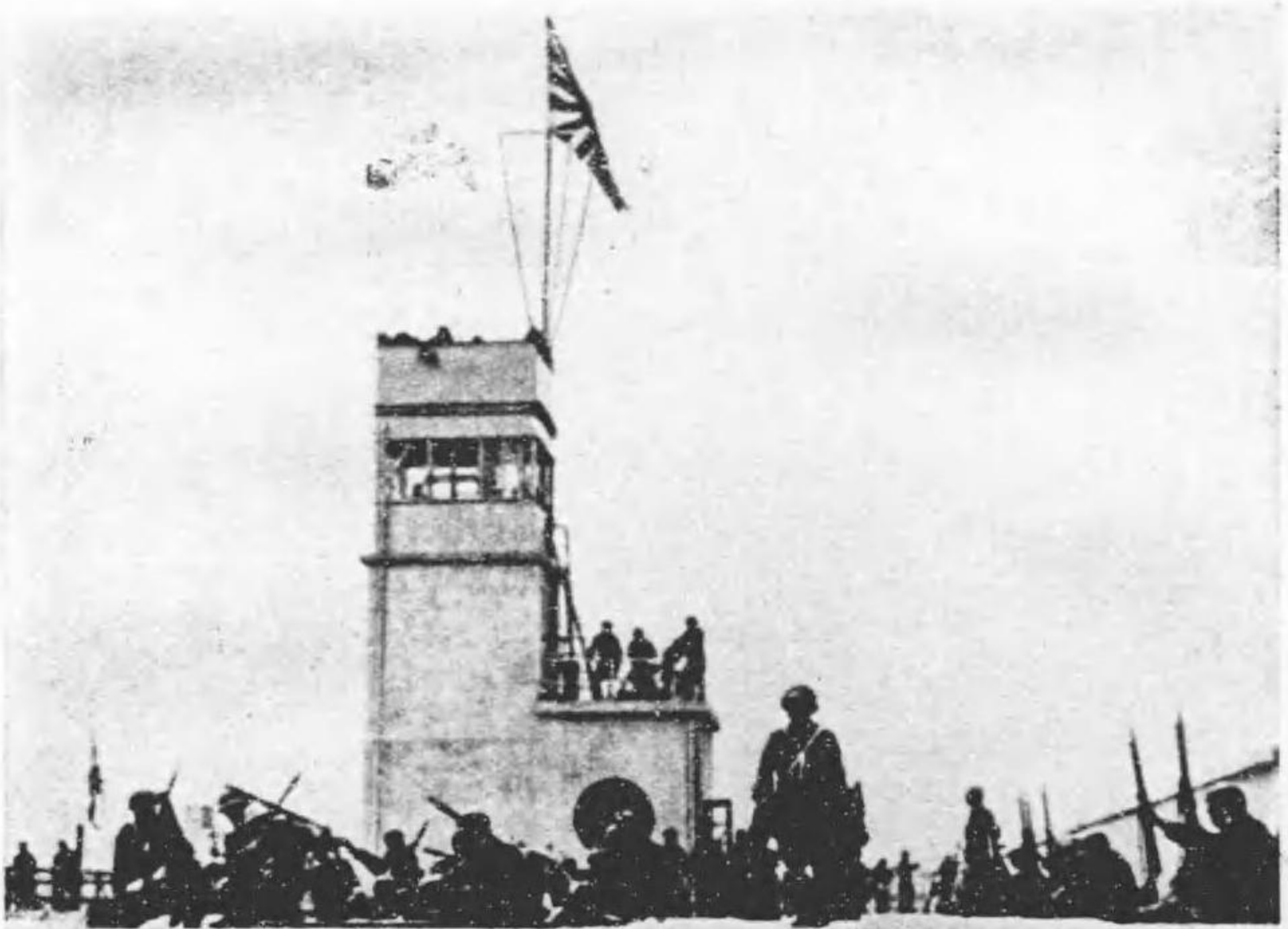


上圖は風浪と戦ひ支那海を歴する我が海軍の精銳

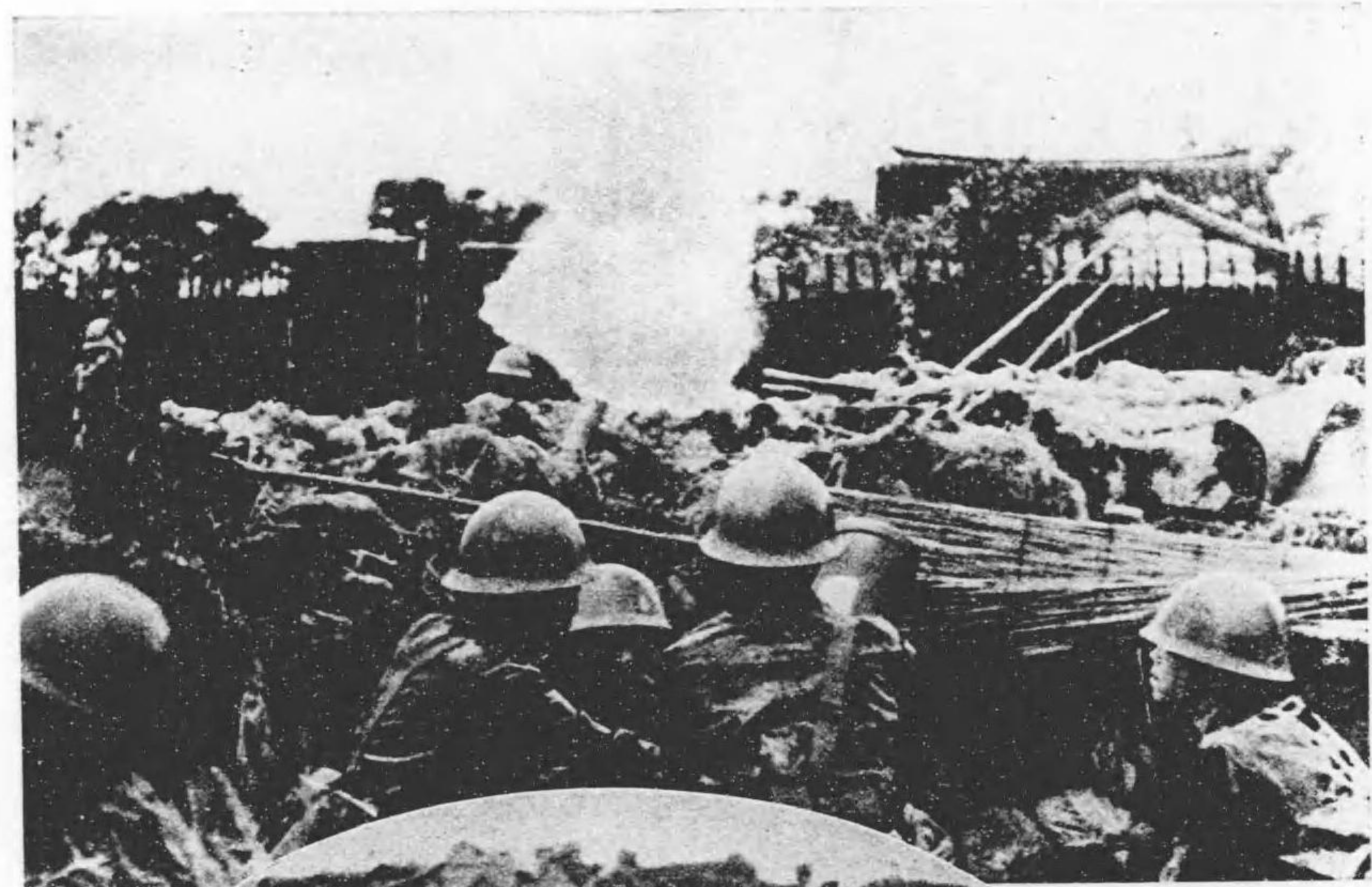
下圖は〇〇にて勇躍艦を離れんとする海軍機

(海軍省御貸下)

八月十四日軍艦旗を先頭に暗夜の上海市内を行進する我が陸戦隊命令一下歩武堂々上海市内を行進する我が海軍特別陸戦隊の精銳
左圖は閩北へ急援のため出動した陸戦隊員の光景



海軍陸戦隊の出動



支那軍の心臓を寒からしめた
最前戦で盛んに活躍中の我が〇〇砲

上圖は上海市街戦に於ける轟然また
轟然の砲煙〇〇皇軍砲隊の活動



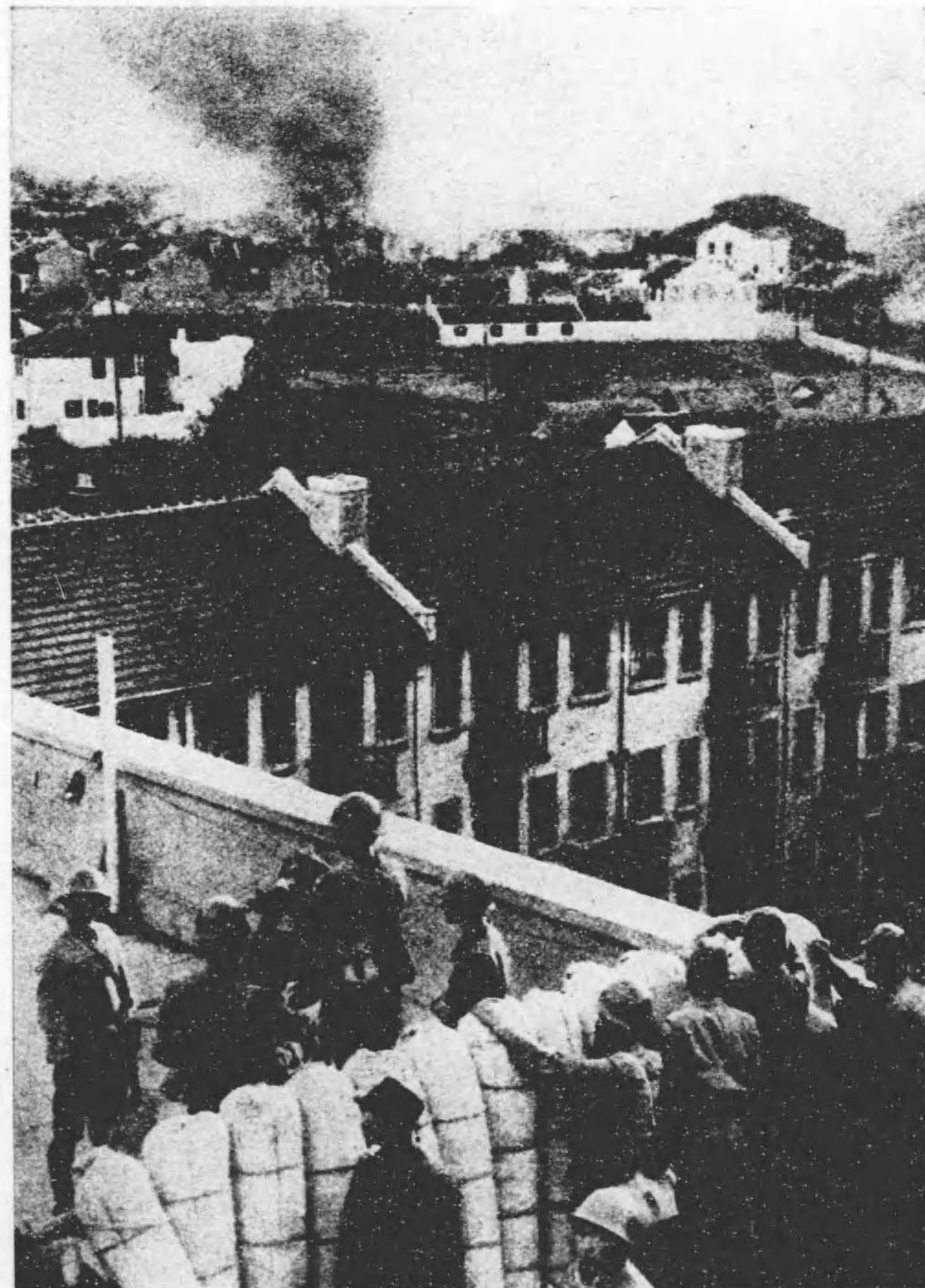
我が上海陸戦隊の奮戦

勇壯果敢な行動を見よ誰か目のうるまぬものはあらうか
支那軍の不法空爆による猛火の中で活躍する我が陸戦隊

(朝日新聞社撮影)

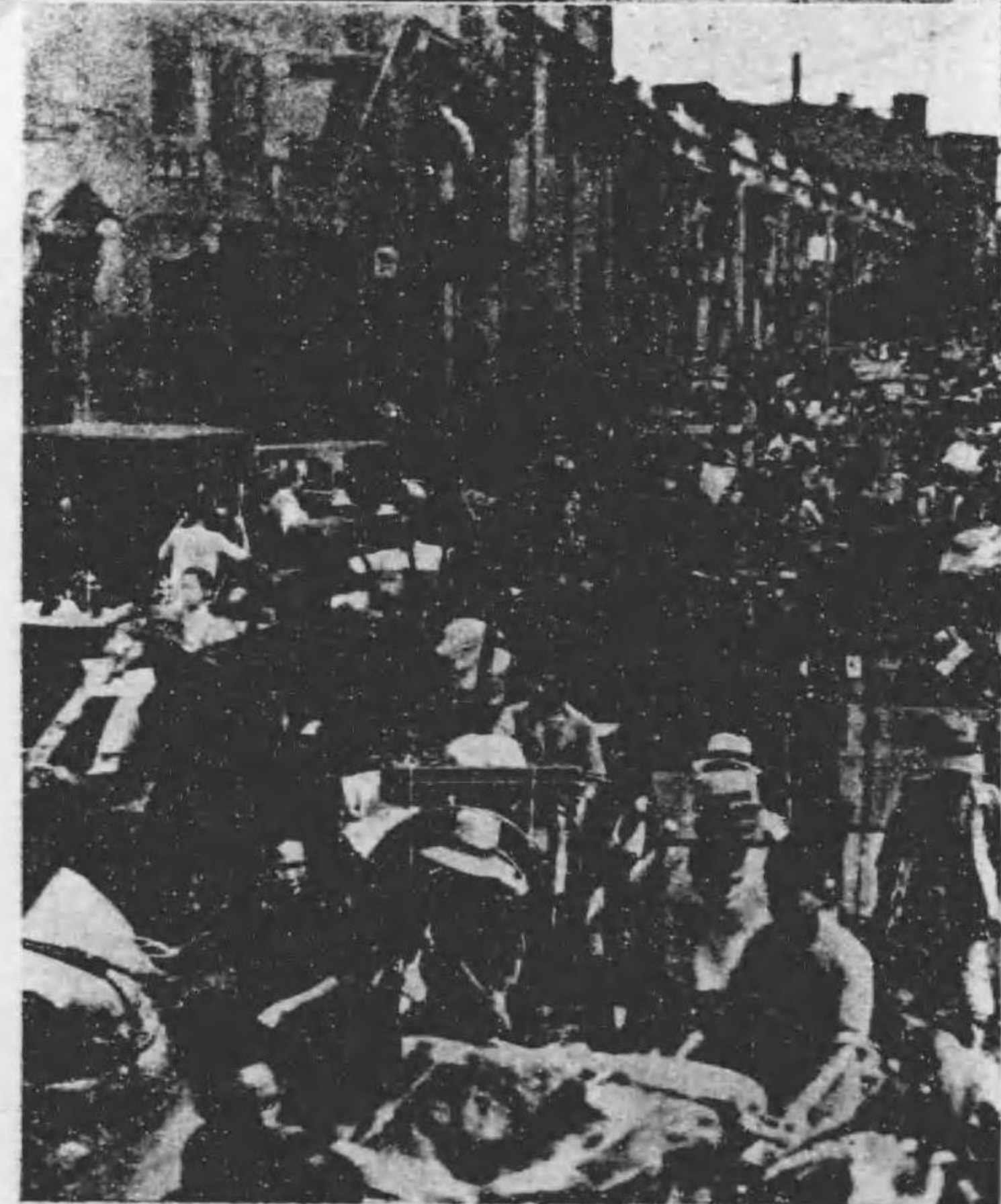
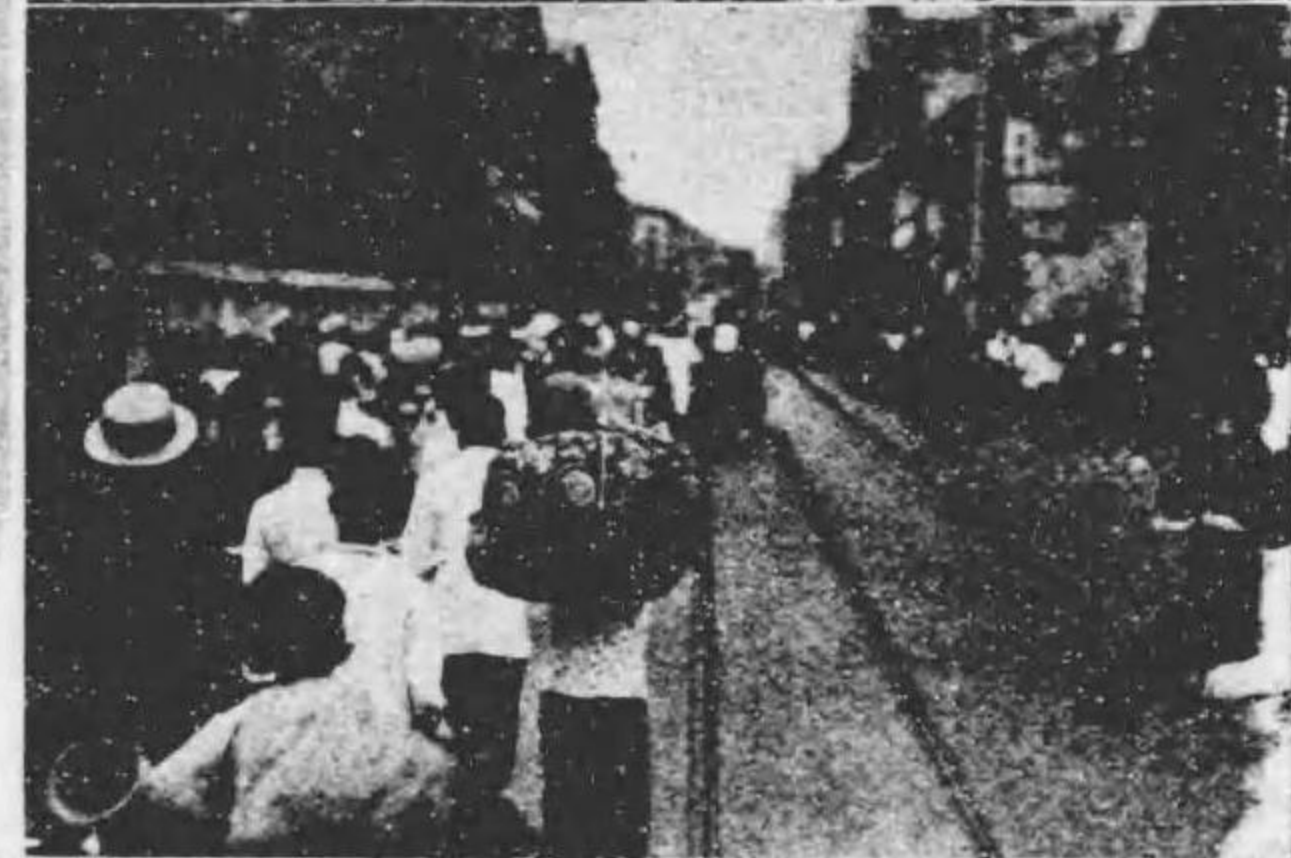
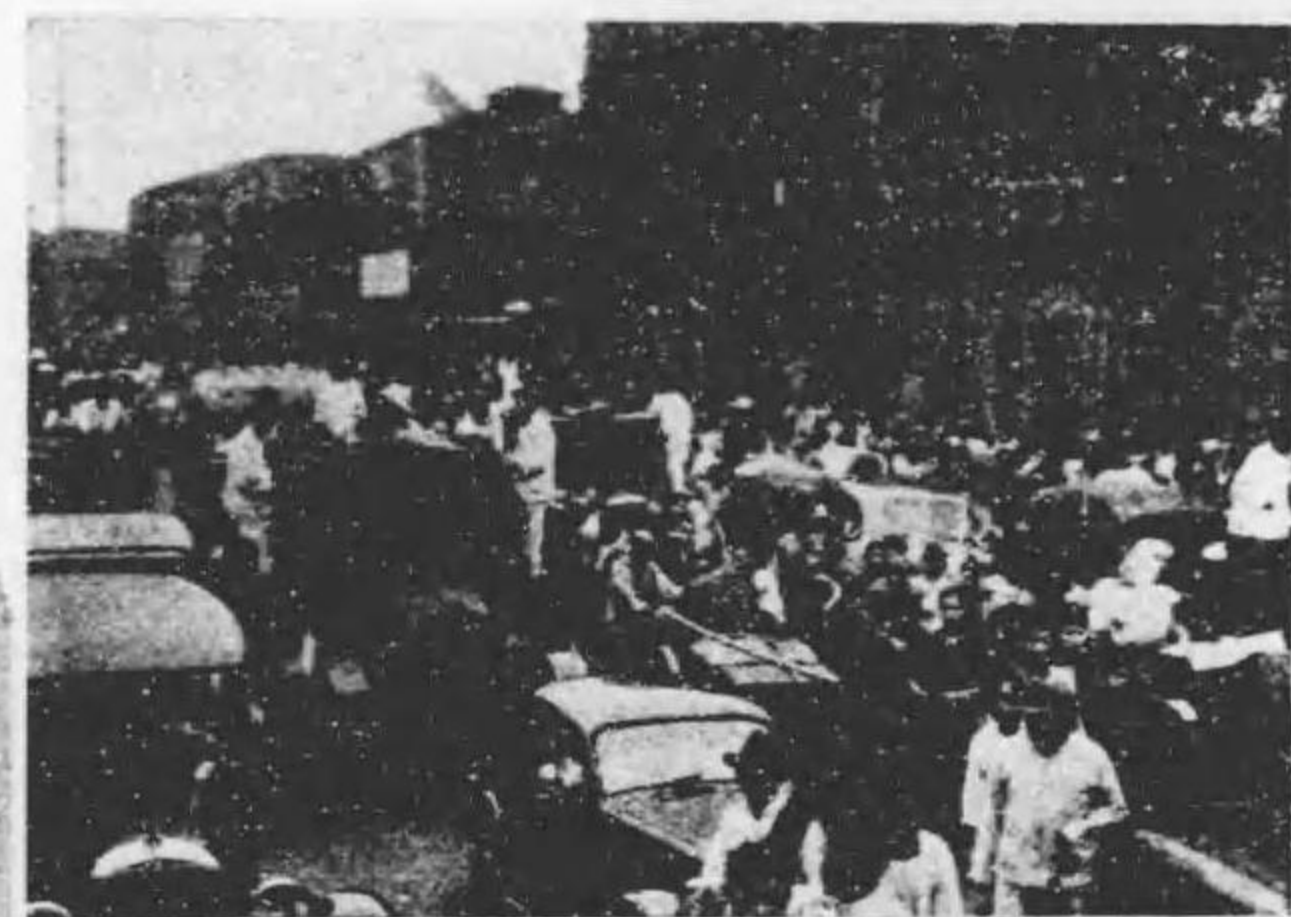
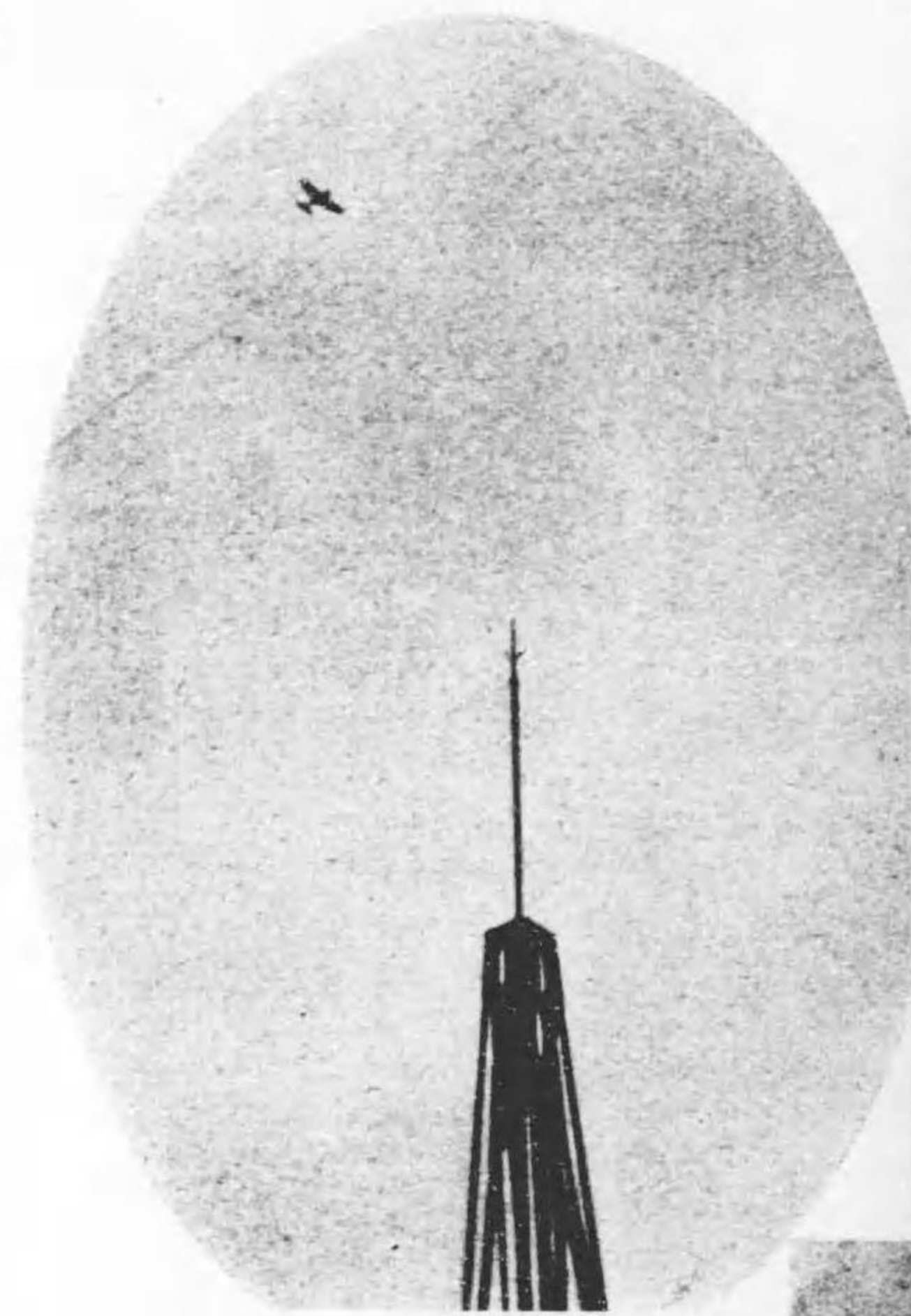


空中戦展開
 (朝日新聞社撮影)
 八月十六日攻撃中の我が高射砲弾炸裂の中を逃遁する敵軍の飛行機

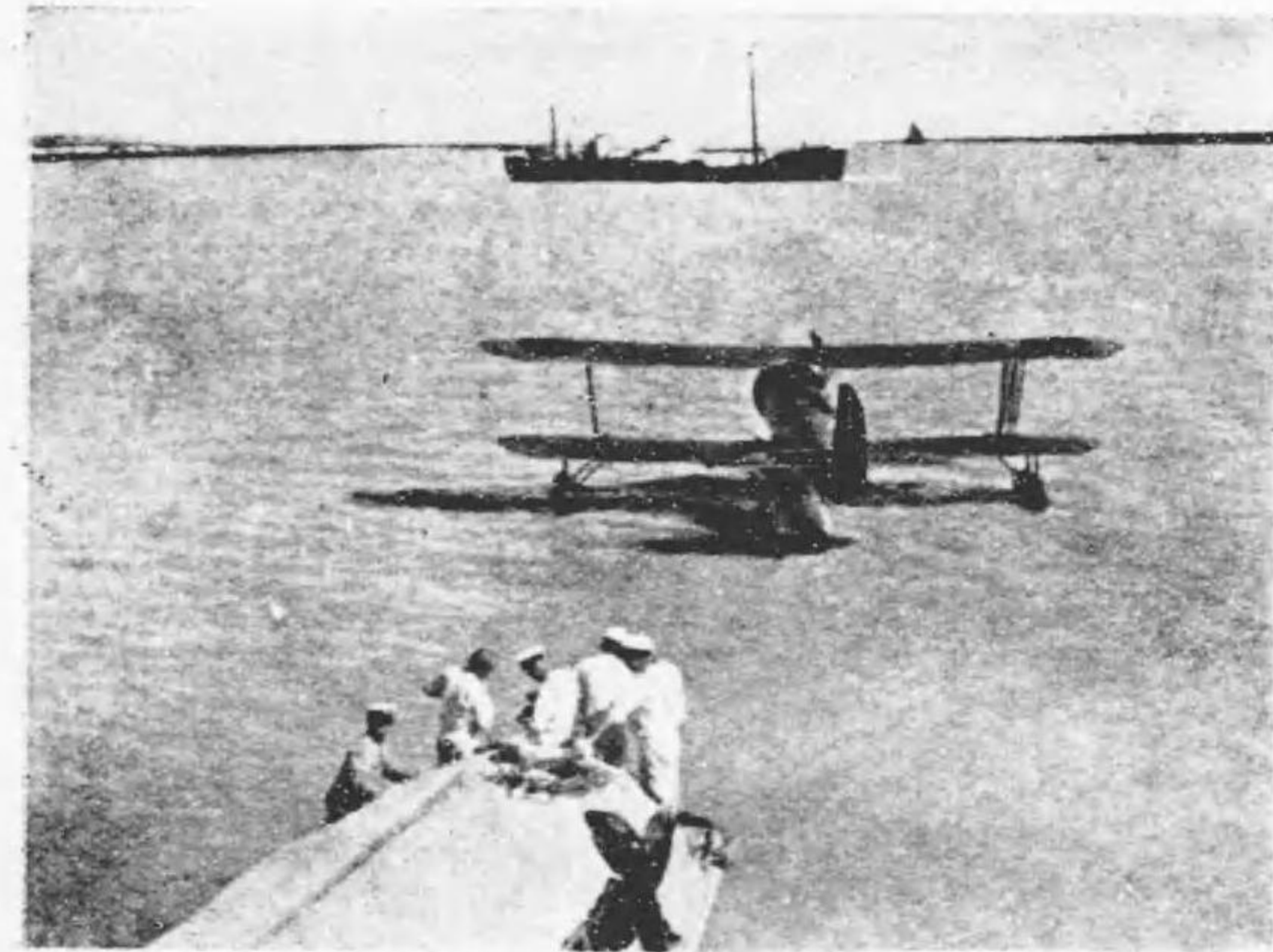


爆 空

空爆による上海は今や猛火に包まれ華かなりし国際都市も瞬間にして死人の巷と化した
 右圖は屋上の我が陸戦隊観測班と空中爆撃によつて火災天を冲す

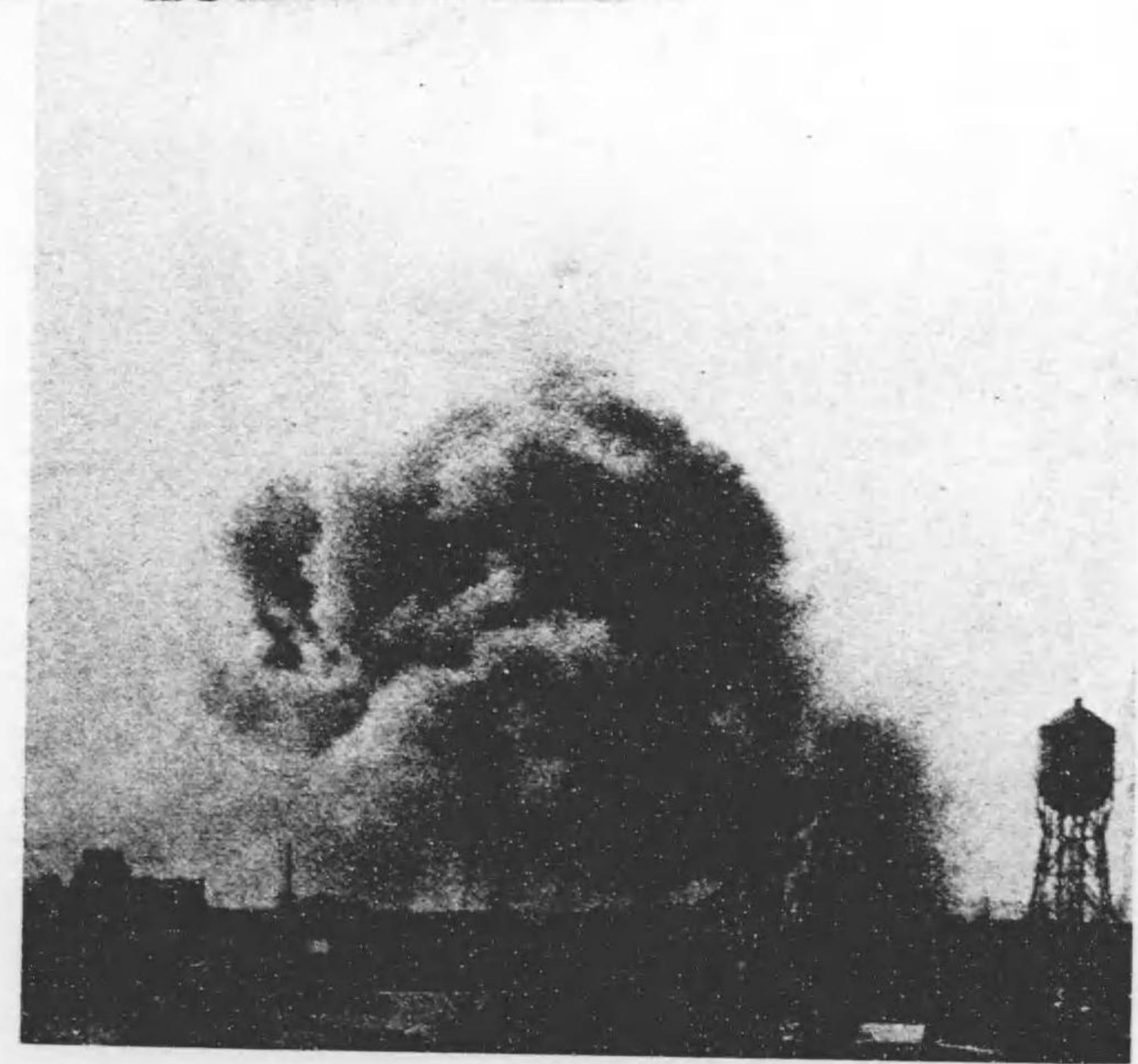


飛行機來の報に脅かされた上海支那民衆にしてフランス租界に向つて流れ込む避難民
上圖は
暴威を振ふた敵空軍のボーイング機憎くも虹口上空に姿を現はす



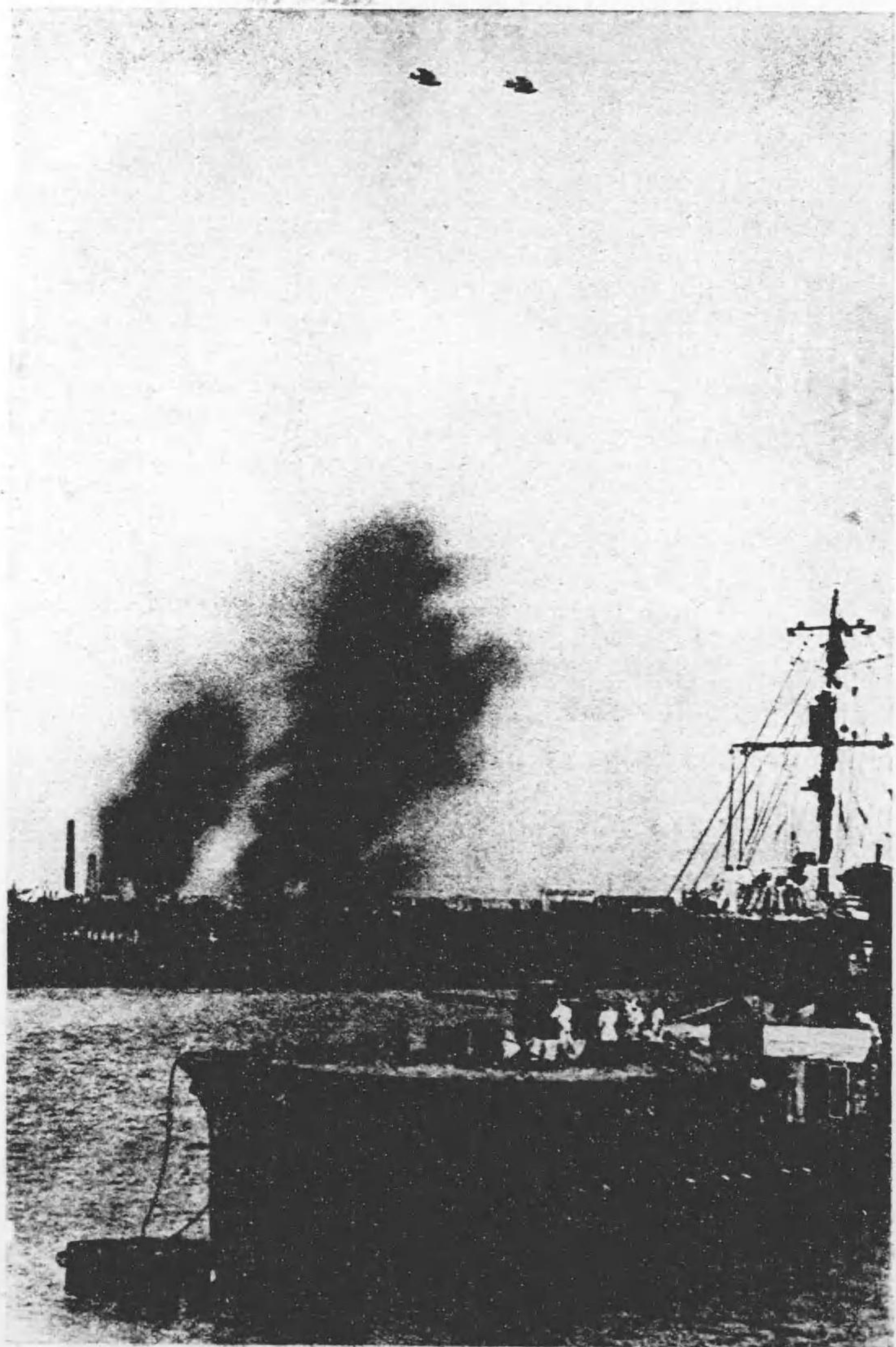
壯烈なる
空中戦

我が空軍の爆弾投下命中轟然たる炸烈黒煙天に掩ふ
八月十六日上海北停車場附近



(朝日新聞社撮影)

空中爆撃隊の活動



我が海軍機銀翼を運ね爆音勇ましく〇〇〇方面の敵を爆撃敢行



上海市街戦
我が陸戦隊歩兵砲隊の奮戦の光景



敵の空襲を受けた上海虹口一帯の光景



敵の空襲に備へ
敵飛行機射撃の待機



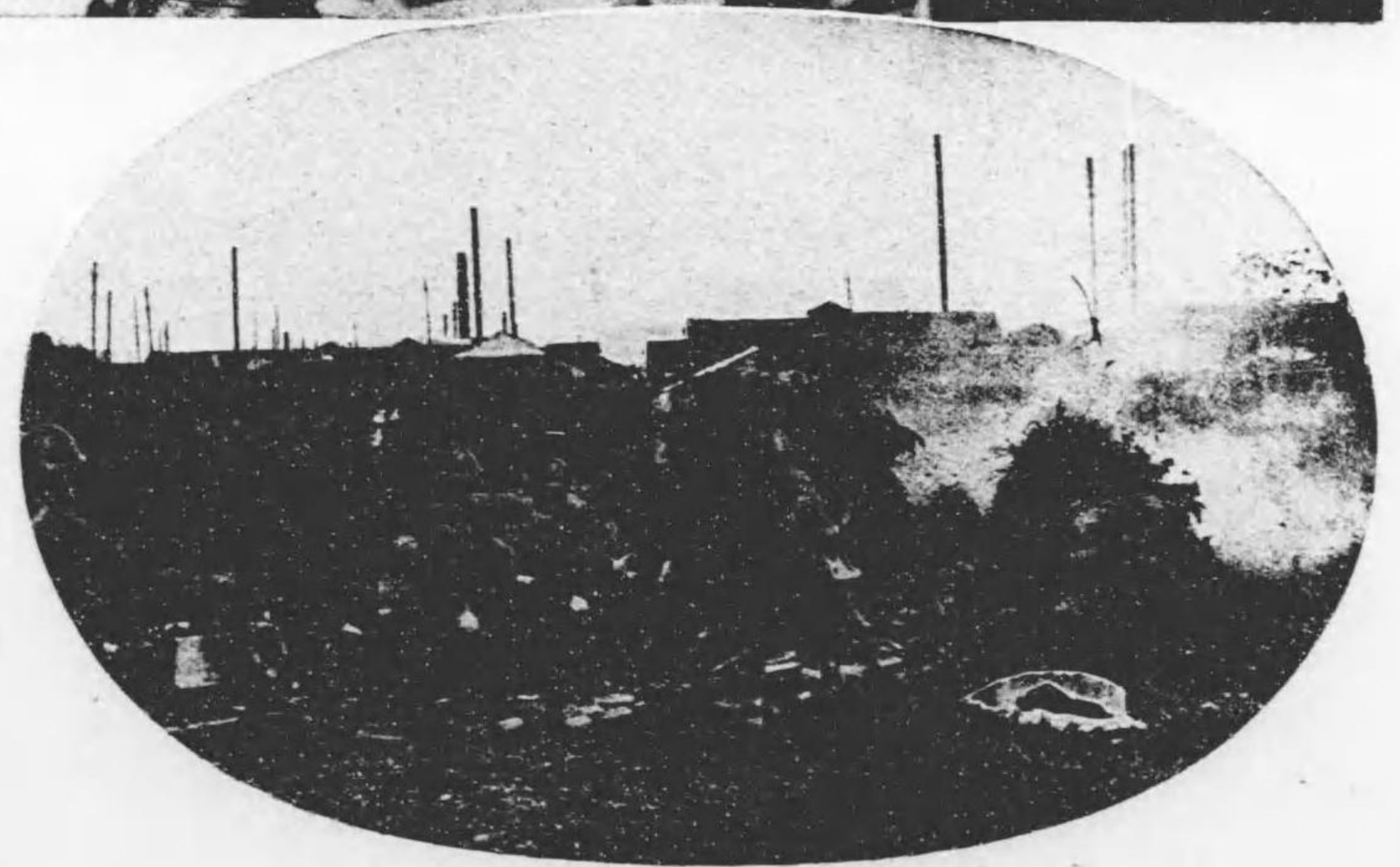
上圖は北四川路と老靶子路の交叉點を守る我が陸戦隊(八月十三日)

下圖は老靶子路附近の我が警備陣地

上海
市街戦

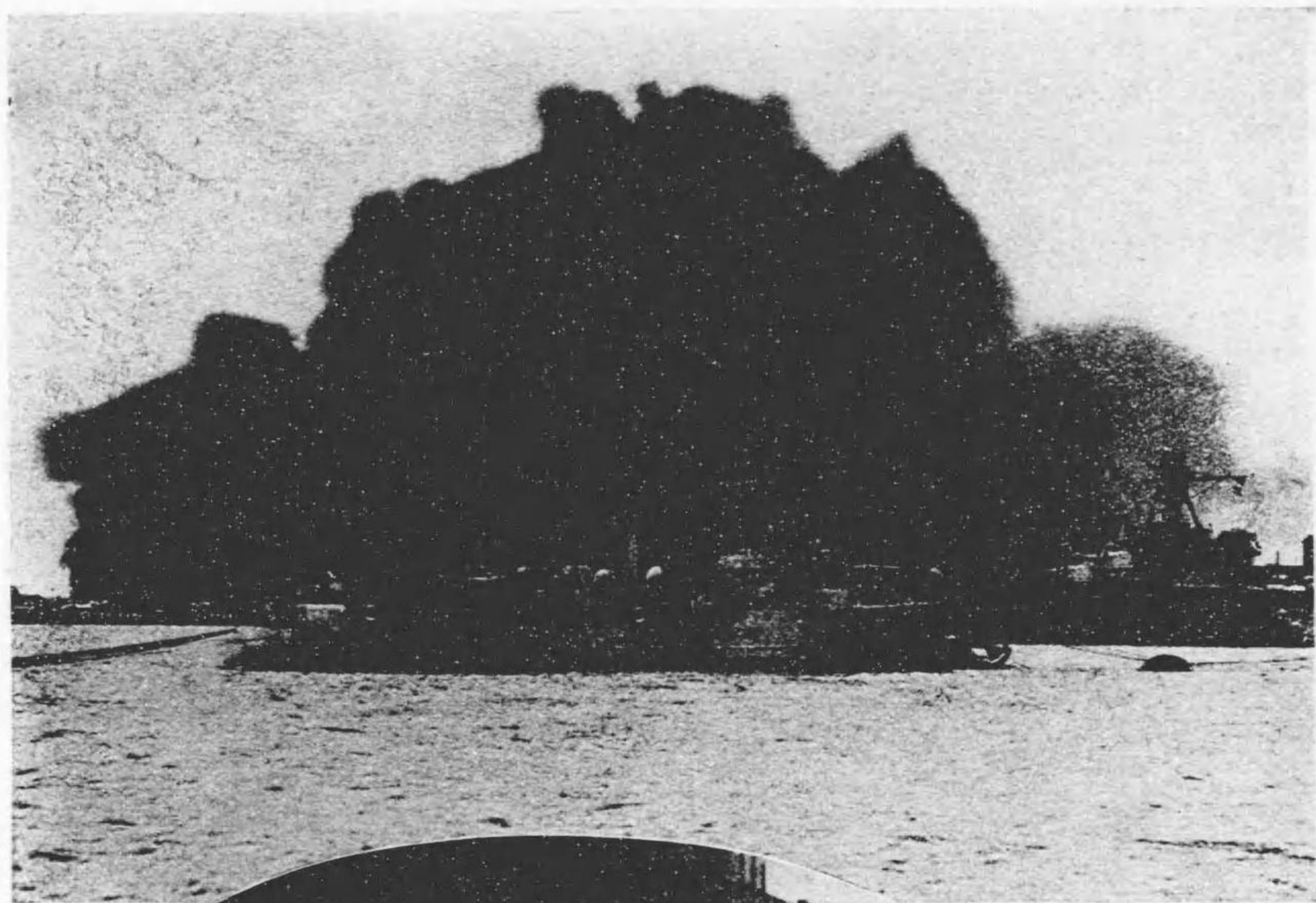


敵空軍に應射する我が地上部隊



陸戦隊本部近く敵の爆撃を迎へ應射する我が〇〇軍

下圖は〇〇〇近くわが〇砲の猛射をあびせる勇敢なる光景



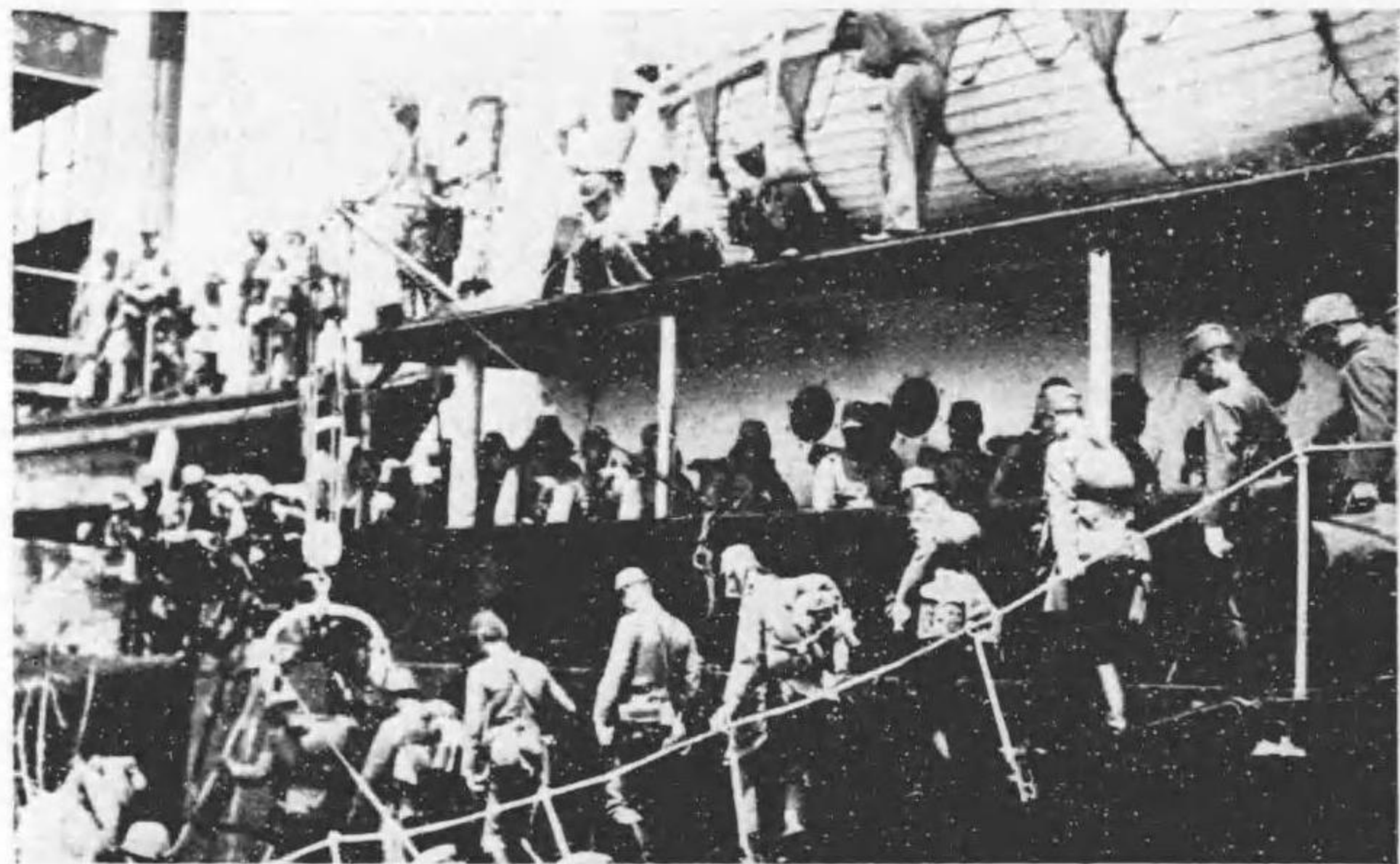
支那空軍の不法爆撃

上圖は支那空軍飛行機の爆弾投下による海岸アジャ石油タンク火災を起す
下圖は上海目貫の南京路カセイホテル前の爆弾落下し百數十人の死傷者を出す

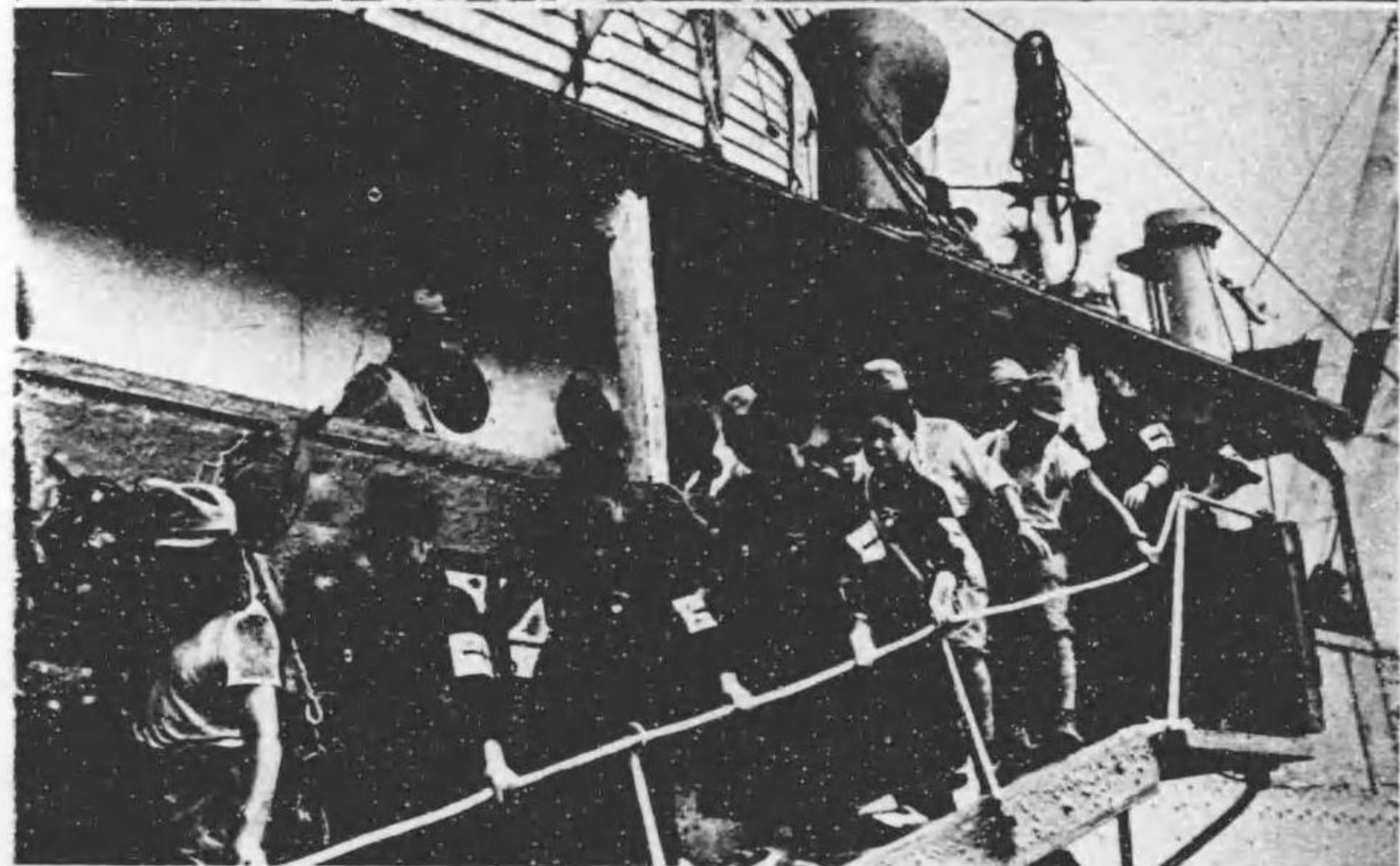


敵の構築して掩壕に身をよせて活躍中の第一線部隊
南口鎮陥落刻々迫る
酷熱と戦ひ南口に進撃中の歩兵部隊
下圖は塹壕内で活躍中の我が観測班





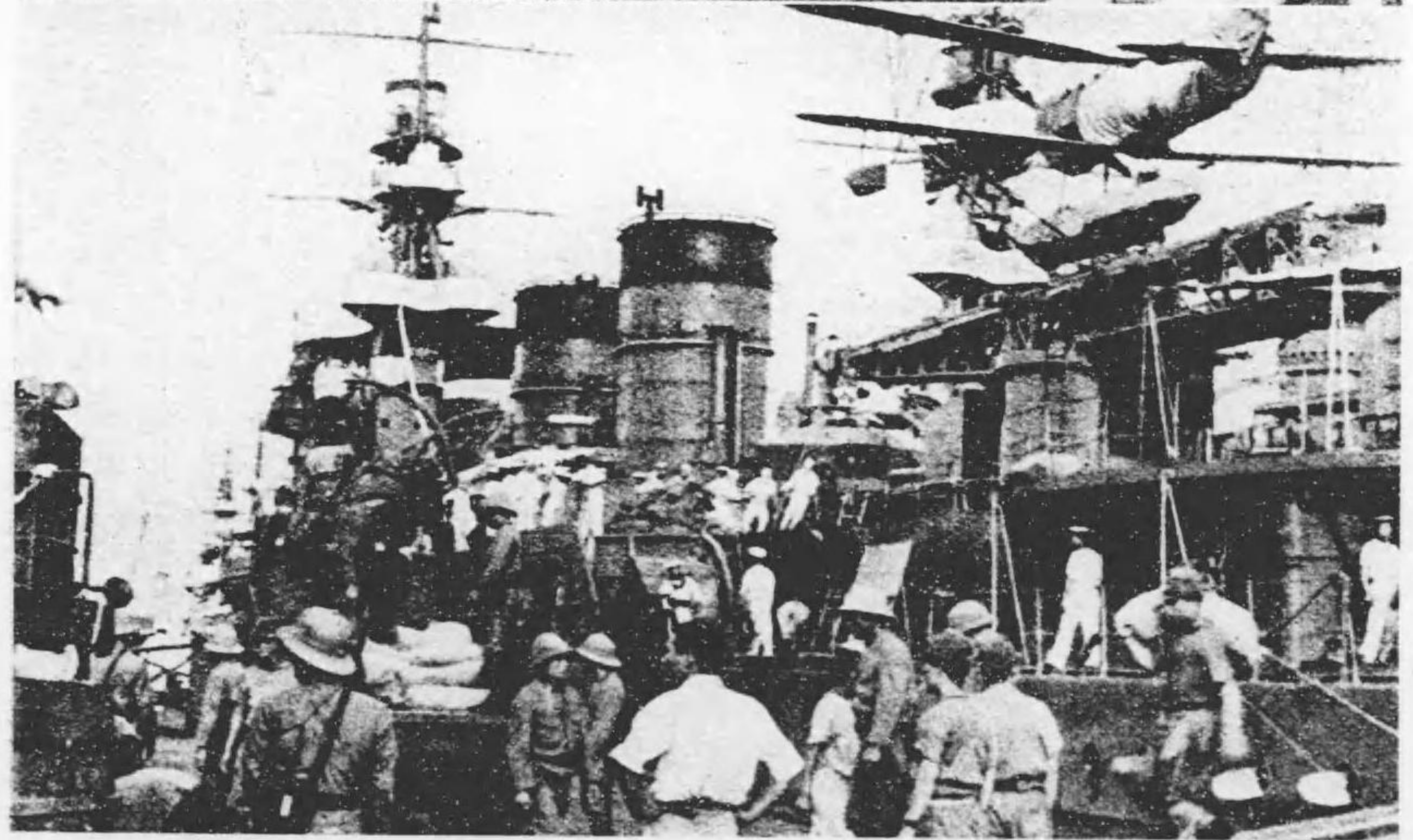
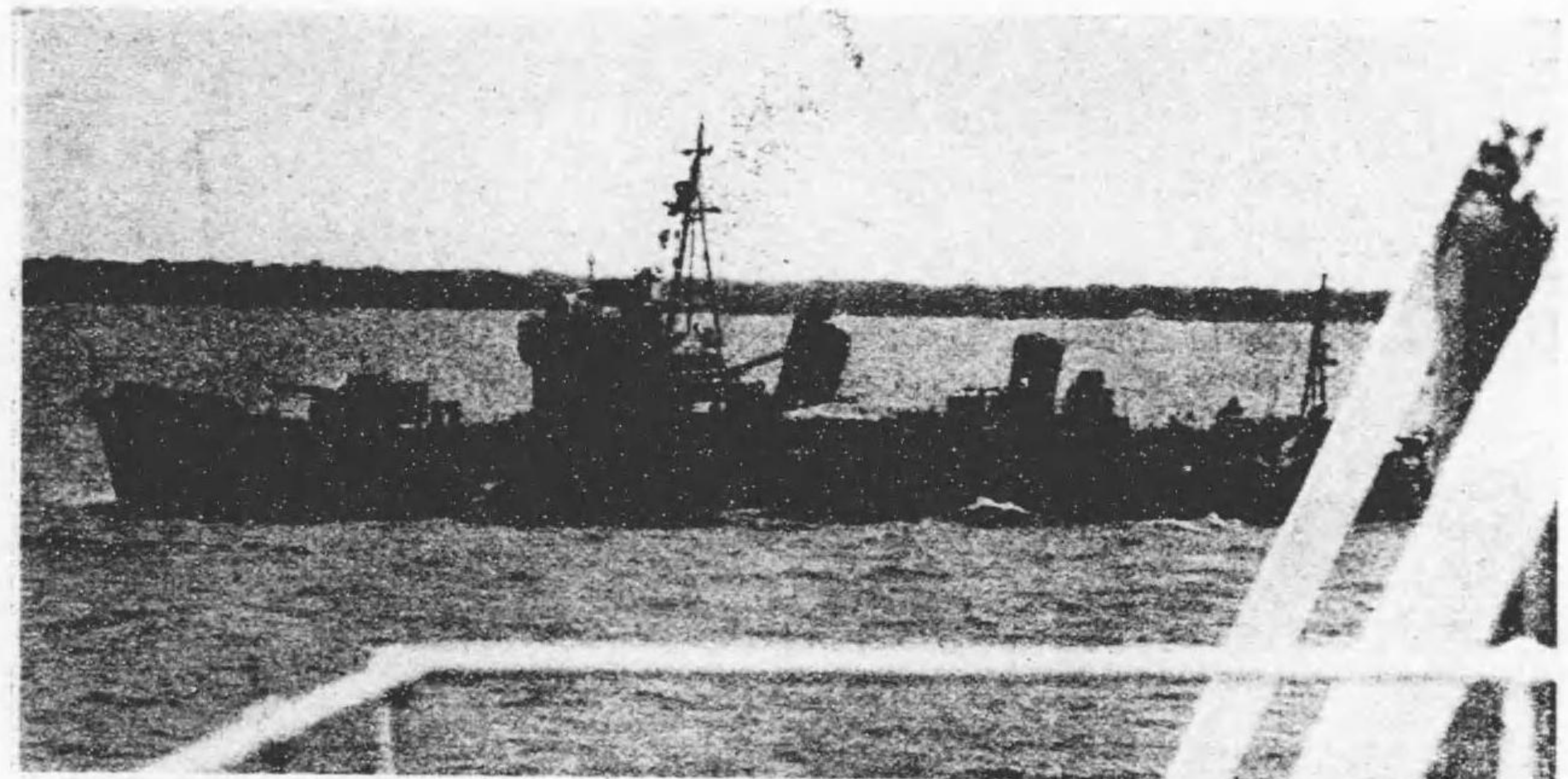
後續部隊續々上陸
の光景



陣中に派遣された赤十字の活動
の光景



〇〇方面に上陸した部隊は息のつ
く間もなく直に前線に向ふ



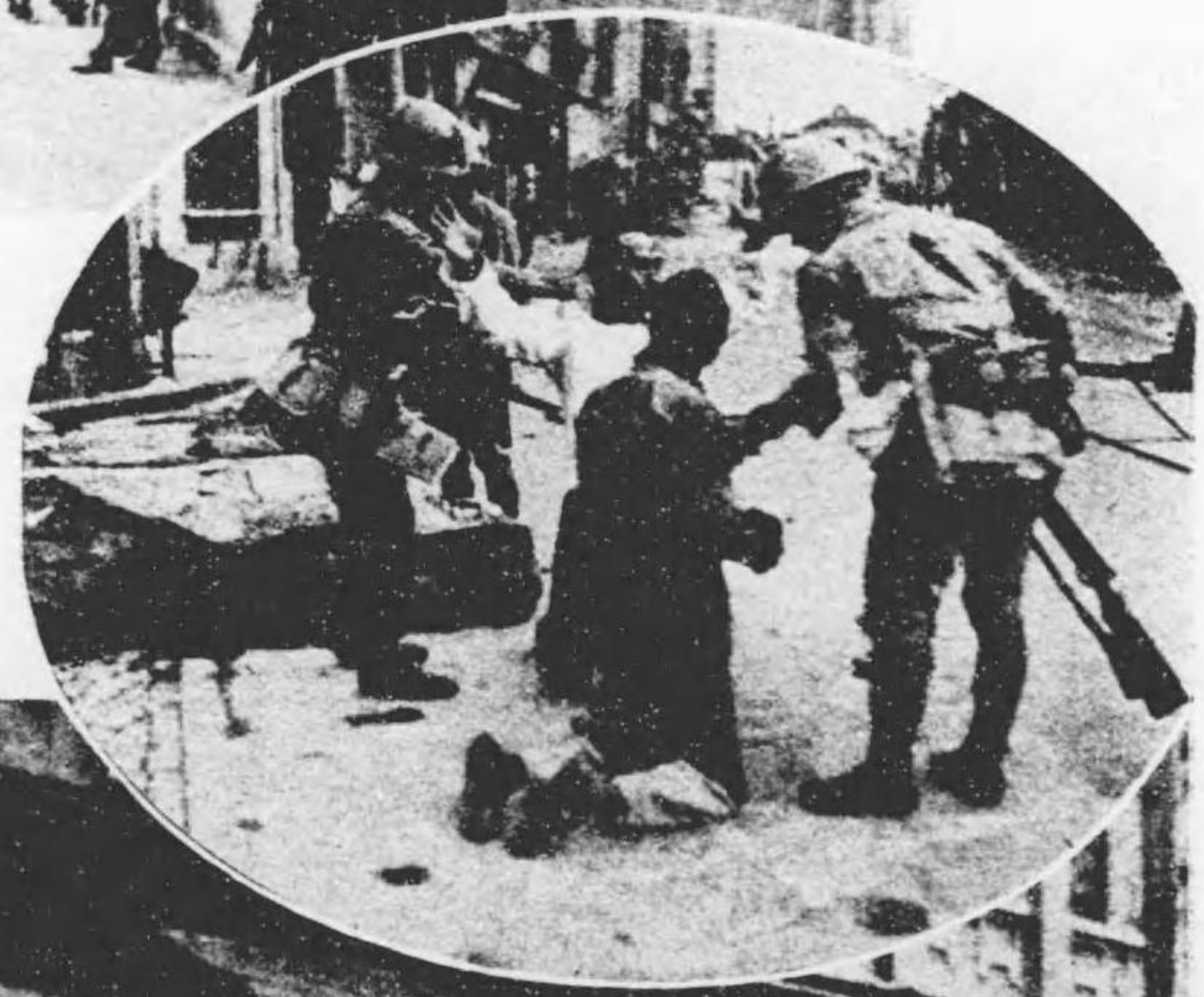
我が海軍支那沿岸を壓す

上圖は黄浦江の濁流を蹴つて警戒航進中の我が〇〇軍
艦下圖は上海埠頭に於ける於け我が軍艦〇〇〇の勇姿



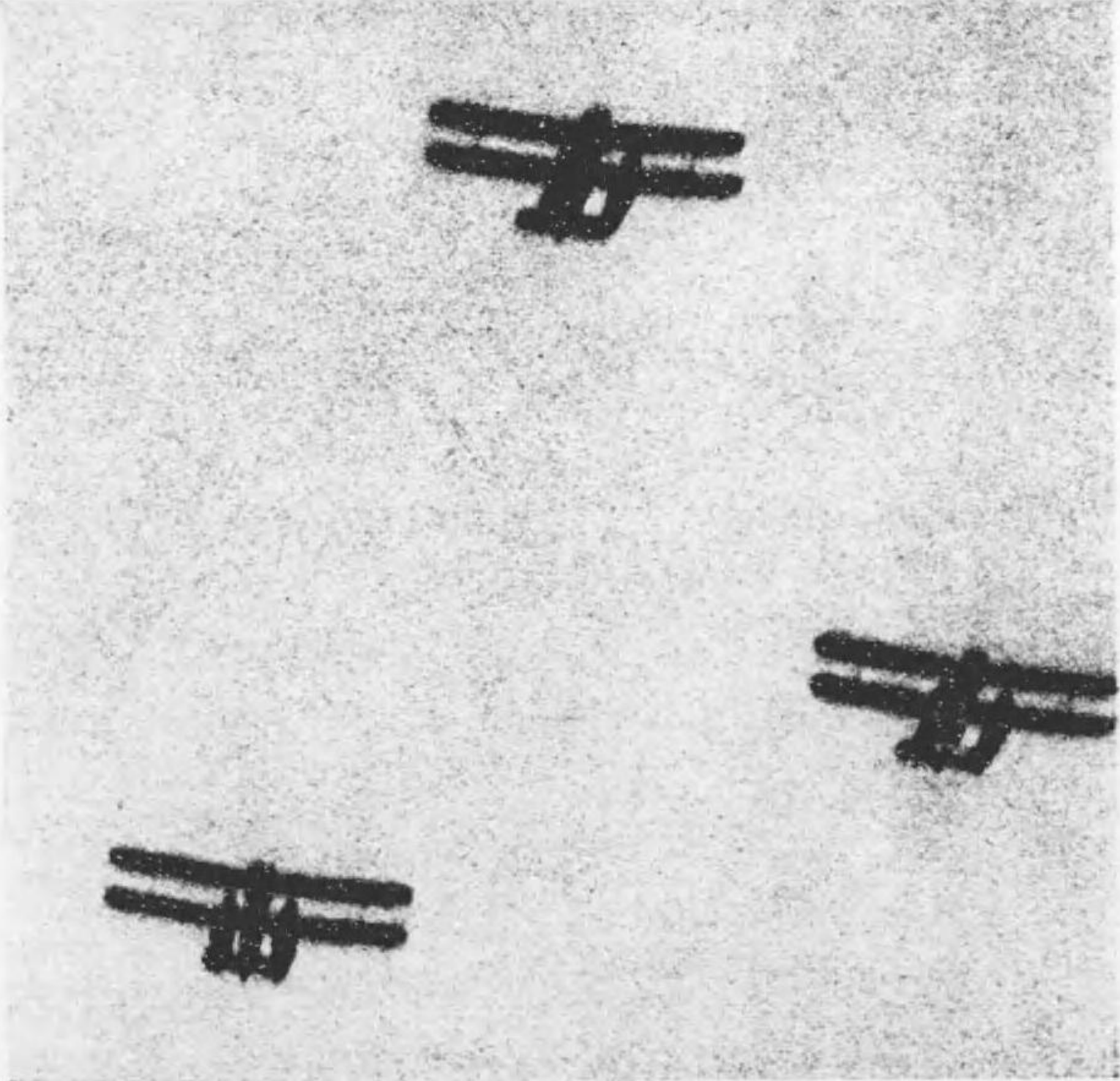
便衣隊狩

小路を風潰しに掃蕩してあるく
陸戦隊中圖は捕はれた便衣隊
下圖は便衣隊発見急追するわ
が軍(上海に於て)



壯絶なる空軍出動

八月十六日夕陽を衝いて初めて上海上空に勇姿を現はした
我が海軍機にして漸く活況を呈す
右圖は
矢つぎ早やの空襲に絶大なる偉功をたてた我が海軍機の上
海上空に於ける編隊飛行





第一戰突破

生熱地獄と化した猛火の中に一息第一戰突破の機を狙ふ我が皇軍の
前線〇〇部隊

(朝日新聞社撮影)

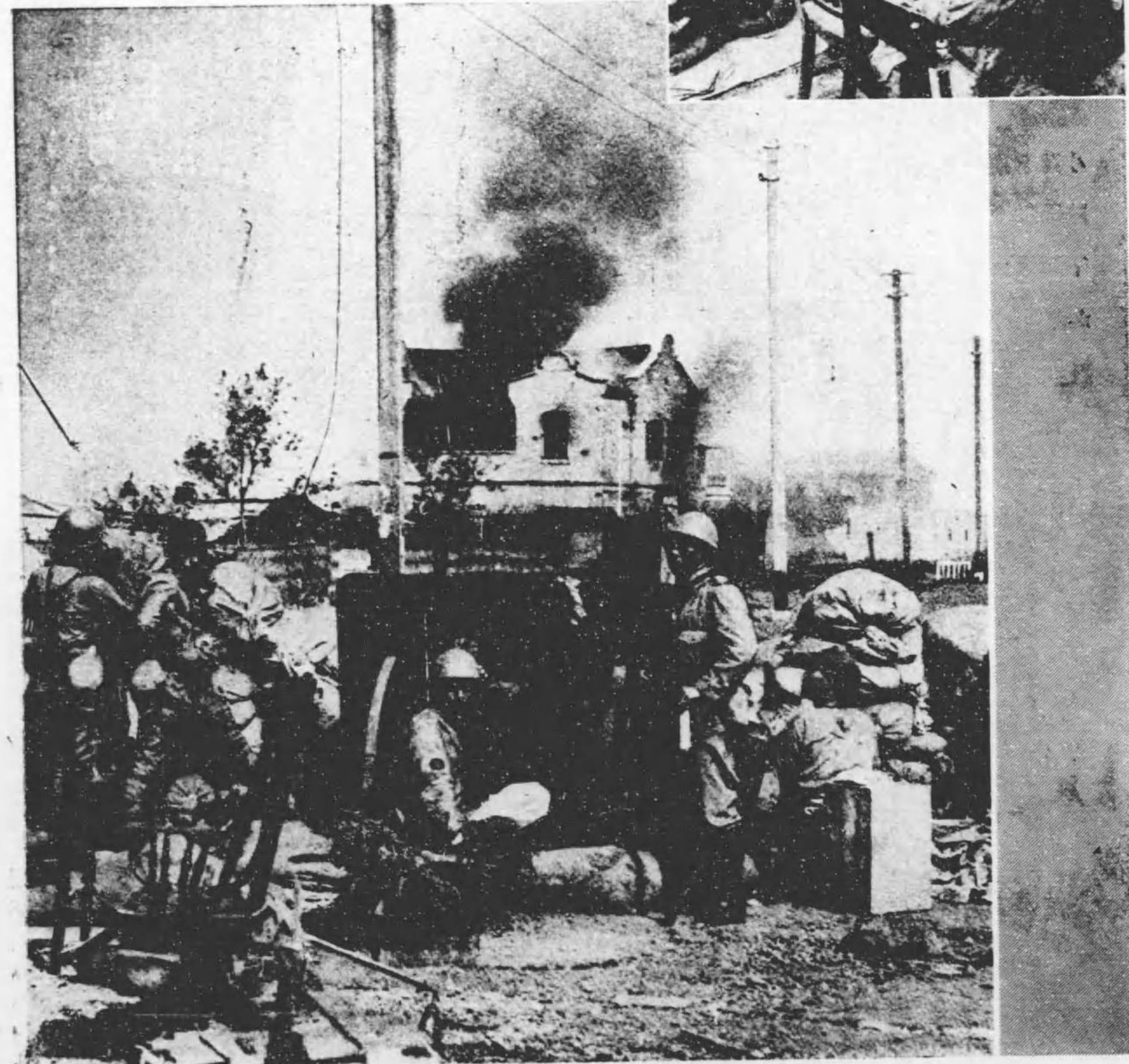


上圖は

上海〇〇路の最前線で寡兵を以て精銳なる敵軍に猛射中の我が陸戰隊

下圖は

我が砲撃戦によつて黒煙に包まれつゝある敵陣地一帯を望む





突撃攻行

上圖は猛烈なる我が皇軍の砲撃戦の後を受け敵のひるむ所を嵐の如き勢ひで
 ○○敵陣めがけて突撃する我が陸戦隊下圖は敵空軍の爆撃により火の海と化
 した上海○○附近の支那民家

(朝日新聞社撮影)



壯絶を極む戦火

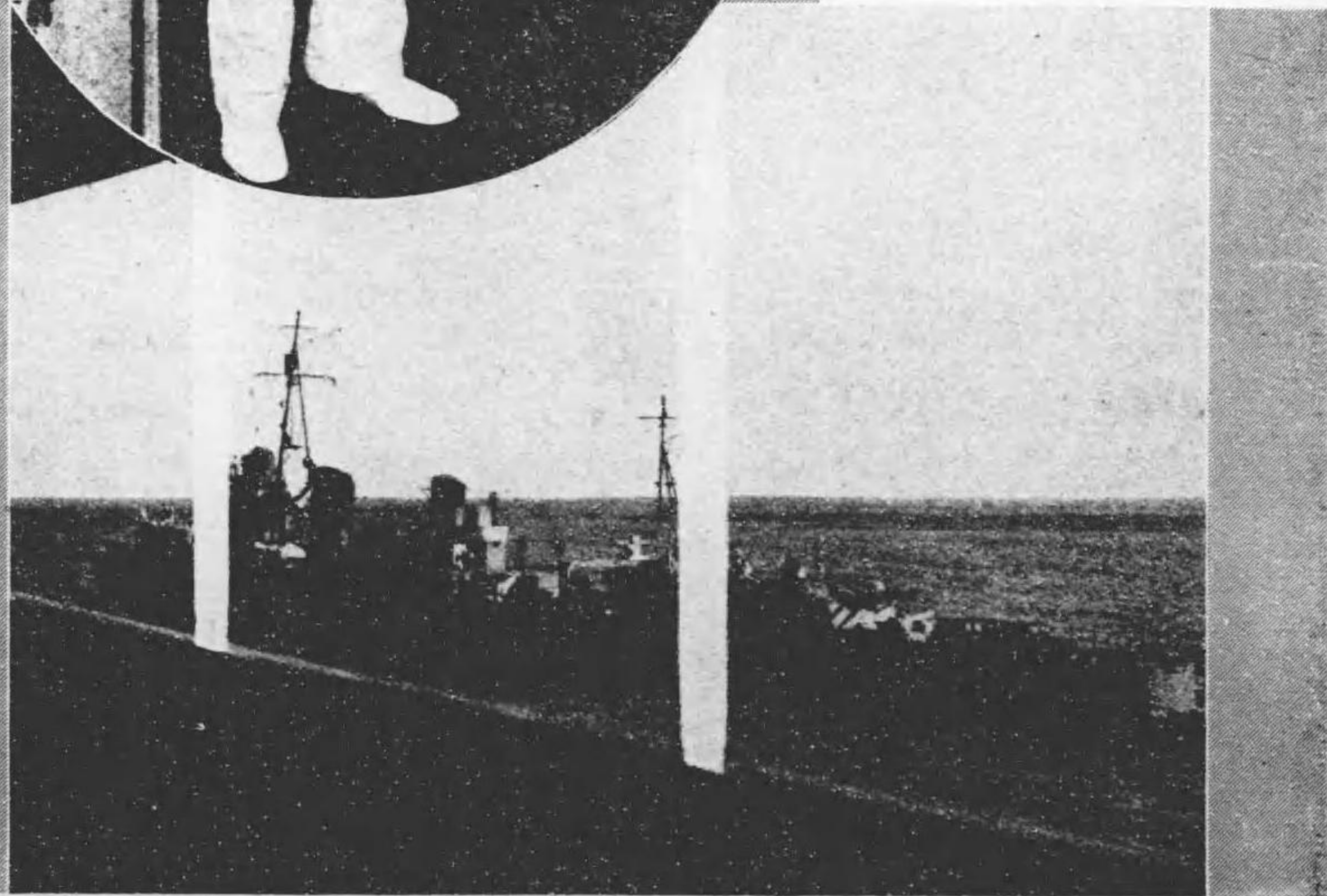
ゴージャと焼けくすれる猛火の中を前線へ前線へと應援に出動する我が陸戦隊



長谷川第三艦隊司令長官

上圖は

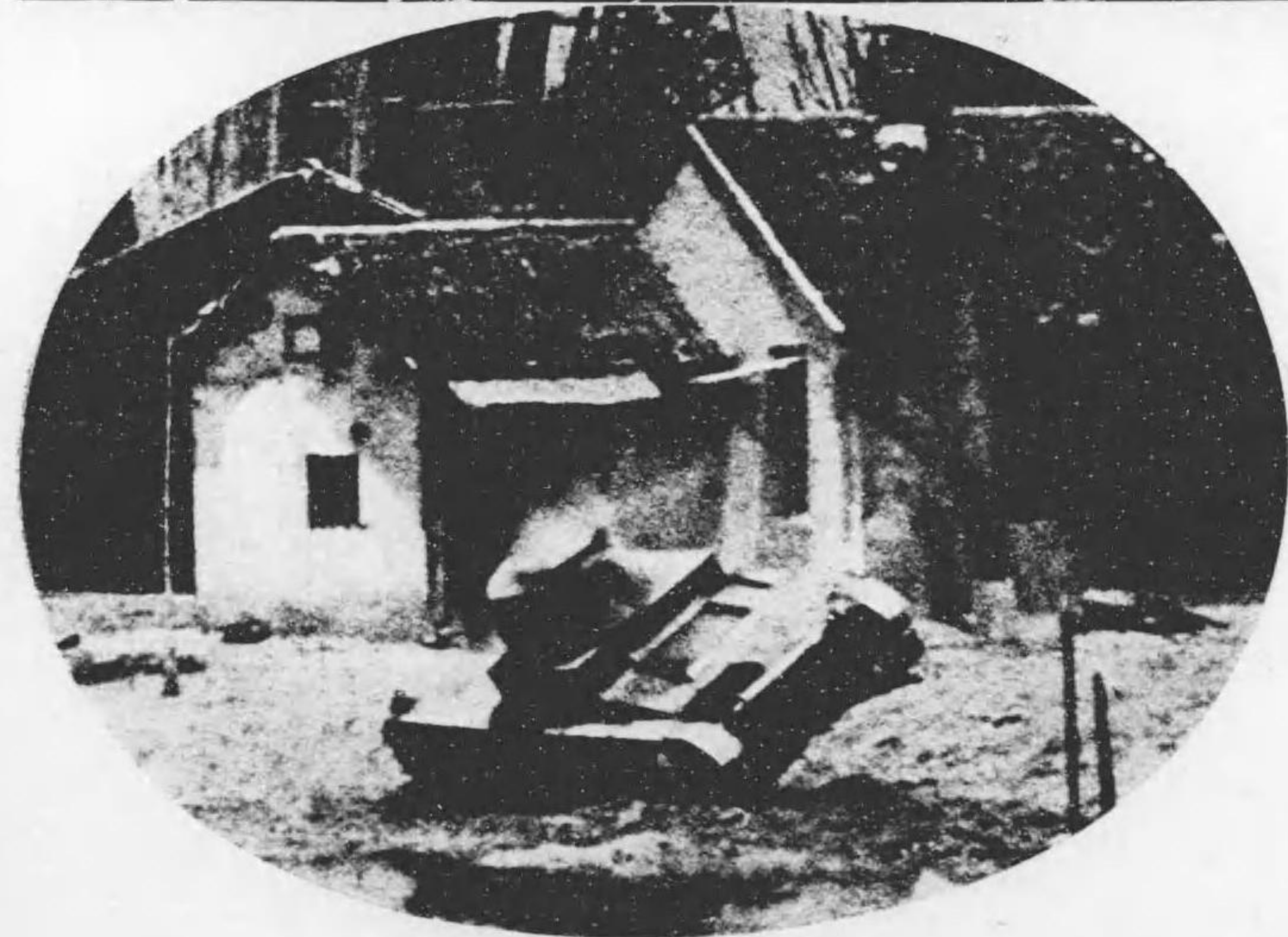
旗艦〇〇艦上に於て敵味方入り亂れ壯烈な空中戦を觀戰中の長谷川司令官の勇姿



下圖は避難船を港外まで警備航行中の我〇〇軍艦



生捕つた！
支那軍の戦車



八月廿一日の夜上海公平路附近の戦闘で敵の戦車三臺生捕つた安田部隊の殊勲はラヂオによつて詳細に報ぜられた上圖は生捕つた戦車を我が陣地に曳行される敵戦車にして下圖は我が猛撃によつて遂に破壊され火を發して延焼中の敵戦車

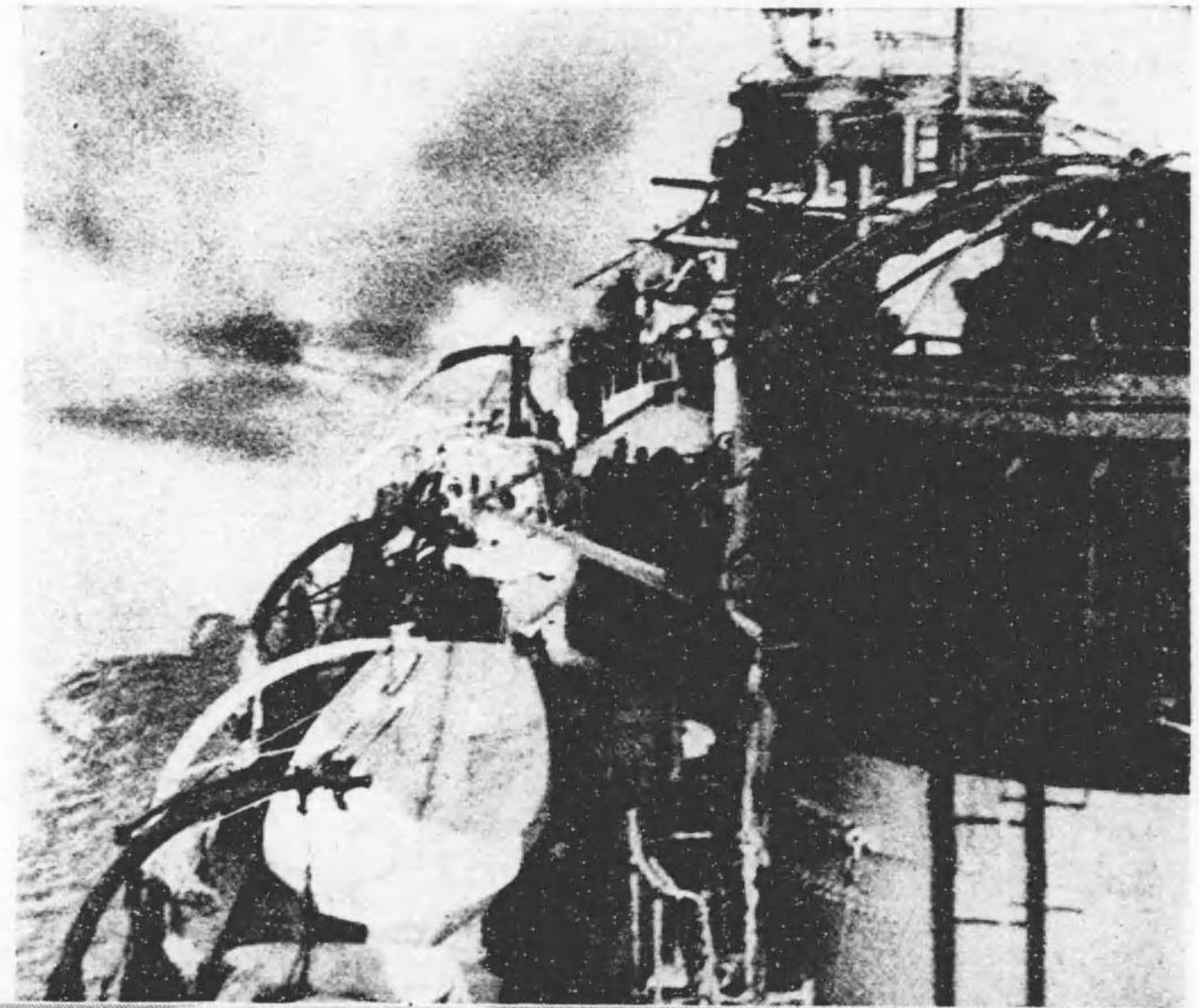
敵前上陸敢行



上圖は我が砲撃によつて破壊された上海○○驛附近に於ける上陸部隊の前進下圖は白
襪決死隊に参加した勇士達の上陸後の撮影

(朝日新聞社撮影)

敵前上陸

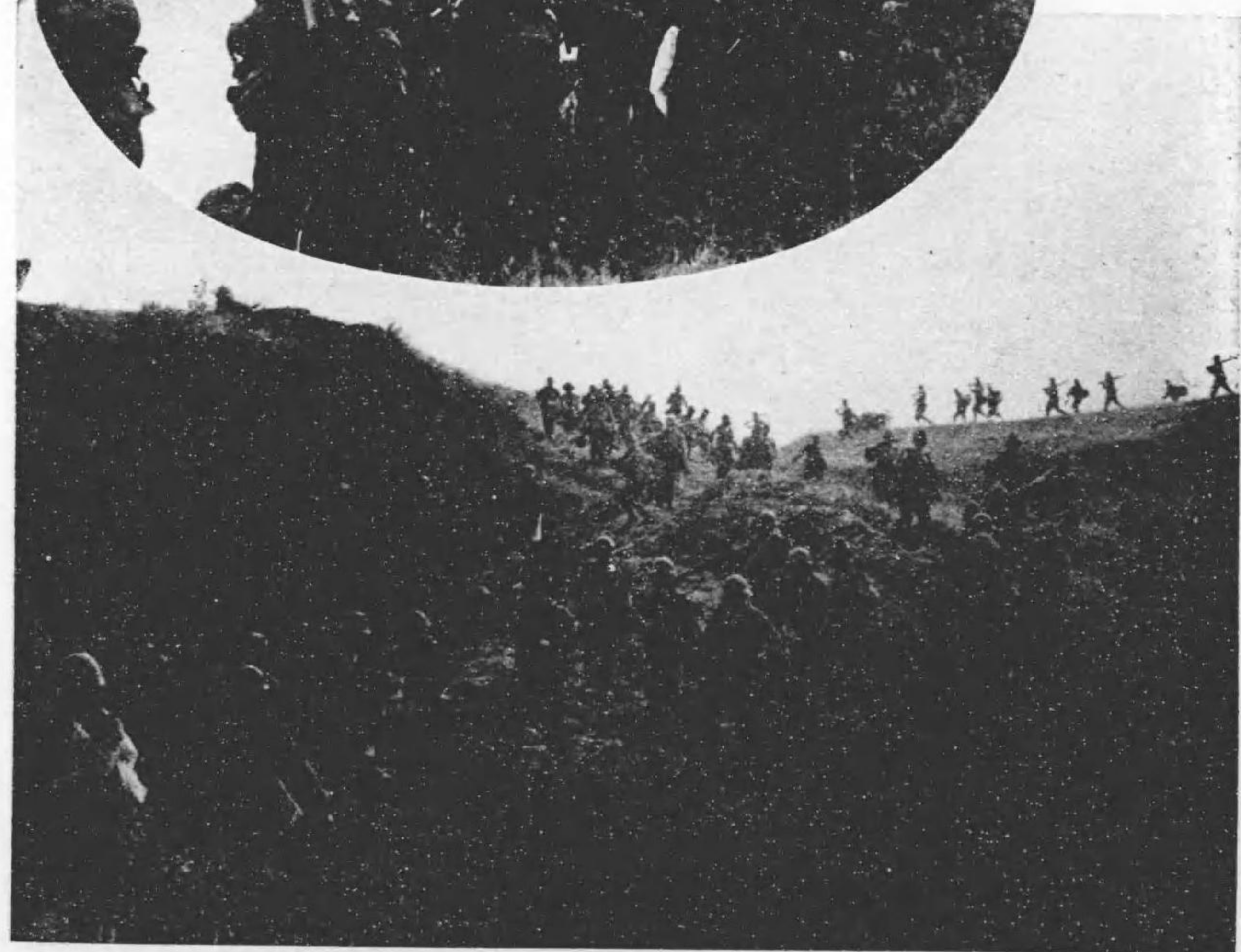


軍艦○○の内火艇に便乗した決死の白襪隊敵弾雨下をくぐり
て一路敵岸に向ふ○○我が上陸部隊

我が上陸部隊に向つて盛に抵抗中の敵陣地に對し軍
艦○○が一齊に掩護射撃の壯觀 (八月廿三日)



天嶮を越えて
凱歌あがる



上圖は北支天嶮確保し敵を撃退遂に凱歌あがる〇〇部隊の萬歳にして軍旗を先頭に揮
然たる皇軍の輝き感激に堪へません

下圖は天嶮を越へ前進又前進の〇〇部隊



上陸部隊の前進

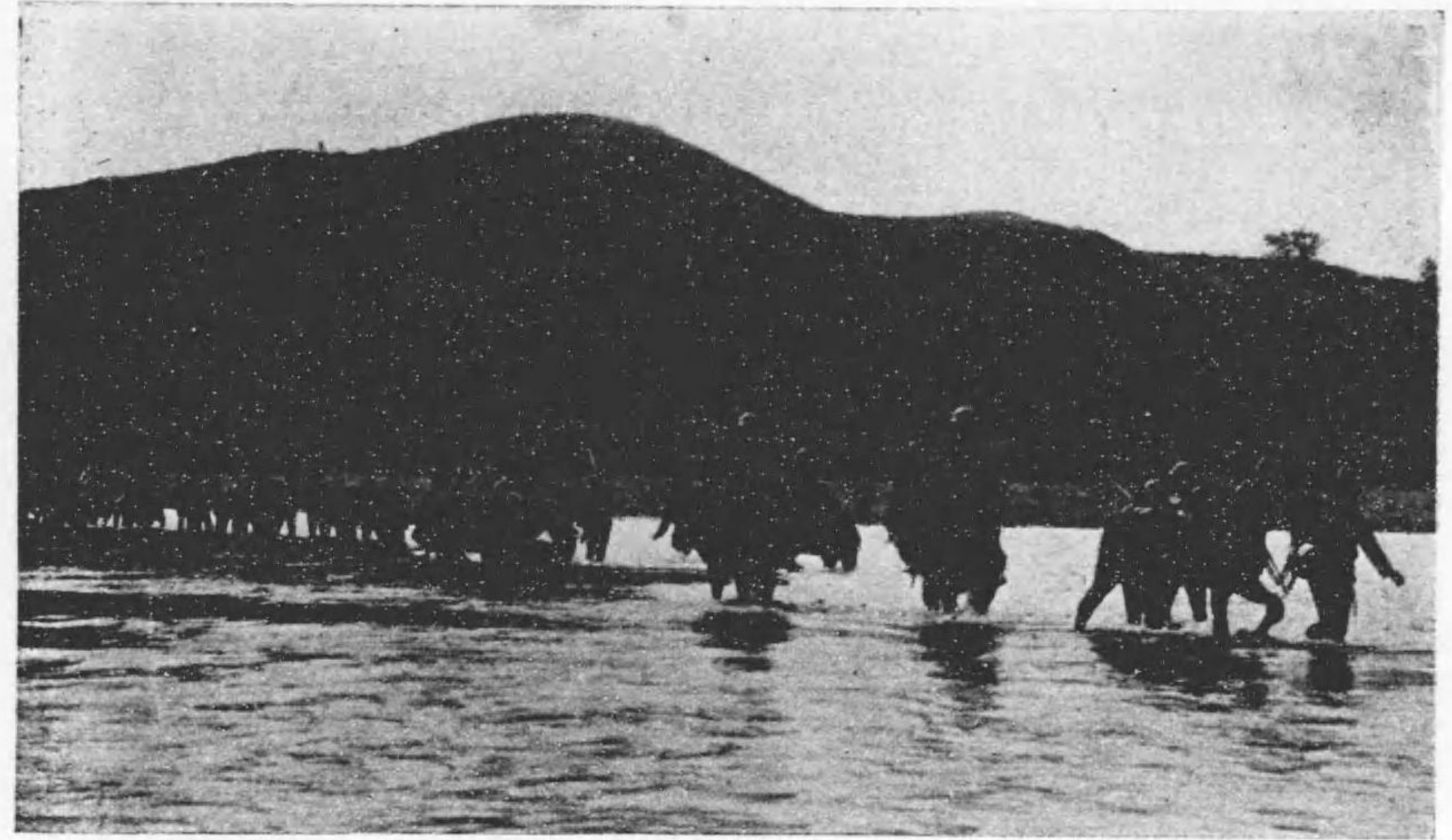
上圖は力を合せて重い砲車を陣地に曳行する上陸部隊の皇軍勇士

下圖は敵前に上陸直に勇躍應戦する我が〇〇部隊(朝日グラフ掲載)



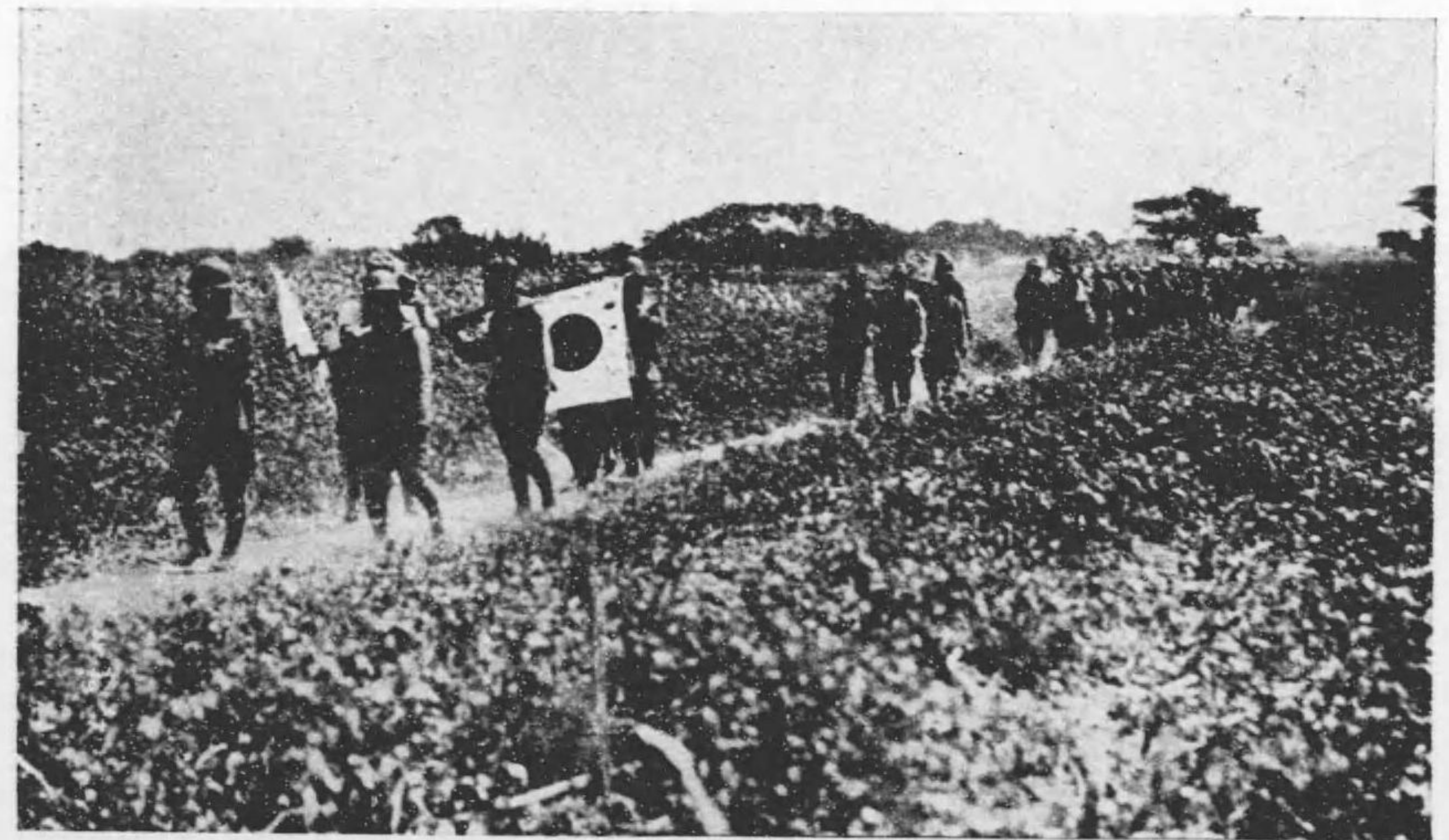
天嶮を越えて
北支の山岳戦展開

敵陣第一線主力部隊に對し猛射中の我が
○○機關銃隊
左圖は鐵路に沿ひ警備中の我が○○部隊



戰線何百里原野を走り天嶮を越え或ひは渡河を敢行し皇軍の活躍涙ぐましき
ものあり上圖は北支に於ける敵前渡河の○○部隊下圖は北支○○に於ける皇
軍負傷兵の搬送

敵前渡河



注目される
山東首脳



張自忠



元哲宗

問題の
冀察政府
首脳



秦德純



商震



劉汝明



馮治安

高福麟



韓復榘



何應欽

國民政府主席

蔣介石

汪兆銘



馮玉祥



王寵惠



劉峙

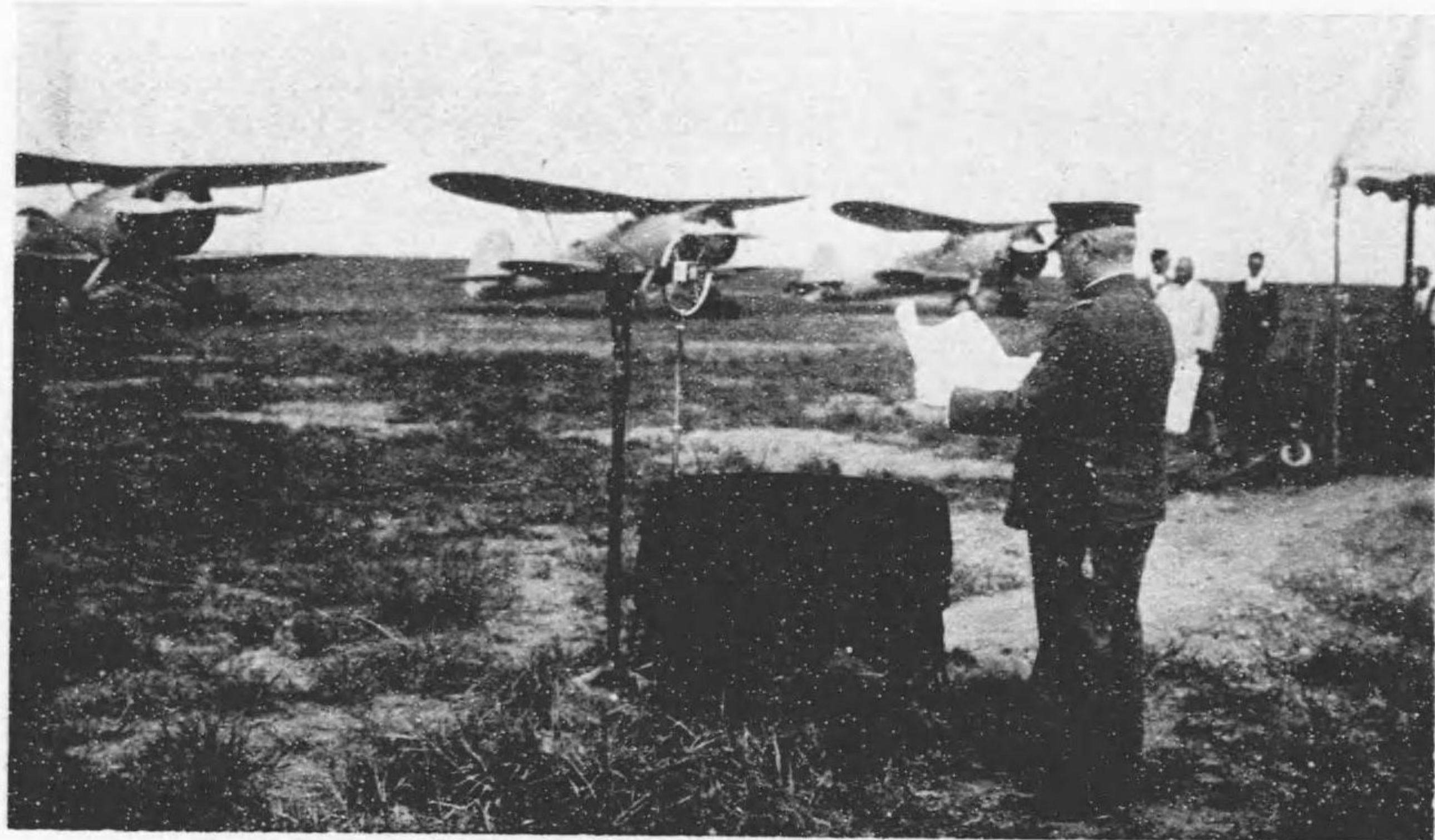


賀耀組

對日戦をあせる

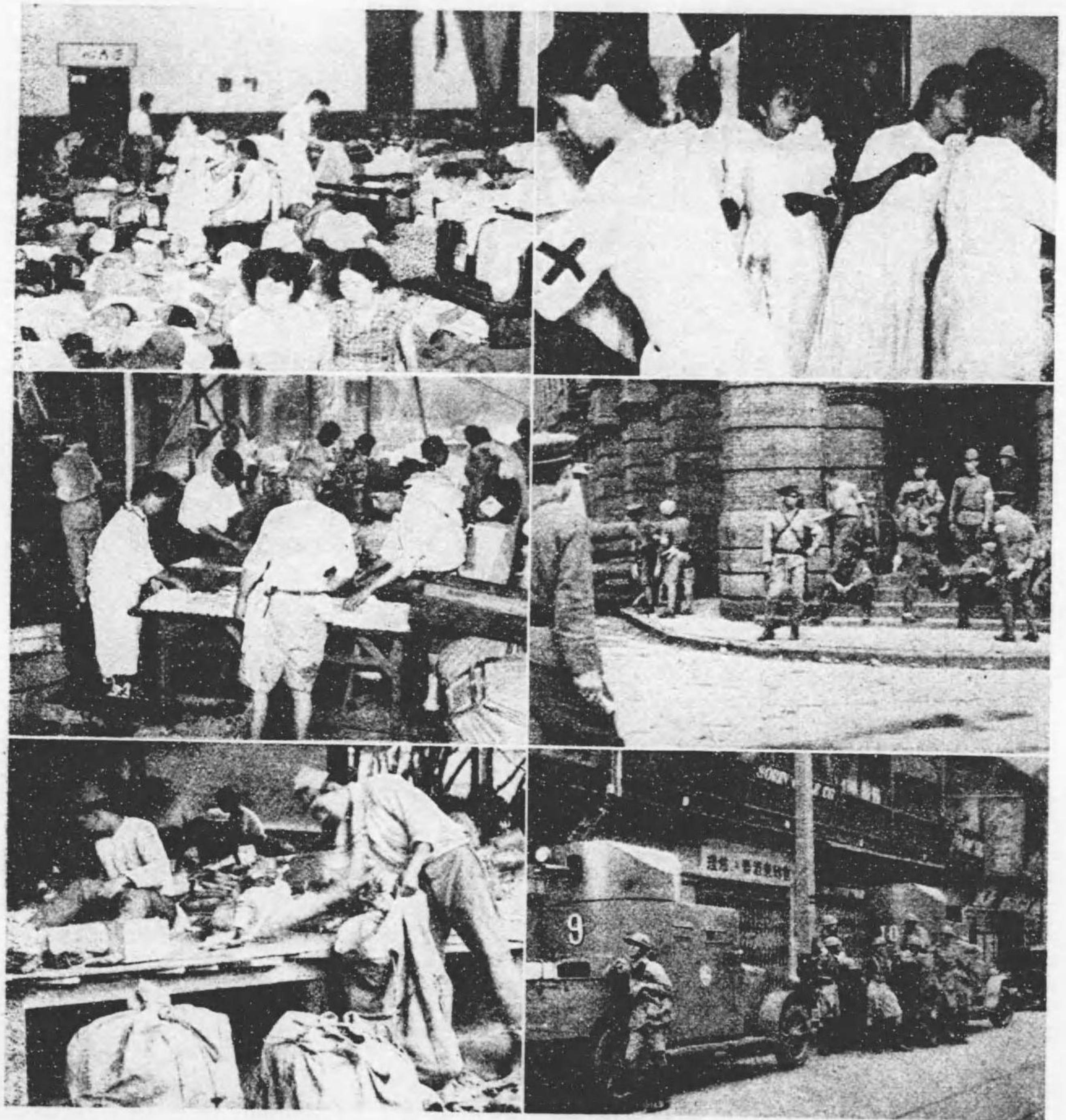
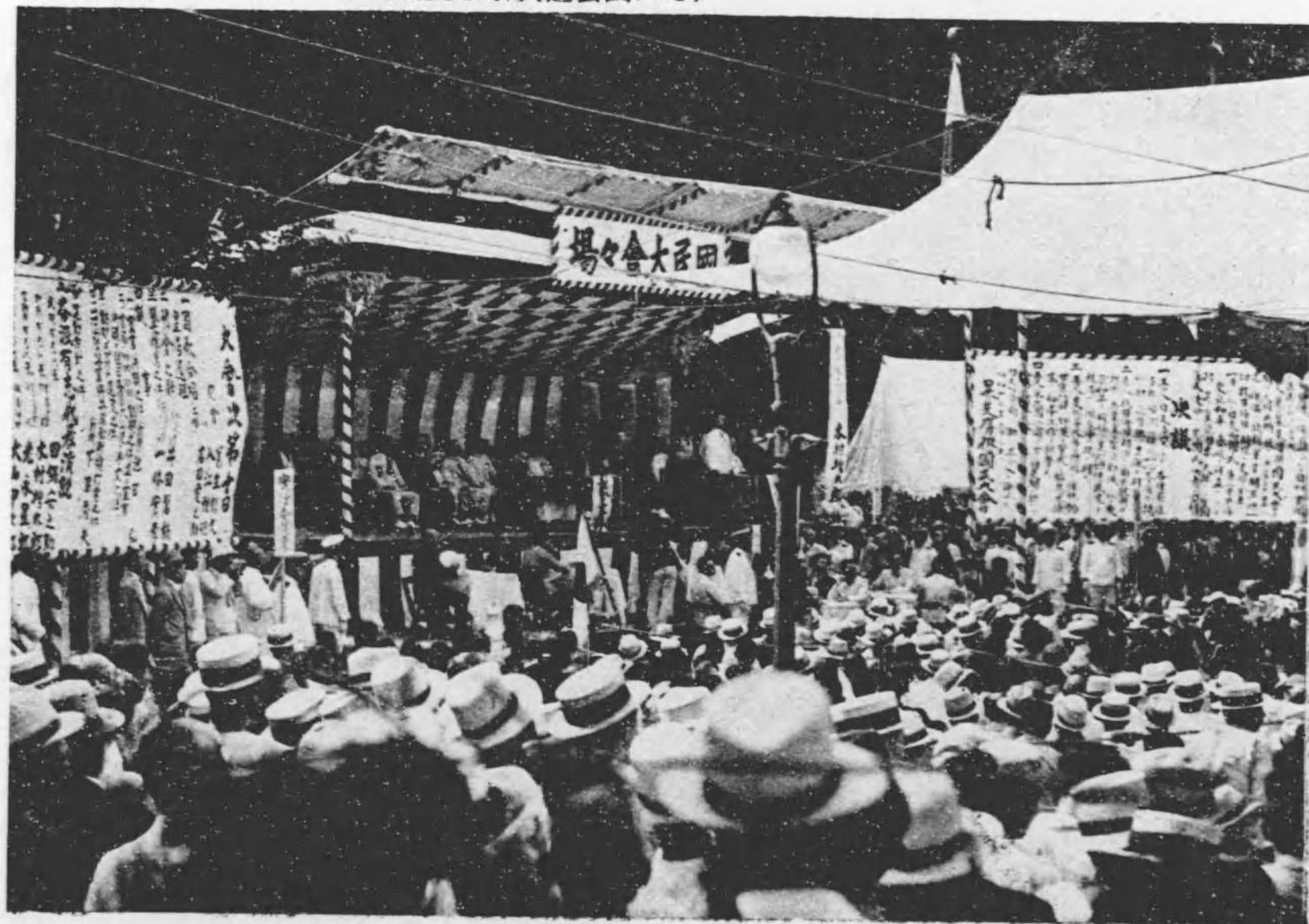
南京政府主脳部





銃後の國民

上圖は空の護り國民愛國の結晶たる愛國號の命名式中央に直立せるは杉山陸軍大臣(代々木原頭にて)下圖は暴戾支那斷乎膺懲の第一聲國民大會(芝公園にて)



戦線に輝く華

上圖は上海臨時野戰病院に於て献身的活動の我が看護婦
中圖は我が上海總領事館を警備する警官隊

下圖は租界警備中の英國の裝甲自動車

上圖は上海共同租界の我が小學校に收容された邦人避難民
中國は邦人避難民に配給する炊出しの炊事係員

下圖は内地から上海に着いたなつかしき戦地宛の郵便物

日支事變日誌

七月八日 午前零時頃、夜間演習中の豊泰駐屯の我が部隊に對し、蘆溝橋附近の支那軍（第二十九軍第三十七師に屬する二百十九團の一部）が突如不法射撃をなしたに對し我が軍から嚴重な交渉を開始せんとするや午前五時半頃又も蘆溝橋北方一千メートル龍王廟附近の支那軍より射撃を加へたるを以て我軍は該部隊に對し應戰を開始、これを擊退して龍王廟を占據。我が方が平和解決の方針をとり停戰を要求したるに拘らず冀察政權及二十九軍首腦部は不同意を表明せるため現地交渉は午後三時半決裂し再び交戰状態に入る。夜に入り、西苑にある第三十七師の主力たる第百十旅長何基豐の命により部下の第二百二十團謝世金部隊約一千五百名は蘆溝橋北方二里の八寶山に進出を開始、第二十九軍西苑部隊と呼應して側面より我軍を威嚇せんとした。

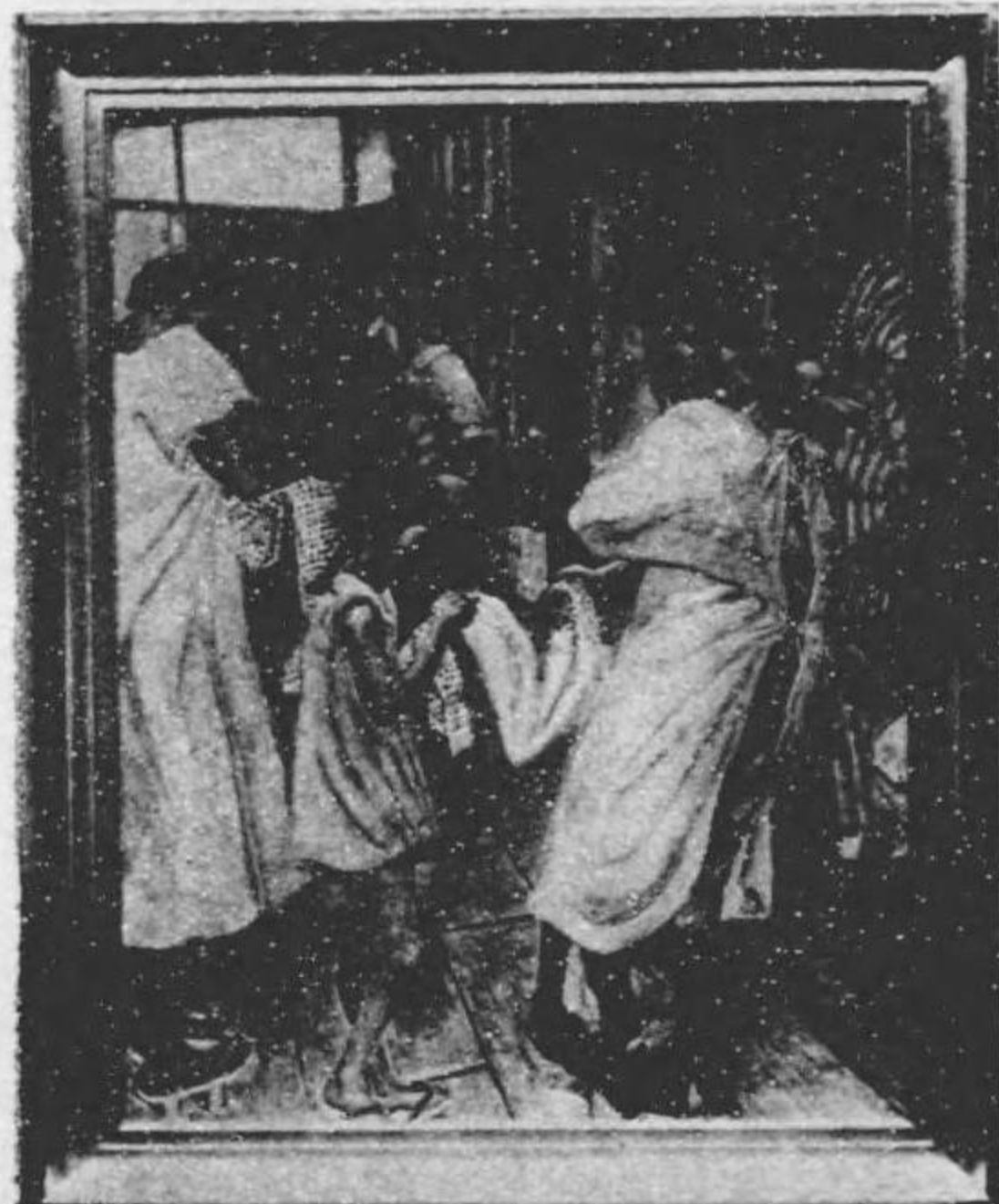
基因して今や北支に事端を生ぜり。我が關東軍は多大の關心と重大なる決意を保持しつゝ嚴に本事態の成行を注視す」との重大決意表明の聲明を發表。
九日 八日深夜まで繼續された日支兩軍代表の折衝により、九日午前五時を期して兩軍の撤退を實施することになつたが、支那側は撤退を實行せず、却つて午前五時半に至り砲撃を開始せるため形勢は再び逆轉。午前六時四十分北平より派遣された日支調停委員の現地到着により支那軍への命令撤底し、茲に戰鬪は全く停止、和平解決の曙光を見るに至つた。更に午前七時より午後零時半に及ぶ支那側との交渉及び第百十旅長何基豐が現地に赴いて支那軍を説得せる結果、午後四時支那軍は永定河右岸地區に撤退を完了、我軍も戰鬪行動を中止し、豐台方面に集結を開始、事件善後處置の交渉に入ることに成り事件は一段落を見た。
他方帝國政府は、臨時閣議を

午前八時五十分開會、蘆溝橋事件の處理方針を次の如く決定した。
(一)今次事件の原因は全く支那側の不法行為に基くこと、
(二)我方として不件不擴大の方針を堅持、(三)支那側の反省による事態の圓滿收拾を希望すること、(四)若しも支那側に反省なく憂慮すべき事態を招來する危機を見るに至らば我方としては適切迅速に機宜の處置を講ずること、(五)各關係は何時にも臨時閣議の招集に應じ得る様に待機すること。
十日 午前十一時日高參事官は本省の訓令により王外交部長と會見、支那側の非をなじつて本事件による損害及び一切の合理的要求の留保を聲明、蔣介石は廬山會議の結果、徐州を中心駐屯中の中央軍四ヶ師に對し十一日拂曉を期し河南省境に集中進軍準備を命令した。
午後七時二十分、蘆溝橋附近永定河左岸に一兵も残さぬ筈の支那兵より、蘆溝橋附近の我が部隊に迫撃砲の集中射撃をなし東辛庄附近でも兵力不明の支那部隊が同地帯を占據せるため、我軍は敢然反撃、午後九時十五分龍王廟と東辛庄を占據。

十一日 平漢線方面の支那中央軍は北上を開始し、平津地方に極秘裡に布置せられたる藍衣社も各縣において策動を開始、一方十日夜重慶より急遽南京に歸つた軍政部長何應欽は直ちに軍事會議を開き津浦沿線、臨海線一帶の軍隊に動員待機令を下し、北平市長秦德純に急電を發し、(一)如何なる日本側の要求條件をも接受すべからず、(二)一步も軍事並に政治的の後退を許さず、(三)必要の時の犠牲の準備をなせ、との三項の指令を發した。
支那側の行爲は頗る計畫的と見られるため、我が陸軍首腦部は事態を重大視し、午前二時陸相官邸は杉山陸相以下關係者全部參集し緊急對策を講じ、全員登壇の電命を發す。
閑院參謀總長官邸下には午後七時三十分再度葉山御用邸に伺察あせられた。
尙豫て病氣靜養中の田代支那駐屯軍司令官は更迭され、香月清司中將が親補された。
現地に於ては冀察側は遂に我が公明なる主張を認め、午後一時松井特務機關長に對し冀察側幹部の到達せる解決弁法を提示同時に蘆溝橋一帯より撤退各部隊の原駐地引揚を開始したので

銃後の美術の二科展

「千人針」藤田嗣治の畫



銃後の讀

上圖は苦熱をよそに銀座街頭に立つ女學生の募金振りである下圖は東京青山北町渡邊きくさん(九九)は陸軍省に出頭御小遣の貯めた五圓を献納して一同を感激させた
左圖は愛國的心情銃後の戦時風景
—銀座所見—



日支事變日誌

七月八日 午前零時頃、夜間演習中の豊臺駐屯の我が部隊に對し、蘆溝橋附近の支那軍（第二十九軍第三十七師に屬する二百十九團の一部）が突如不法射撃をなしたに對し我が軍から嚴重な交渉を開始せんとするや午前五時半頃又も蘆溝橋北方一千メートル龍王廟附近の支那軍より射撃を加へたるを以て我軍は該部隊に對し應戰を開始、これを擊退して龍王廟を占據。我が方が平和解決の方針をとり停戰を要求したるに拘らず冀察政權及二十九軍首腦部は不同意を表明せるため現地交渉は午後三時半決裂し再び交戰状態に入る。夜に入り、西苑にある第三十七師の主力たる第百十旅長何基豐の命により部下の第二十二團謝世金部隊約一千五百名は蘆溝橋北方二里の八寶山に進出を開始、第二十九軍西苑部隊と呼應して側面より我軍を威嚇せんとした。

午後八時十分に至り關東軍は「暴戻なる第二十九軍の挑戰に基因して今や北支に事端を生ぜり。我が關東軍は多大の關心と重大なる決意を保持しつゝ嚴に本事態の成行を注視す」との重大決意表明の聲明を發表。

九日 八日深更まで繼續された日支兩軍代表の折衝により、九日午前五時を期して兩軍の撤退を實施することになつたが、支那側は撤退を實行せず、却つて午前五時半に至り砲撃を開始せるため形勢は再び逆轉。午前六時四十分北平より派遣された日支調停委員の現地到着により支那軍への命令撤底し、茲に戰鬪は全く停止、和平解決の曙光を見るに至つた。更に午前七時より午後零時半に及ぶ支那側との交渉及び第百十旅長何基豐の現地に赴いて支那軍を説得せる結果、午後四時支那軍は永定河右岸地區に撤退を完了、我軍も戰鬪行動を中止し、豐台方面に集結を開始、事件善後處置の交渉に入ることに成り事件は一段落を見た。

他方帝國政府は、臨時閣議を

午前八時五十分開會、蘆溝橋事件の處理方針を次の如く決定した。

(一)今次事件の原因は全く支那側の不法行為に基くこと、
 (二)我方として不件不擴大の方針を堅持、(三)支那側の反省による事態の圓滿收拾を希望すること、(四)若しも支那側に反省なく憂慮すべき事態を招來する危機を見るに至らば我方としては適切迅速に機宜の處置を講ずること、(五)各關係は何時にても臨時閣議の招集に應じ得る様に待機すること。

十日 午前十一時日高參事官は本省の訓令により王外交部長と會見、支那側の非をなじつて本事件による損害及び一切の合理的要求の留保を聲明、蔣介石は廬山會議の結果、徐州を中心に駐屯中の中央軍四ヶ師に對し十一日拂曉を期し河南省境に集中進軍準備を命令した。

午後七時二十分、蘆溝橋附近永定河左岸に一兵も残さぬ管の支那兵より、蘆溝橋附近の我が部隊に迫撃砲の集中射撃をなし東辛庄附近でも兵力不明の支那部隊が同地帯を占據せるため、我軍は敢然反撃、午後九時十五分龍王廟と東辛庄を占據。

十一日 平漢線方面の支那中央軍は北上を開始し、平津地方に極秘裡に布置せられたる藍衣社も各縣において策動を開始、一方十日夜重慶より急遽南京に歸つた軍政部長何應欽は直ちに軍事會議を開き津浦沿線、臨海線一帶の軍隊に動員待機命令を下し、北平市長秦德純に急電を發し、(一)如何なる日本側の要求條件をも接受すべからず、(二)一步も軍事並に政治的の後退を許さず、(三)必要の時の犠牲の準備をなせ、との三項の指令を發した。

支那側の行爲は頗る計畫的と見られるため、我が陸軍首腦部は事態を重大視し、午前二時陸相官邸は杉山陸相以下關係者全部參集し緊急對策を講じ、全員登壇の電命を發す。

閣院參謀總長宮殿下には午後七時三十五分再度葉山御用邸に伺候あらせられた。

尙豫て病氣靜養中の田代支那駐屯軍司令官は更迭され、香月清司中將が親補された。

現地に於ては冀察側は遂に我が公明なる主張を認め、午後一時松井特務機關長に對し冀察側幹部の到達せる解決弁法を提示同時に蘆溝橋一帶より撤退各部隊の原駐地引揚を開始したので

銃後の美術の二科展

「千人針」藤田嗣治の畫



銃後の護

上圖は苦熱をよそに銀座街頭に立つ女學生の募金振りである。下圖は東京青山北町渡邊きくさん(九九)は陸軍省に出頭御小遣の貯めた五圓を献納して一同を感激させた。

左圖は愛國的心情銃後の戦時風景
 ↓銀座所見↓



兵器庫に火災を起した。政府は夜の緊急閣議により風見書記官長の談話の形式により「既定方針に則り自衛的適切な處置を講ずる旨を聲明す。」

一方、廬山の蔣介石は日支の全面的破局に直面し、午後六時十分飛行機にて夫人、張群等同伴南京に歸還、午後九時より軍事委員長官邸に王外交部長、何軍政部長と協議、全國軍隊に出動準備令を發し、北上中の約二十個師に適宜戰鬪を開始すべき旨を命令す。

二十日迄の情報によれば、中央軍及び政府の命により河北省に動員移動せる部隊は二十一個師、漢口、西安、方面より北上しつゝある支那軍は十二個師といはれ、洛陽徐州には約三百五十機、南京には三十機の空軍が待機中である。

二十一日 宋哲元のわが方に對する公約により衙門口附近一帶の第二十九軍は午前十時西苑兵營に向け引揚げを開始、午後一時完了したが、永定河左岸八寶山及び右岸蘆溝橋附近一帶の支那軍は撤退せず、又もや支那側の諸約不履行に達し憂慮すべき状態となり、松井特務機關長は今井武官並に中島顧問を帶同、午後六時進徳社に宋哲元を

訪ひ嚴重抗議す。これに對し宋氏は即刻同方面の部隊に撤退命令を示達する旨確約、その結果同地一帶の支那軍は同夜集結を開始した。南京に於ては蔣介石出席の下に中央政治委員會が午前中二時間にわたつて開かれ、北支問題對日對策につき國民政府最高機關としての最初の正式態度を決定した。これによれば(一)不擴大主義を以て對處す、(二)國家總動員を行ひ抗戰準備を整ふべし、とある。ヒューゲツセン英大使は蔣介石と會見、蔣の眞意打診と同時に無謀極まる開戰論について再考慮を促す同夜日高參事官はヒ英大使を訪問懇談を遂げた。冀察政權に對して即時兵を冀め冀東政府の主旨に合流し新政情を招來するに努力すべきことを要望した午前、許駐日支那大使は官邸に廣田外相を再度訪問し南京側の主張に關し説明、外相はこれを一々反駁して支那側の猛省を促した。

第二十七師に屬する北平城内兵隊百一十一旅、二百十八團部隊も涿州に移駐し、これに代り城内警備に當るため張自忠麾下第三十八師の一部及び百三十二師趙登禹部隊の一部が入城準備を行ふ。南京政府外交部は第三十七師の撤退完了は和平交渉の前提として承認せるものではなく、軍事的衝突を避くるため實施したものでありと説明した。支那軍撤退について南京政府外交部はその眞相を宋哲元に問合中であつたが宋氏より「一切は中央の意見を遵守したもので撤兵は相互的の日本側が傳へる三項の條件の如きものは一切なし」と報告す。中央軍兵士數百名、裝甲自動車四臺、高射砲數門其他軍需品を滿載した特別列車濟南に到着、又鄧龍光の第百三十六師は汕頭移駐に決し、黃浦より汕頭に向け出帆す、支那各地の抗日運動は複雑深刻化し上海では上海各界抗敵後援會創立大會が開かれたが、硬軟兩派の議論對立し大亂闘を演じ輿論不統一の醜態を暴露す。

側は七月十九日文書を以て抗日系各種團體の取締りを徹底することを協定し、次の如く申出た(一)日支國交を阻害する人物を排す、(二)共產黨は徹底的に彈壓す、(三)排日的各種機關、諸團體及各種運動並之が原因と目されるべき排日教育の取締りをなす。同時に第三十七師の移駐を通告して來た。第三十七師の撤退及び移駐は進行遅々として完了せず、西苑其他一帶に大部隊を殘留するため我軍はその實行を監視す。南京にては中央常務會議が蔣介石缺席のまま開催、蔣介石聲明の趣旨に基き舉國日本軍に應戰するとの根本方針を決定す。蔣介石は參謀次長熊斌を北支に特派するに決し、同日中に北平着。ボゴモロフ駐支ソ聯大使は南京にて王外交部長と會見、重要意見の交換を行ふ。

二十四日 第三十七師は終日北平城外から一歩も撤退せず、加ふるに北平城外の東北方面に新陣地を構築する等誠意疑はしく本日北平にて宋哲元に會見、撤退の實行促進を要求した矢野參謀副長よりの報告に基き協議決定、松井特務機關長より支那側に對し嚴重抗議す。南京に於

て國民政府は現地協定案の處理につき協議、現地協定容認の弁法を考慮した。日高參事官は高外交部亞洲司長に會見。

二十五日 馮治安部隊の撤退狀況は二十四、五兩日において一列車も南下せず、わが支那駐屯軍では幕僚會議を開き決定せる要求事項を細目協定調印の責任者張自忠に提示し、張氏は夕刻天津より北平に到り宋哲元に報告すると共に首腦部會議を開く。北平にあつて冀察首腦部の抗日を煽るに努めた參謀次長熊斌は早朝飛行機にて南京に歸任に際し宋氏より中央雜軍の河北省進出は冀察當局として時局收拾上歓迎せざる旨を中央に傳へられたしと依頼す。宋子文は上海より南京へ飛來し蔣介石訪問上海財界への影響及び今後の情勢につき重要打合せを行ひ更に何應欽と會見し上海に歸る。日高參事官は再び高亞洲司長を訪問排日取締を要求更にヒューゲツセン英大使と會見す。

二十六日 北支事態重大化する平津沿線郎坊附近の軍用線が屢々切斷されるため二十五日午後十一時頃故障修理の通信隊擁護のため天津から派遣された五ノ井部隊は突如第三十八師百十三旅二百二十六團の部隊より射撃

を受け郎坊驛を包圍せるため二十六日午前零時過ぎ應戰を開始す。我軍は支那側の不信行為に激昂、直ちに鐵道輸送により鯉登部隊を急派する一方、飛行機數臺を現地に飛行せしめ爆撃敢行、このため敵は退却を開始し鯉登部隊は午前八時過ぎ郎坊を占領す。郎坊不法射撃に端を發した日支衝突によつて支那駐屯軍は遂に第二十九軍に對し斷乎たる手段を取ることに決し、香月軍司令官は午後三時半遂に期限付最後通牒を宋哲元に手交す通告は蘆溝橋及び八寶山に配置せる第三十七師を二十七日正午迄に長辛店に後退せしめ、又北平城内にある第三十七師は北平城內より撤退し、西苑にある第三十七師の部隊と共に先づ平漢線以北の陣地を経て二十八日正午迄に永定河以西の地域に移し以後引續きこれ等軍隊の保定方面への輸送を開始すること、右實行を見ざる場合は我軍は獨自の行動を執る旨を通達す。わが居留民保護の任務を以て北平入城を命ぜられた廣部部隊は夕刻平安門附近にありし支那軍と諒解の上、同門より入城する際支那軍は初め門を開き該部隊の凡そ三分の二を通過せしめたる後突然門を閉鎖し、手榴彈及び機

關銃を以てわが部隊を猛射、廣部部隊は惡戰苦鬪を續けること前後五時間半漸く翌二十七日午前二時二十分交民巷のわが兵營に入ることを得た。

裝を解除を行ふ。廣安門事件以來不安増大した北平在留邦人に對する交民巷避難命令發せられ正午頃大體收容を終る。宋哲元は中央の壓迫に進退窮し南京政府に對し冀察政務委員會委員長第二十九軍々長その他一切の兼職を辭任する旨申出た。

二十八日 午前零時松井北平特務機關長は香月軍司令官代理として宋哲元を訪問、二十六日手交した最後通牒に基き我軍獨自の行動に出づるの已むなきを通告するとともに全二十九軍の即時撤退を要求し同時に「事茲に至りては和平解決の萬策盡きて膺懲の師を進むる外なき」旨聲明を發す。我重大決意を通告後全廿九軍掃蕩を期する總攻撃開始さる。上條、三輪、坂口等の各空軍部隊は午前五時出動二時間に亙り天津、北平を中心とする支那軍根據地を爆撃し、地上部隊は行宮を占領し、南苑を落城せしめ、馬村以東の戰團に於て第三十八師旅自忠軍の主力を潰滅せしめ、二十九軍に致命的打撃を與ふ。南京政府は中央軍に前進方を電命、保定に待機中の第十師、第十三師は行動を開始し、長辛店に向つて前進、飛行隊も前線へ出動す。

二十九日 午前二時二十分我

軍の集結せる北寧線天津東站は突如支那軍の襲撃を受け我軍は直ちに應戦し之を撃退せるも續いて條約を無視して市内に侵入せる敗残兵、保安隊等市内に於て我軍及び我租界附近の各所に於いて市街戦を演じ之を敗退せしめたが、茲において我軍は自衛上已むなく支那軍隊の據れる主要地點を爆撃するに決し、その旨駐屯軍司令部より聲明すると共に午後二時より空陸呼應して北寧、津浦兩鐵路局、保安隊本部、警備司令部、市政府、大福公司其他の攻撃を開始し三時その目的を達し、我守備隊は終日、東、中央兩停車場を完全に固守す。宋哲元、秦德純、馮治安等は後事を張自忠に託して二十八日午後十一時北平を退去、城内の廿九軍も之に續いて撤退せるためこの日朝來北平は平靜に復す。然るに冀察政務委員会は事實上消滅し未だ後續の機關なきため治安維持の臨時機關として北平治安維持會成立。北平城を繞る四圍の戦線は前日南苑、西苑を始め大體清掃し得たが、北部戦線に於て沙河鎮を占領し同夜夜襲を以て寶中寺高寺を占領せる酒井部隊はこの日正午西苑の敗残兵の據れる萬壽山、玉泉山を占領したる後、黃

村に入り、午後七時頃更に衙門口を占領、南苑方面の戦闘に協力せる河邊部隊は殘兵を追ひつゝ、豐臺の原駐地に引返したが、午後六時宛平を占據、かくて我軍は作戦開始より僅々二日に於て永定河左岸平津地方一帯を完全に占據した。午前八時十五分大沽に於て我驅逐艦は支那軍の迫撃砲射撃を受け已むなくこれに應戦、所在海軍部隊は陸軍と協力して大沽攻撃を開始す。北平東郊の冀東自治政府の所在地たる通州城外に二十九軍の敗殘兵出現し、冀東政府に屬する保安隊第一第二大隊が之と合流して居留民、我守備隊を攻撃し來つたため夕刻我飛行機出動し爆撃により敵に大打撃を與へた。蔣介石氏は同夜新聞記者との會見に於て二十九軍の敗北を認め、これに對し全責任を負ふと述べ全國國民は舉國一致國力と民力とを擧げて民族的抗戰に邁進すべしと言明す。

三十日 天津我租界隣接地に支那の敗殘兵出沒して間歇的射撃を加へるため午後三時より再び空陸呼應して掃蕩の攻撃を開始し多大の損害を與ふ。大沽におけるわが陸海軍協力の攻撃は二十九日夜に入り、その對岸の冀東地區に屬する塘沽よりも我守備隊及び冀東政府保安隊が白河を渡河して之に参加し共同して攻撃せる結果、午前十一時大沽市街の半を占むる西沽を先づ占據更に午後一時半に到つて完全に大沽を占領す。北平附近にては前日酒井部隊が占據せる西苑の地盤なきなる萬壽山、玉泉山に敗殘兵あるためこの日引續き同部隊及鈴木部隊が協力して包圍攻撃を行つた結果、敵は正午頃四散潰滅、一方前日宛平を完全に占領した河邊部隊は更に永定河を強行渡河して敵の河北省における本據、保定の第一線をなす長辛店を急襲して午後三時早くも之を占領す。前日爆撃を加へた通州に再び爆撃を敢行、増援隊は夕刻通州着、前日來行方不明を傳へられ憂慮されたる冀東政府長官殷汝耕は某所に健在なる旨判明す。天皇陛下には時局を御察念遊ばされ午後四時議會に出席中の近衛首相を御召あり、首相は委曲奏上退下した。

三十一日 午前五時頃より在天津高木部隊は總站附近鐘紡工場地區に殘留せる敗殘兵を攻撃し四散せしめ天津附近は略々平靜に歸したので秩序回復の第一歩として北平同様治安維持會組織され、高凌霨が委員長就任に決す。通州において兵變を起した冀東保安隊の敗殘部隊約一千名は前夜より朝にかけて安定門外に於て完全に武装解除を行ふこの日冀東部隊は通州に到着市内の保安隊敗殘兵を掃蕩してこれを確保す。尙殷汝耕の拉致により冀東政府秘書長池宗墨が長官代理に就任に決す。國民政府最高首脳部會議は午後四時、南京の軍事委員會會議室に於て政府主席果森司會の下に開會蔣介石以下巨頭出席したの三項の決議を採決す、(一)黨、政、軍の三機關に對し全體的戰時體制を實施す、(二)軍事、内治、外交その他國家の大事と軍機に關する臨機應變の處置を擧げて蔣氏に一任す、(三)汪兆銘氏は中央政治委員會主席として當時黨政の最高領袖たる責に任す。二十九軍並びに中央軍將領は三十一日朝保定で緊急軍事會議を開催蔣介石の代理として陳調元軍事委員會決定の作戰方針を傳達し抗戰計畫と各軍の兵力配備を決定す。上海、廣東其他各地の排日運動は事變の擴大により俄然熾烈となり日貨排斥は憂慮すべき状態を現出した。

八月一日 廊坊の支那兵營は加藤部隊により根本的に破壊され且敗殘の便衣隊約三十名を掃蕩。鈴木部隊は午後八時頃より

北苑の陸元武の獨立第卅九旅(兵員二千二百)の武装解除を實施す。支那中央軍三個列車は一日津浦線を北上、滄州に到着。盧山より南京に歸還した汪兆銘は聲明を發し、全國國民は一致協力政府とともに抗戰に奮起すべきことを要求し「傀儡たらざらんと欲すれば唯犠牲あるのみ」と強調す。宋美齡女史を先頭にする「婦女慰勞自衛抗戰將士會」が發會式を擧げ全國各省の婦女の奮起を命令す。山東省主席韓復榘は蔣介石の招電により南京に入り、馮玉祥、蔣介石と重大會見を遂げ、山東戦備につき作戰を議す。米國飛行士で支那側航空隊に参加希望を有するもの、渡支を米國政府は中立法の問題に反するものとして阻止すべく活動を開始す。

二日 我支那駐屯軍司令部は天津市内の掃蕩は本日の特別第一區の掃蕩をもつて全部完了せる旨發表す。北平地方治安維持會は本日成立宣言を發表、天津治安維持委員會の成立式も舉行され、平津地方は平靜状態を持續す。支那中央軍の北上は益激しく北平天津の包圍陣は略完成し、山西省の第八十四師(師長高桂滋)は察哈爾兩省境に侵入し河北省北部の包圍體形を整へ、

湯恩伯軍は張家口に侵入、胡宗南軍約二千も濟南を通過北上、其他續々北上し、洛陽飛行場には小型飛行機約二百臺その他集結すとの情報あり。通州事變勃發以來城外の敗殘兵横行し連絡を絶たれた通州に向け北平より日本警察署の決死隊がトラックにて急行す。張家口方面の事態も漸次悪化の兆あるため邦人に引揚命令發せらる。

三日 平津地方から潰走した二十九軍はその殘兵を平漢、津浦兩沿線に集結し、河北省に進入して居る雜軍、中央軍の援助を得て對日作戰を準備し、又平綏線方面の戦備も強化され、張家口にあつた劉汝明の第四百十三師は日和見的態度を持して居たが、平地泉、大同方面から湯恩伯の中央軍第八十四師の大部分が二三日前に張家口に進入して以來俄に對日挑戰的態度をとり始めた。その八十四師が張家口から南口方面に汽車輸送中を我中當部隊は三日午前、下花園附近で爆撃、他三ヶ所に於ても輸送中の列車に爆撃を加へて多大の損害を與へた。やはりこの朝、我飛行機は通州東方約二里の燕郊鎮に集結せる多數の第二十九軍兵並に冀東保安隊の敗殘兵を發見爆撃を加へた。香月司令官は今大變による平津地方の窮民救濟基金として銀十萬元を治安維持會に寄贈した。天津では萬國橋の通過も許可され、市内の交通は常態に復し漸く明朗な氣分が漲り始めた。

四日 平綏線による中央軍第八十四師の輸送列車に對しては三日に午前午後二回の爆撃を行つたが、その爆撃を免かれて懷來、下花園兩驛に逃込んだ裝甲列車に對し四日前三回目の爆撃を敢行、又同線榆林堡驛及び同驛の中央軍の軍用列車七十輛を爆撃し、内二十輛は爆破顛覆し、更に新堡安驛東方を進行中の中央軍軍用列車を爆撃、多大の損害を與へた。又南雲部隊は四日夕刻戒臺寺(長辛店南方三里)を攻撃し敗殘兵三十を捕虜とし、岡崎部隊は正午頃良鄉附近にて機關銃を有する七八十名の敵兵と遭遇しこれを南方に潰走せしめた。平津地方平常化に伴ひ天津、北平間に列車の開通を見た。南京より濟南に歸來した韓復榘は四日わが有野總領事に會見を求め、右翼軍總指揮に任ぜられを承ることは絶對になく責任として山東の治安維持の全責任を持つ覺悟なる旨を言明した。

五日 河北、察哈爾兩省における中央軍は總兵力二十萬餘となり二十九軍殘兵は三萬に減じた。

銳部隊の増援を得たため守備線は強化され、士氣愈あがる。夜に入つた九時半頃敵の一機は月明を利し上海上空に現れ、焼夷弾を投下し、狄思威路、陸軍武官室附近、陸軍本部附近及び租界内の英陸軍警戒中の北部電話局附近に落下し火災を起した午後十時半には浦東にある敵は我が〇〇隊に向け野砲を以て砲撃したので我方も砲撃、三十分で沈黙せしめ、敵陣地は火を發した午後二時上海を出帆避難民千四百名を満載した長崎丸が呉淞附近航行中支那正規兵の小銃射撃を受けた。英國政府では十八日の閣議の結果、日支兩國に對して和平勸告を行ひ、兩軍の上海撤退を勸告する方針に決定し米佛兩國政府に對し既にその協力方を要請した。日高參事官一行は十八日午前一時青島に無事到着した。青島の事態は益悪化し總領事館では在留邦人婦女子に内地引揚げの勸告を發した北支に於ては午後三時〇〇飛行場を出發した我空軍は悪天候中に南口鎮上空に向つて飛行し、德勝口、清水、延慶縣城を結ぶ一帯の山岳地帯の敵の大部隊に爆撃を敢行した。

道等を爆破したが、十九日には朝來開北、江灣、吳淞方面を偵察爆撃又嘉興市街附近の敵兵及飛行場、襲撃、眞茹賢南大學附近及鐵道線路の密集部隊を爆撃した。午後には第四回目的南京空襲を敢行南京火藥廠を爆破し遊撃の敵のノースロップ機一臺を撃墜したが、午後八時頃には南京參謀本部及軍官學校を爆撃し構内各所に大火災を起さしめ我軍は損害なく夜間飛行で全機無事歸還した。この四回にわたる空襲で南京は極度の恐怖状態を現出してゐる。陸上では十八日夜軍艦〇〇が入港して有力な増援部隊が來着したため、十九日は午前零時から二時迄の間に敵兵數百名が東華紡附近に襲來して租界侵入を企てたに對し、早速この新鋭の増援部隊が出發して猛烈な反撃を加へて激戦約二時間を経て退した。更に増援部隊到着の結果士氣揚り租界東部から黃浦江に沿うて滬江大學方面へ進撃し、午前九時半には同方面にある招商局埠頭を占據した。一方對岸浦東へは敵の第十一師と第五十九師の新手が龍華方面から進出して我軍の背後を脅威して居るので黃浦江上の我軍艦は十八日夜と十九日朝、これに猛撃を加へた。租界及支那

街方面は極度の食糧難に陥り、暴動の懸念が濃厚となつた。ソ聯領地内某所で組立中の戦闘機九機が十九日中に組立完成し近くプリアイト人の飛行士十數名とともに上海に到着する旨の情報が入つた。午後三時英、米佛、三國に對し支那側は十二時間の期限付で、列國軍艦は日本軍艦より五哩の距離に轉鑄されたと通告したが各國とも拒絶した。北支に於ては依然南口が激戦地帯で、南口の西南方の地點で激戦が行はれたが、十九日未明にも山砲の掩護射撃の下に拂曉の山岳戦が行はれた。敵の中央軍は十重にわたる山岳部に戦線を張り、堅固な陣地を構築して居る。

二十日 空襲部隊は相變らず壯絶な急襲を續ける。午前九時には廣徳飛行場を襲ひ、大格納庫を爆破、離陸準備中の敵機四機は側杖を食つて顛覆し、續く空中戦では敵のカーチス三型戦闘機五機を激撃し四機を撃墜した。更に一隊は九江飛行場を爆撃、大型兵舎一棟を完全に爆破した。我軍に損害なし又一方上海附近の空爆では南市の支那造船所である江南機器局を完全に爆破、南停車場、兵器廠へも爆撃を敢行した。北部戦線にも同様

形式で同宣言が飽く迄國際正義に立脚せる自衛的手段の範圍を出づることなき旨を明かにした。上海では我陸戦隊進出の結果、租界も漸く安全になつたため復歸をはかるものが多くなつたが、長谷川司令長官は租界内の治安尙十分ならずとして支那軍の復歸進入を禁じ、外人にも自發的に復歸見合せを勸告することとなり其旨布告を發した。英大使ヒューゲン氏は財政顧問武官等一行と二臺の自動車午後二時頃南京から上海に向ふ途中、上海から五十キロ南方の地方で飛行機の爆撃に遇ひ、大使は貫通銃創を負つた。生命には別條なきも武官は日本飛行機により狙撃された旨報告して居るので英國政府も事件を重大視し、我海軍でも事件の真相調査を現地の管下各部隊に命じた長城の天嶺居庸關の一部は先に占據したが、午前十時、千田部隊は敵の夜襲を退けて上關を占領し、一宮部隊は敵を猛追して午後一時半途に八達嶺を占據し山頂高く日章旗を掲げた。この地上部隊に協力して我が空軍は悪天候にも不拘、南北戦線に出動し、島田園田兩部隊及び中富部隊は馬廠兵營を爆撃、中富部隊の一部は王口鎮に陣地構築中

の敵を爆撃した。一方栗山、柴田兩部隊は北部戦線の敵及察哈爾省から西方方面へ敢走する敵を爆撃して、地上部隊と協力した。

二十七日 敵前上陸以來五日を迎へた上陸部隊は二十六日夜はじめて平靜な一夜を送つたが二十七日拂曉敵は我應森部隊の最左翼及び倉永部隊の最右翼に向つて猛撃を始め激戦展開されたが、我海軍、空軍の爆撃に敵は沈黙し我右翼部隊は水田中に激烈な白兵戦を演じた後敵の第二線を突破し〇〇を占據し、敵の主力部隊も同時に西方に向け後退を開始した。今朝來〇〇部隊は殷行鎮の敵を砲撃して午前十時同地を占據し後續部隊も朝來上陸を開始す。〇〇部隊は敵左翼部隊を逐次東方に壓迫して二十七日夜半には既に〇〇を完全に確保した。我海軍〇〇航空隊は第九次南京空襲を行ひ、警備司令部、兵工廠、新造中の飛行場その他軍事上の要點を爆撃した。南京はこの數次の空襲に怯えきつて、國民政府内部の動搖が著しく、政府官吏中地位を棄て、逃亡する者續出するとのこと傳はれる。一方關東軍〇〇部隊は午前十一時張家口に入城、麥倉奈良部隊は夕刻、康莊

延慶に入城した。我が皇軍は大同及び蔚縣方面に潰走の敵を爆撃、下花園にあつた湯恩伯總指揮の作戦本部は完全に破壊された。平漢沿線に於ては午前九時には良郷西方の三九五高地を占據、午後五時には揚子崗北方三八二高地の敵陣地を占領した。この高地は敵の最大要地であつたが奪取戦では空陸の作戦が理想的に進捗した。

二十八日 上海上陸部隊の精銳は二十六日から二十八日拂曉にかけて約四十時間に亘る激戦に於て敵の左翼點である羅店鎮を完全に占據、これは殷行鎮占據とともに敵にとつては大打撃であつた。我軍艦は二十六日夕刻、浦東南支の敵軍を砲撃大損害を與へた。敵は北停車場附近から江上の我軍艦を砲撃したがこれは開北戦線に増援の中央軍第三師の砲撃と見られる。更に大場鎮方面の敵陣地から野砲を以て租界を爆撃して來た。二十八日夜北停車場方面の敵陣からガスタ號附近に多數落下し一時迫撃砲はまたも、米艦オーガスタ號附近に多數落下し一時危険に瀕した。北支に於ては昨日三八二高地占領で有利な戦況を齎した平漢戦線では、桑峪村方面から敵の右翼をついた羽鳥部隊は廿八日朝來琉璃河北岸の

爆撃を加へた。敵機も午前八時虹口方面へ六機を現し爆撃を投下したが被害はなかつた。夕方にも三機現れ軍艦〇〇へ無駄な爆撃を投下した。十九日東部戦線の敵が楊樹浦方面の租界内に侵入し機關銃で我軍を攻撃して來たため、深夜の市街戦が演じられ、敵の装甲車まで出動したが二十日拂曉退却した。この戦闘中北停車場附近からの敵の砲撃で虹口地帯の邦人二名が傷いた。この戦闘で逃げ遅れた残敵が便衣隊と共に諸所で抵抗するため朝から殘敵掃蕩作業に多忙であつた。二十日晝から夜にかけての交戦で浦東及東プロードウエー附近五ヶ所に火災が起つて火の海となり南洋煙草會社や我が日華紡工場も燃えた。夕刻、米艦オーガスタ號後甲板に高射砲弾が落下し水兵一名即死し負傷者十八名を出す事件が発生した。支那側の砲撃である見られる。北支に於ては十九日夜半から長辛店南方六重の地點で涿縣方面から北上した有力な中央軍が突然攻撃して來たため直に應戦し戦闘は廿日朝に及んだ。良郷にある六百の敵は午後二時我飛行機偵察に驚き大房山方面に潰走し、我軍は豪雨を以て追撃した。二十日の定例

十七機と遭遇し壯烈な空中戦三十
十分の後敵九機を撃墜、他の一
機に損傷を與へて潰走せしめ我
軍は損害なし。一方我〇〇部隊
の上陸擁護のため〇〇方面に爆
撃を敢行、その他、大場鎮、江
南機器局、新公園北方の上海鐵
道線路附近、浦東の爆有力部隊
に夫々爆撃を加へた。我陸軍は
愈々上海に到着、海軍と緊密な
協力の下に早朝某方面の上陸
に成功し、午後我〇〇艦隊は陸
海協同の實を發揮する旨の重大
聲明を發した。北支に於ては良
郷方面では朝來西方の北東營附
近で激戦展開、一方居庸關の一
部は午前六時我軍によつて陥落
した。津浦沿線では豪雨中を赤
柴部隊が苦闘の後、三十八師の
主力部隊約三千を潰走せしめ、
敵は靜海方面へ退却した。蒙古
軍政府最高首領部徳王は察哈爾
盟、錫林郭勒外四旗に對し不法
侵入した中央軍及び共產軍撃破
のため八月十日から軍事行動を
起したが二十三日夜は日本軍と
協力し潰走の敵を追撃す。

退却北支戦線では我が陸戦隊に
對し彭浦鎮から砲撃を敢行した
が、我が砲火により全く沈黙し
東部戦線は小衝突のみで我が軍
攻勢裡に夜を明したが、午前八
時半頃から浦東側の敵陣から我
が〇〇艦目がけて迫撃砲による
猛射撃を浴せて来たので應戦し
午前九時半〇〇艦の主砲で敵陣
を粉碎、我が空軍も出動し盛に
敵陣を爆撃した。陸上部隊に呼
應して上海附近では我海軍機は
崑山、嘉定、太倉方面を爆撃し裝
甲車數十臺裝甲列車一臺を爆破
し更に再び崑山鐵橋爆撃を試み
完全に破壊す。一方では陸軍に
協力して永安紡績並びに吳淞鎮
を爆撃し多大の損害を與へた。
更に海軍〇〇航空隊は新たに浙
江の寧波、安慶の首都安慶の飛
行場を爆撃して多大の損害を與
へ午後九時半頃には又も南京城
外飛行場を爆撃し多数飛行機を
爆破、炎燒せしめた。その際空中
戦の結果我一機に負傷者一名を
生じたが全機無事歸還した。平
緩戦線の空陸共同攻撃は着々奏
功し、大恒山脈の峻嶺を利して
五箇師を總動員し北平北方の我
軍を猛攻した中央軍も遂に長城
線から潰走し、追撃中の千田、
奈良兩部隊の主力が二十四日早
朝居庸關南門を占據、更に午後

北門を占據して完全に居庸關を
確保し、連日來の豪雨のための
悪路をついて更に追撃を行つた
一方坂田部隊は松樹鎮を占領し
た後、二三〇高地の最高望樓
一、三九〇高地を占領したが、
この部隊の左翼から十日に行動
を起した永野、山田及び栗飯原
部隊は百嶺口、鎮邊城を占領し
た後二十四日長城線を占領し、
愈々懷來平野へ向つて進撃を開
始した。南京政府は我軍の奮進
と空襲に脅威を感じてか九月二
日を期して、重慶遷都を行ふ準
備を開始したと傳へられた。

掃射を行ひ、正午には江南機器
廠を爆撃したが午後三時頃上海
上空警戒中敵のマルチン型重爆
機三機來襲したため交戦して内
二機を撃墜したため一機に損害を
與へ、それが虹橋飛行場に不時
着するや追及して銃撃を加へ灰
燼に歸せしめた。敵のマルチン
機四機は更に午後五時頃陸戦隊
本部に來襲したが我砲撃により
一機撃墜し吳淞鎮方面にも同時
刻に敵のノースロップカ機來襲
我〇〇部隊に掃射を浴せたが、
一機を撃墜す。午後八時にもマ
ルチン爆撃機二機現れ、敵は逆
襲を企圖せる模様である。平漢
線方面で早朝良野附近坨里村方
面で空陸一體の總攻撃が行はれ
附近の要害を占據、空軍は第一
回滿水河、第二回平頂山に爆撃
を行ひ地上部隊も平頂山目指し
て激戦を行ふ。平緩戦線では
二十四日長城線の一角を越えて
懷來平野に進出した我が長野、
山田、相原の三部隊はこの朝も
引き続き攻撃續行、懷來方面の敵
陣地を猛撃す。

二十六日 中南支沿岸に於け
る支那船舶の交通遮断に關し、
外務省は航行遮断は自衛的措置
であり、帝國海軍は第三國の平
和通商を尊重するものなる旨聲
明を發表し、海軍でも副官談の

敵を制壓したが午前七時頃楊家
宅東方端の敵陣地に對し猛射を
浴せ、航空隊は晝より夜へかけ
て江灣鎮、大場鎮方面の敵陣地
に爆撃を加へ、夜に入つては敵
の後方に照明弾を投じて敵の企
圖を攪亂し爆撃を加へた。一方
永津部隊の一部は羅店鎮の殘敵
を追撃し午後三時頃羅店鎮西方
約一里の地點を確保す。羅店鎮
上空では空中戦が行はれた。陸
戦隊は拂曉開北方面からの敵の
砲撃に對し應戦し、同地區内に
敵密集部隊を發見し巨砲を以て
痛撃しこれを潰滅せしめた。尙
空軍は午後三時四十分、國民政
府が軍用及び對歐米逆宣傳に
使用中の眞茹無電臺に對し第二
次爆撃を敢行し、無電臺建物四
臺中三棟を倒壊、一棟を全く破
壊した。北支に於ては完全に我
軍が確保した平緩線中北平、張
家口間に列車の運行が開始され
た。目下八達嶺のトンネルだけ
が通行不能である。平緩線方面
では進撃中の長谷川部隊は一日
懷安鎮及び永嘉堡(山西省)の敵
を撃退して完全に同地を占據し
た。二日の臨時議會に於て今回
の事變は今後「支那事變」とする
ことに正式決定した。

側からの敵の猛射により又激戦
が開始された。即ち午前十時我
が哨戒艦の監視を冒して共同租
界から浦東に渡らうとするジャ
ンクを制止しようとした處、突
如射撃して来たので、之に應射
轉覆せしめた處、これを救はう
としてか數百の便衣隊の正規軍
(五十五師を主力とするもの)が
浦東側の江岸に現れて我艦船、
總領事館方面に對して機關銃を
猛射、更に米艦オーガスタ號、
佛艦ラモット、ビケ號等の蔭に
かくれて迫撃砲を以て射撃して
来たため、我方も艦砲を以て應
戦、午後三時漸く制壓したが、
敵は午後五時四十分再び我領
事館方面目掛けて砲撃を開始、
共同租界方面は盲目的敵弾に被
害多く、我が總領事館において
も四名の重傷者を出し、虹口地
區内には重傷者續出、遠く南
京路競馬場に落下した一弾は外
國員住居地域に對する暴虐行爲
に對し我が軍は極度に憤激し、
空軍は浦東の敵砲兵陣地に向つ
て盛んに爆撃し、浦東側には火
災起り、我陸戦隊と共に上海上
陸、陸軍部隊は始めて参加協力
砲門を開いて猛攻撃を續けた。
戦線は夜に入つても續き、我が
空軍は敵陣地に夜襲を試みた。

上海北部戦線では鷹森、倉永兩
部隊は三日拂曉から吳淞砲臺及
寶山附近の殘敵を掃蕩しつゝ沈
家宅大金家村を結ぶクリーク一
帯を占據して吳淞鎮から西北八
キロに亘る線を確保した。我が
海軍航空隊〇機は午後常熟を空
襲して敵の豫備隊として集結し
つゝあつた密集部隊に對して猛
撃を加へた。一方驅逐艦〇隻は
午後一時頃廈門港内に進入して白
石砲臺、飛行場、湖里山、大盤
角砲臺に猛烈な攻撃を加へ敵に
甚大な損害を與へた。北支では
平緩線列車の運行により、十河
大泉兩部隊が同列車で〇〇方面
に勇躍出動した。津浦線方面で
は中井部隊は二十九軍百三十二
師の殘黨を子牙鎮に壓迫した。
察哈爾省の政務は劉汝明の逃走
以來治安維持會代表によつて代
行されて居たが、張家口にて三
日省内各界代表參集協議の結果
南京政府から分離獨立して察南
自治政府を創立することに決定
した。懷來に於ても三日治安維
持會が成立した。今回の支那事
變對策を樹てるべき第七十二臨
時議會は三日召集された。

四日 前日の廈門攻撃に引續
き四日午前十一時我が海軍〇〇
艦〇隻は航空部隊と相呼應して
汕頭南方汕尾及媽宮に對して攻
撃を開始し、更に午後一時から
兵力増加し敵に多大の損害を與
へた。上海戦線では海軍航空隊
の徹底的爆撃の快撃が行はれた
まづ前日の浦東、開北方面の敵
に對し四日早朝まで爆撃を實施
し浦東の金家巷鎮附近及び開北
北、停車場附近の敵には大動搖
の色が見え、更に我が空軍は午
後二時頃南翔附近で迷彩せる裝
甲列車數十臺を認めこれを爆撃
し、又支那軍が安全地帯として
開北方面の作戰據點に利用中の
英米警備區域隣接地區にある砲
兵陣地に對して租界上空飛行を
避けて急降下爆撃を敢行した。
一方我が陸軍前線を警戒中の一
隊は正午頃劉河鎮附近で敵のカ
イチスホーク三機を見發、わが
〇〇機二機を以て追撃し、更に
現れた敵の三機と空中戦闘を演
じ敵機三機を撃墜し一機に多大
の損害を與へた。上海北部戦線
に於ては吳淞砲臺を占據後寶山
城に向け前進中の鷹森部隊は、
三日朝寶山城を隔てた七百メー
トルの楊行鎮に通ずる道路の並
木附近までせまり獅子林砲臺占
據後南下した淺間部隊と協力し
て四日一舉に寶山城攻撃の態勢
を執つた。我〇〇海軍航空部隊
の〇〇機は午後八時頃臨海線東
端の軍事要點たる海州の軍用施

設を爆撃して敵に多大の損害を與へた。北支に於ては津浦戰線では赤柴部隊が唐官屯、馬廠附近の敵陣地を攻撃、飛行隊も降雨中を協力爆撃を行った結果、午後四時唐官屯（天津南方七十キロ）を占據、同時に津浦と平漢線を結ぶ唐官屯保定間の自動車路も我が軍の手に扼された。我が空軍は午前七時唐官屯爆撃に引續き敵の主力部隊の本據たる馬廠に爆撃を加へた。

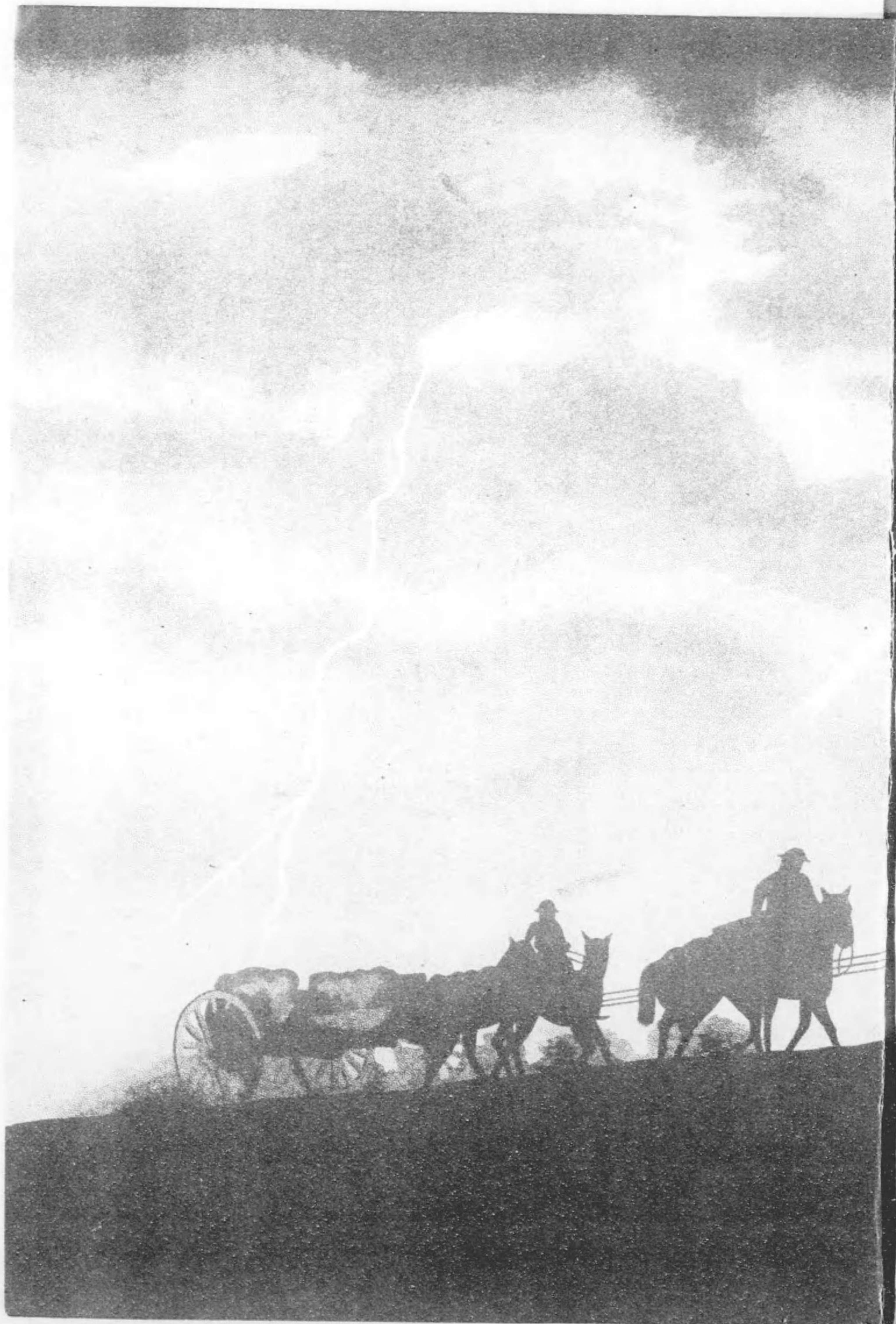
五日 去る八月廿五日の宣言により支那船航行遮断區域を全支の海岸に擴大、五日午後六時以後實施する旨我海軍當局並に外務省から公表された。大體山東、江蘇の省境を境界として以北は吉田〇艦隊司令長官、以南は長谷川長官によつて分擔されその内青島、香港、澳門を除いたもので勿論第三國の平和的通商は尊重するものである。この夜香港、廣東間の連絡船泰山號は香港を出港したが珠江入口で我軍艦に停船を命ぜられ、又午後六時香港を隔たる十二マイルの赤灣で支那税關監視船二隻が交通遮断區域を航行して居るのを發見し直ちにこれを拿捕した。その際一隻は發砲して來たので抵抗する船員數名を射殺した。上海北部戰線では四日午後

四時から〇〇部隊の密接なる協力の下に金家宅、曹家濱附近の敵に對し攻撃中の鷹森部隊は頑強な敵の抵抗のため激戦夜に入り、五日朝同部隊は寶山城南側並に金家宅附近の敵に對して砲火力を最高度に發揚して攻撃し偶々淺間部隊が北方から寶山西方地區に進出したのと、鷹森部隊左翼方面に天谷部隊の南方より砲撃前進を開始したことにより、正午頃金家宅附近の敵陣地を突破して寶山城に日章旗を翻すことが出来、これにより淺間部隊と天谷部隊との連絡を完成するに到つた。鷹森部隊の決死挺身隊四十餘名は午後七時頃から敵の物資彈藥の補給根據地である金家宅彈藥庫（金家宅四方一キロ）攻略のため機銃隊掩護の下に突撃し激戦二時間餘に於て午後九時これを占據した。一方三日吳淞砲臺に上陸した安達部隊は五日午前十一時前開始寶山縣西方の淺間部隊と夕刻に到つて聯絡なり、揚子江上流地方に上陸の我〇〇部隊と吳淞上陸の〇〇部隊は完全に聯絡、永津部隊も羅店鎮附近で寶山方面から前進した五、六百の敵を邀撃してこれを全滅し、揚子江沿岸羅店鎮、吳淞鎮を結ぶ江岸一帯は我軍の占據す。

編輯後記

蘆溝橋事件に端を發した日支事變は列國環視の中に電光石火暴戾悔慢なる支那兵を膺懲し以て東洋永遠の平和安定の爲め我國生命線の確保を致したのであります。多年申す迄も無く出版報告に盡瘁せる本會は茲に觀るところ在つて我が權益擁護の爲め或は北支に或は南支に或は上海に善戰健闘よく其の武威を宣揚したる皇軍の忠烈悲壯なる事蹟を永遠に傳へ併て國防精神涵養の爲めに本會眞帖を發行致しました。編纂については不眠不休東奔西走良きが上に良きものと銳意材料蒐集につとめました。いづれ萬難排しての入手したる眞實は東京朝日新聞並に東京日々新聞社の生命を投じ死線を越えての撮影にかゝる貴重な寫眞他に都下有り通信社方々の一方ならぬ御援助を賜りまして選擇は勿論排列、順序、解説等萬全を期し之れを一覽して皇軍の忠勇無双實に鬼神を泣かしむる陣中活躍を知りこれを一瞥して事變の情況を眼のあたり彷彿たらしめようと力を盡しました。依つて本鑑の編輯は北支事變より日支事變日支事變より支那事變と改稱するが如く戰線長期に亘るを以て事變勃發當初より逐次ニュース價豐富なる寫眞輯録し引續いて刊行致します。尊き血と骨を以つて、皇軍奮闘の戰史！他書の追従を許さず是非一家に備へて皇軍の輝かしき偉勳を永遠に讀められん事を、殊に巻頭には上海司令官松井大將閣下の陣中より參謀本部によせられたる揮毫を拜寫の光榮に浴し尙又宮中顧問官總裁三室戸子爵閣下の配慮を願ひし事は錦上添花を添へるの光榮を擔ひ本會一同の感佩措く能はざる次第で御座います。

昭和十二年十月十日 印行
昭和十二年十月十五日 發行
發行所 發行兼 編輯人 齋藤 與治郎
發行所 明治天皇聖德奉讚會
電話茅場町四七五六番
振替口座東京六一五〇〇番



終

